

第2章 単純集計結果

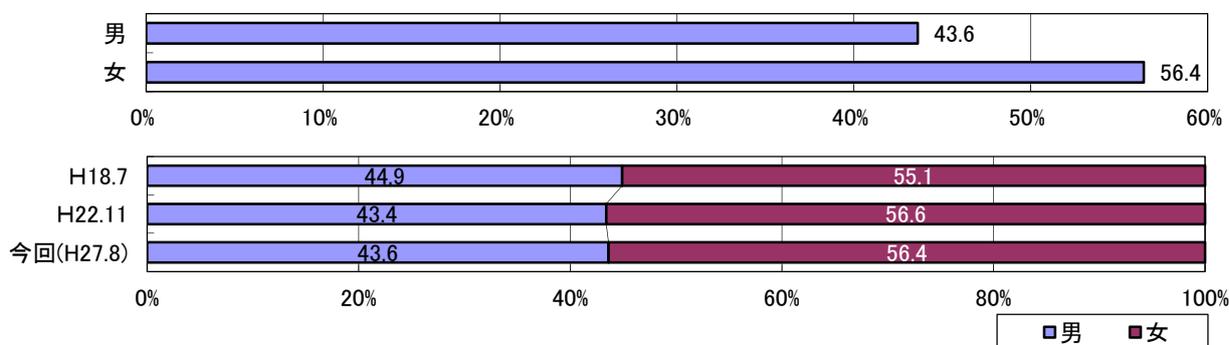
1 回答者の属性

問1

始めに、あなたご自身のことについてお尋ねします。

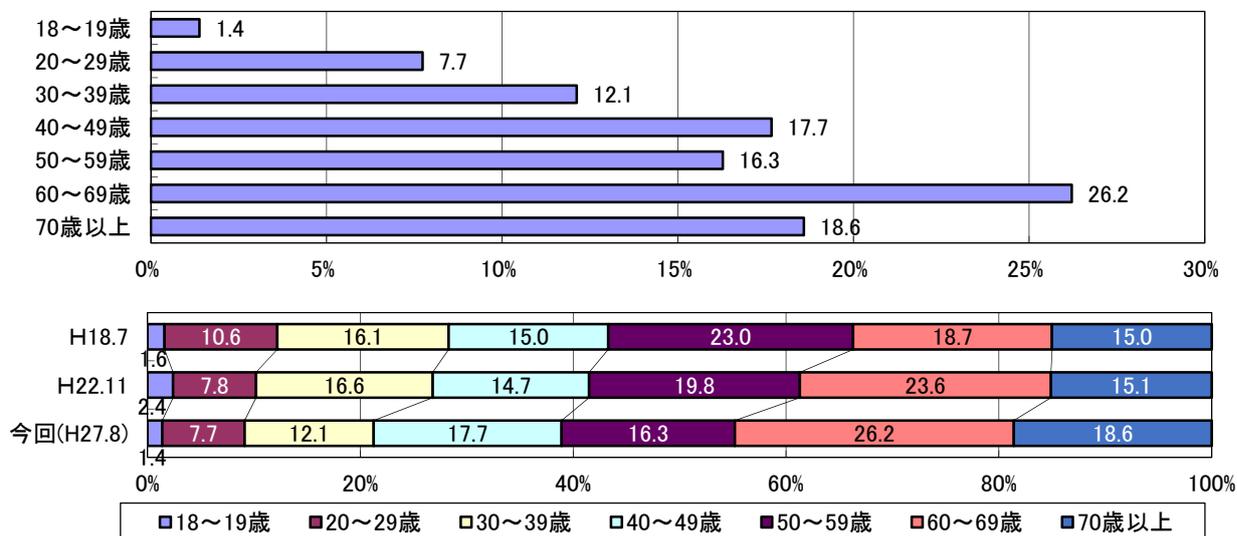
問1.1 性別 (SA)

回答数/回収数		853/877	
項目	回答数	構成比	
男	372	43.6%	
女	481	56.4%	
合計	853	100.0%	



問1.2 年齢 (SA)

回答数/回収数		866/877	
項目	回答数	構成比	
18~19歳	12	1.4	
20~29歳	67	7.7	
30~39歳	105	12.1	
40~49歳	153	17.7	
50~59歳	141	16.3	
60~69歳	227	26.2	
70歳以上	161	18.6	
合計	866	100.0	

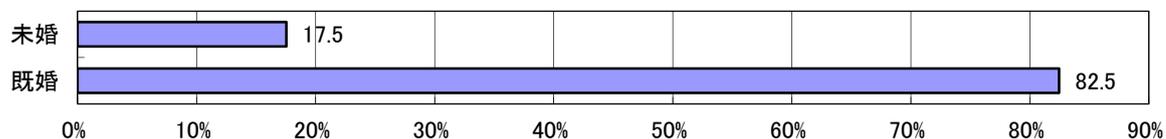


第2章 単純集計結果 1 回答者の属性

問1.3 結婚（SA）

回答数/回収数 855/877

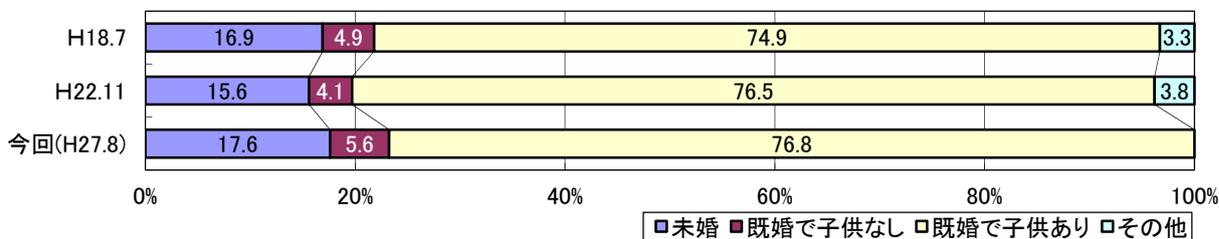
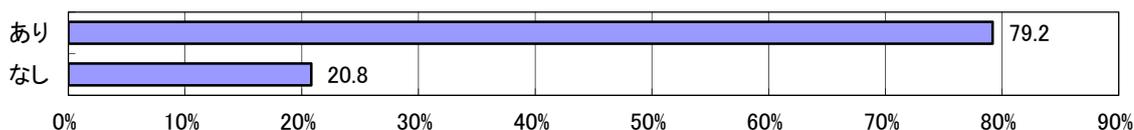
項目	回答数	構成比
未婚	150	17.5%
既婚	705	82.5%
合計	855	100.0%



問1.4 子ども（SA）

回答数/回収数 860/877

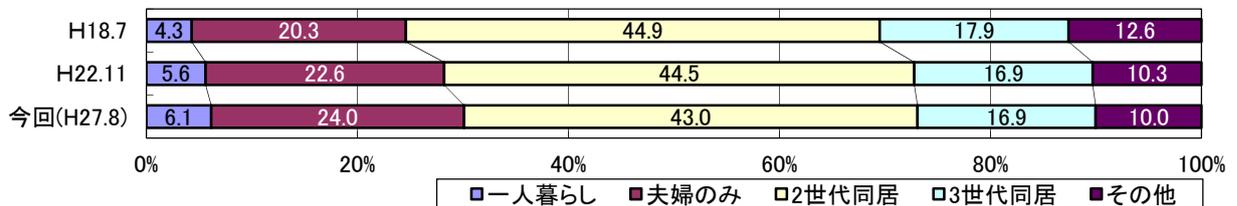
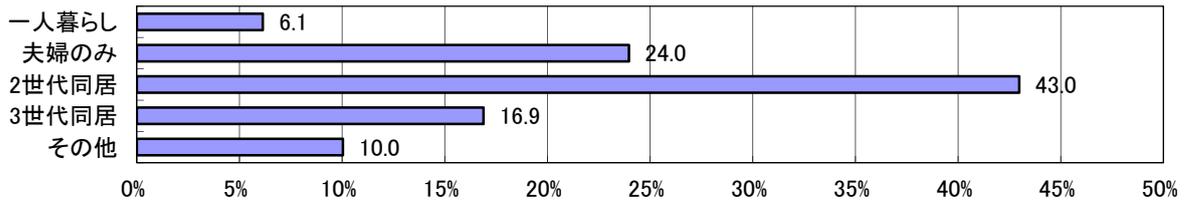
項目	回答数	構成比
あり	681	79.2%
なし	179	20.8%
合計	860	100.0%



問 1.5.1 家族形態 (SA)

回答数/回収数 847/877

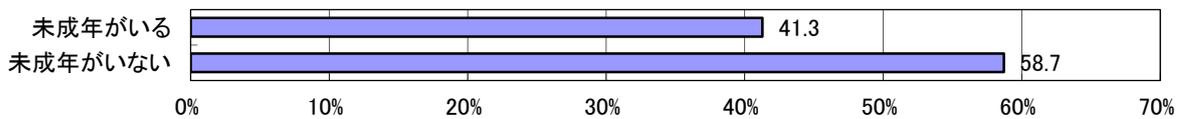
項目	回答数	構成比
一人暮らし	52	6.1%
夫婦のみ	203	24.0%
2世代同居	364	43.0%
3世代同居	143	16.9%
その他	85	10.0%
合計	847	100.0%



問 1.5.2 未成年 (SA)

回答数/回収数 763/877

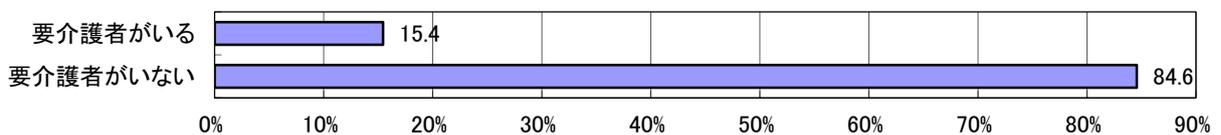
項目	回答数	構成比
未成年がいる	315	41.3%
未成年がいない	448	58.7%
合計	763	100.0%



問 1.5.3 要介護者 (SA)

回答数/回収数 758/877

項目	回答数	構成比
要介護者がいる	117	15.4%
要介護者がいない	641	84.6%
合計	758	100.0%

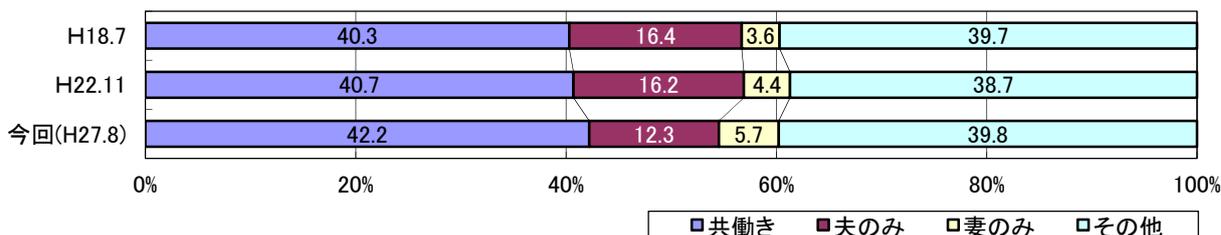
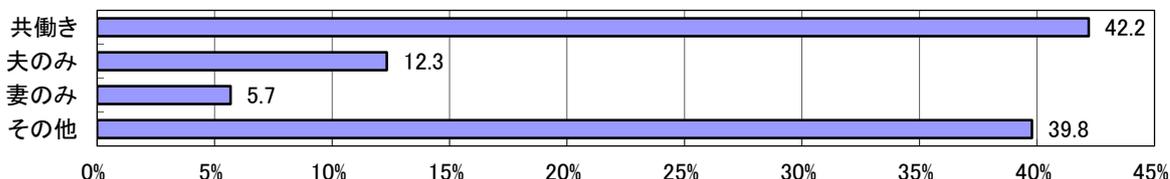


第2章 単純集計結果 1 回答者の属性

問1.6 就業状況 (SA)

回答数/回収数 827/877

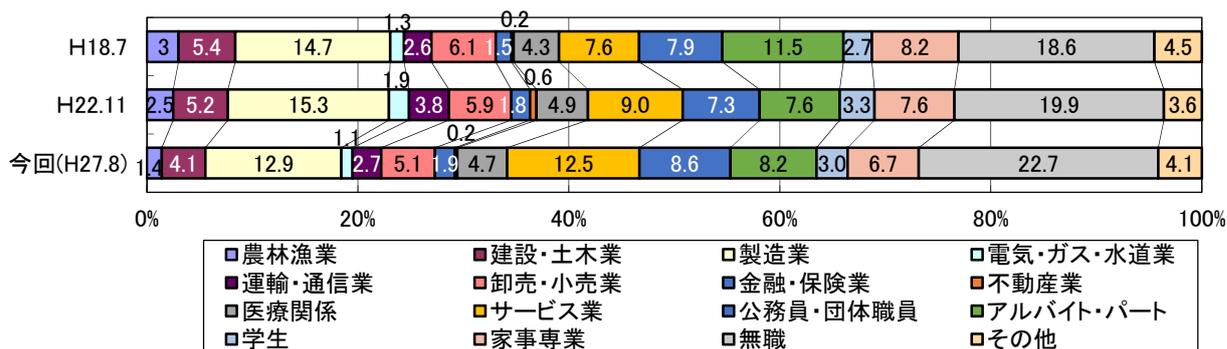
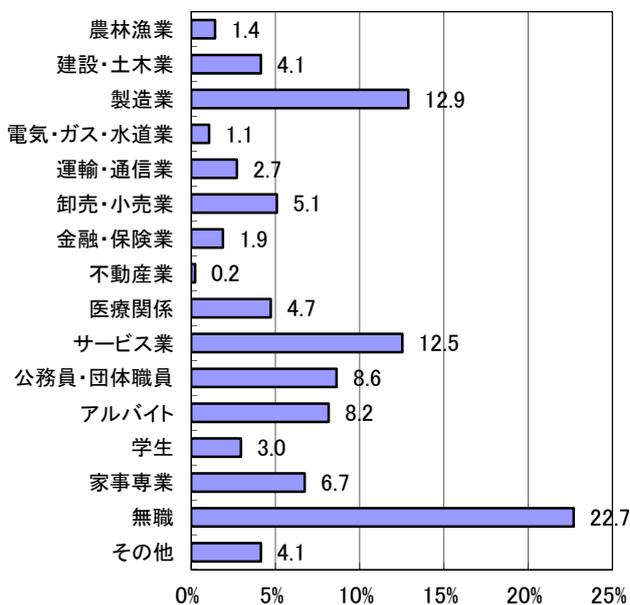
項目	回答数	構成比
共働き	349	42.2
夫のみ	102	12.3
妻のみ	47	5.7
その他	329	39.8



問1.7 職業 (SA)

回答数/回収数 846/877

項目	回答数	構成比
農林漁業	12	1.4%
建設・土木業	35	4.1%
製造業	109	12.9%
電気・ガス・水道業	9	1.1%
運輸・通信業	23	2.7%
卸売・小売業	43	5.1%
金融・保険業	16	1.9%
不動産業	2	0.2%
医療関係	40	4.7%
サービス業	106	12.5%
公務員・団体職員	73	8.6%
アルバイト	69	8.2%
学生	25	3.0%
家事専業	57	6.7%
無職	192	22.7%
その他	35	4.1%
合計	846	100.0%



2 男女の平等意識について

問2

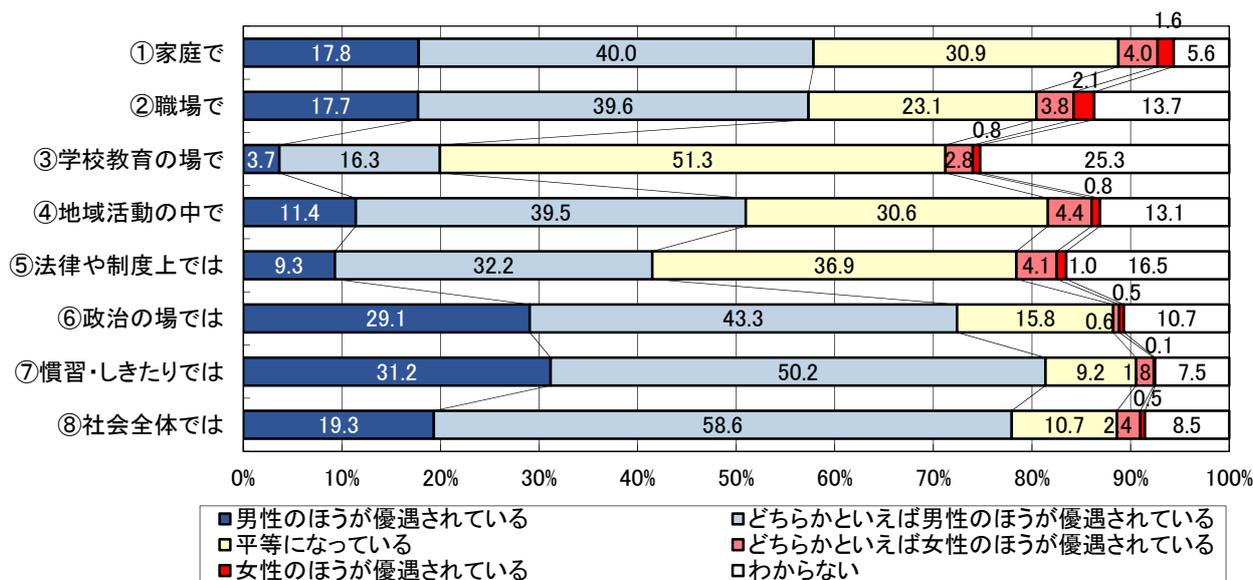
あなたは次の各分野で男女の地位は平等になっていると考えますか。

①～⑧の各分野について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数

854/877

項目	男性のほう が優遇され ている	どちらかとい えば男性の ほうが優遇さ れている	平等になっ ている	どちらかとい えば女性の ほうが優遇さ れている	女性のほう が優遇され ている	わからない	合計
①家庭で	17.8	40.0	30.9	4.0	1.6	5.6	100.0
②職場で	17.7	39.6	23.1	3.8	2.1	13.7	100.0
③学校教育の場で	3.7	16.3	51.3	2.8	0.8	25.3	100.0
④地域活動の中で	11.4	39.5	30.6	4.4	0.8	13.1	100.0
⑤法律や制度上では	9.3	32.2	36.9	4.1	1.0	16.5	100.0
⑥政治の場では	29.1	43.3	15.8	0.6	0.5	10.7	100.0
⑦慣習・しきたりでは	31.2	50.2	9.2	1.8	0.1	7.5	100.0
⑧社会全体では	19.3	58.6	10.7	2.4	0.5	8.5	100.0



<集計結果>

男女の地位の平等感について家庭や職場など7つの分野ごとに聞いたところ、「平等になっている」と答えた人の割合は、「家庭」で30.9%、「職場」で23.1%、「学校」で51.3%、「地域活動」で30.6%、「法律や制度」で36.9%、「政治の場」で15.8%、「社会通念・慣習・しきたり」で9.2%となっている。7つの分野の他に「社会全体」としての男女の平等を感じている人は10.7%であった。

「学校」など、一部で男女平等が進んでいることが把握できるが、社会全体的に男性が優遇されている意識が認識できる。

① 家庭で

家庭では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 57.6%、「平等になっている」と答えた人の割合が 31.1%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 5.7%となっている。

<性別による比較>

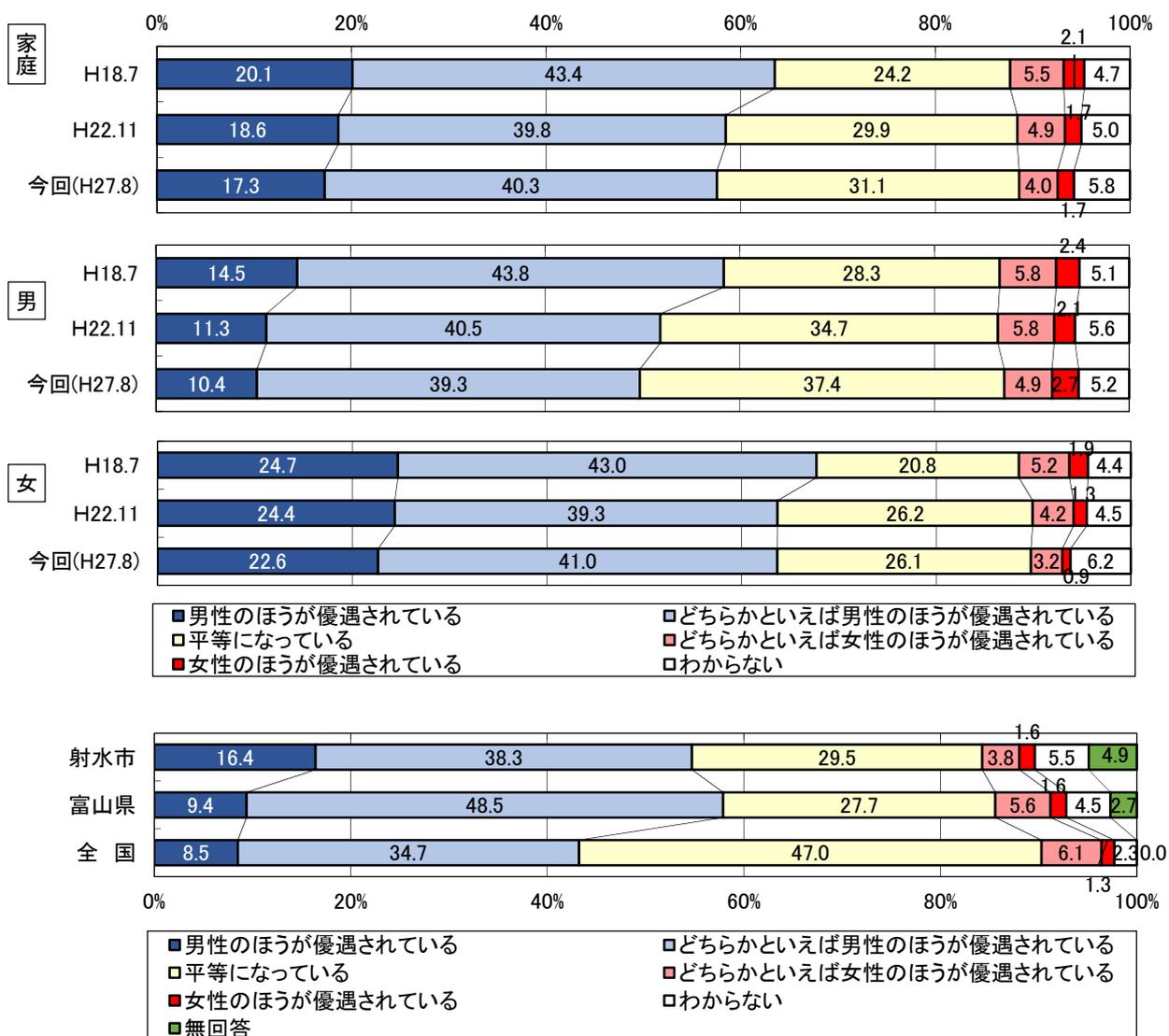
男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（49.7%）より女性（63.6%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（26.1%）より男性（37.4%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 6.9 ポイント（24.2%→29.9%→31.1%）増加している。男性では 9.1 ポイント（28.3%→34.7%→37.4%）、女性では 5.3 ポイント（20.8%→26.2%→26.1%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（27.7%）より 1.8 ポイント高く、全国（47.0%）より 17.5 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

② 職場で

職場では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 57.3%、「平等になっている」と答えた人の割合が 23.5%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 5.9%となっている。

<性別による比較>

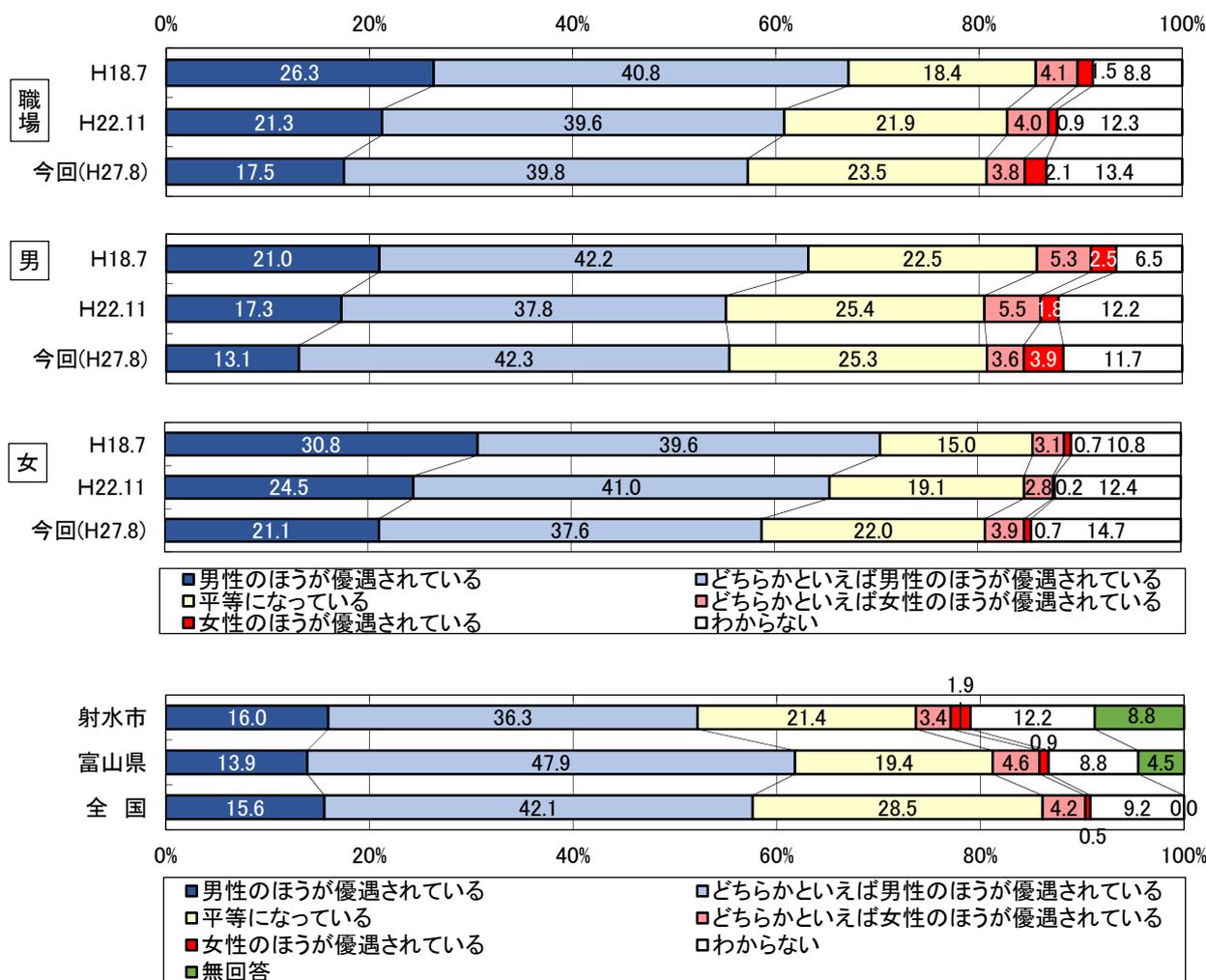
性別に見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（55.4%）より女性（58.7%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（22.0%）より男性（25.3%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

前回調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年から 5.1 ポイント（18.4%→21.9%→23.5%）増加している。男性では 2.8 ポイント（22.5%→25.4%→25.3%）、女性では 7.0 ポイント（15.0%→19.1%→22.0%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（19.4%）より 2.0 ポイント高く、全国（28.5%）より 7.1 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含

③ 学校教育の場で

学校では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 20.1%、「平等になっている」と答えた人の割合が 51.2%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 3.0%となっている。前回調査と同様に、他分野と比較して、「平等になっている」と答えた人の割合が高いが、「わからない」とする人の割合も高い。

<性別による比較>

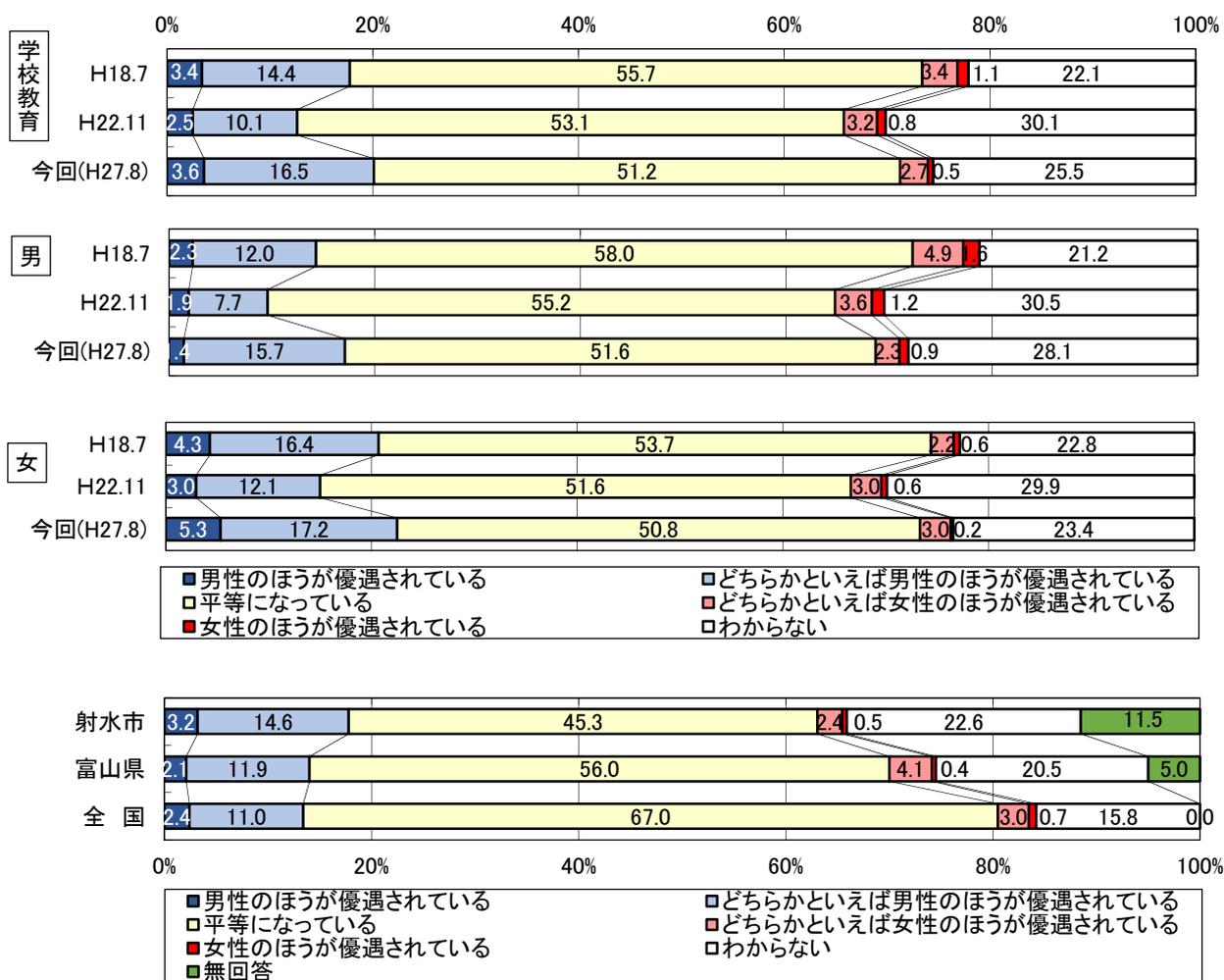
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（17.1%）より女性（22.5%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（50.8%）より男性（51.6%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

前回調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 4.5 ポイント（55.7%→53.1%→51.2%）減少している。男性では 6.4 ポイント（58.0%→55.2%→51.6%）、女性では 2.9 ポイント（53.7%→51.6%→50.8%）減少している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（56.0%）より 10.7 ポイント、全国（67.0%）より 21.7 ポイントそれぞれ低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

④ 地域活動の中で

地域活動では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 51.1%、「平等になっている」と答えた人の割合が 30.6%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」とする人の割合が 5.0%となっている。

<性別による比較>

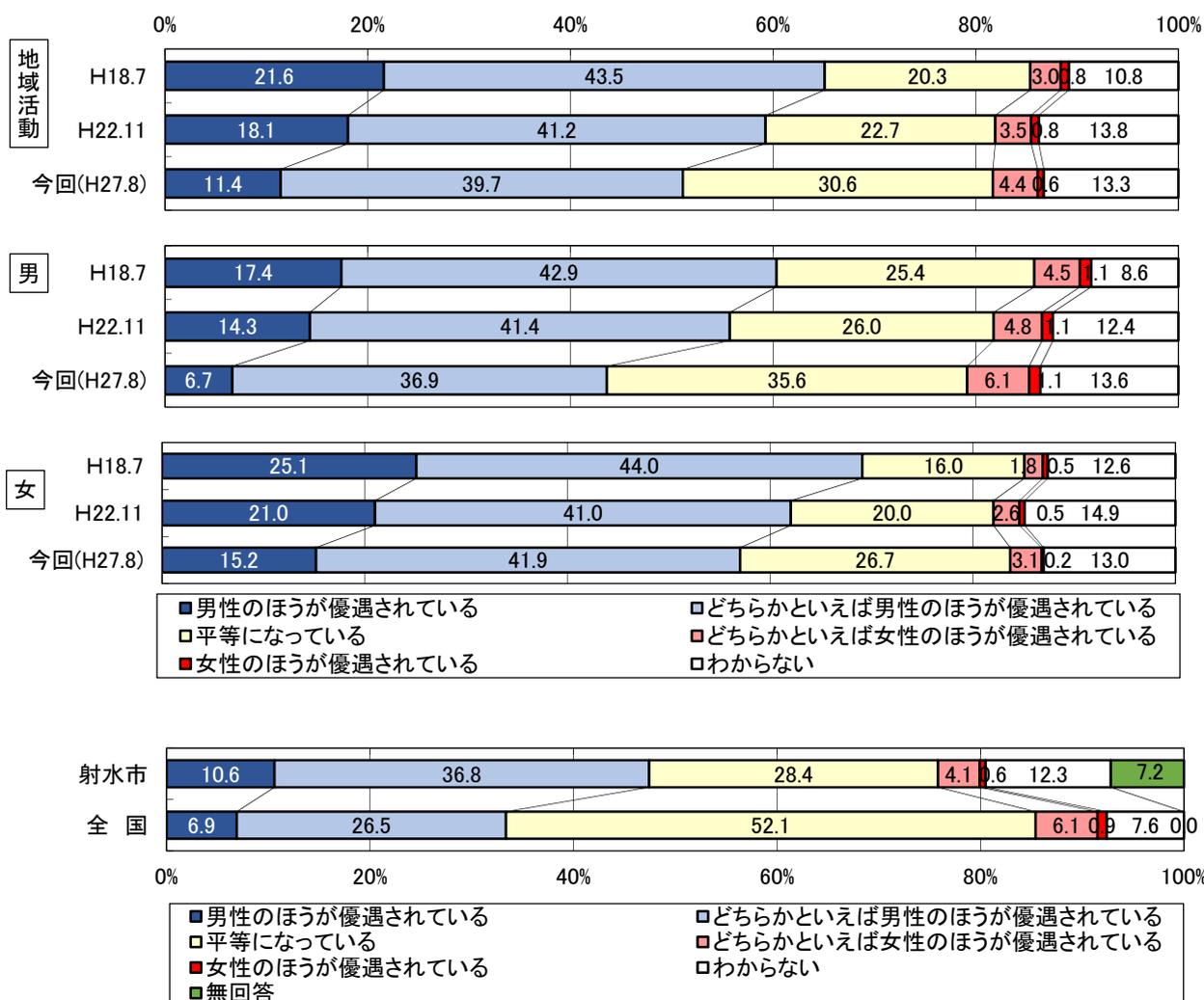
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（43.6%）より女性（57.1%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（26.7%）より男性（35.6%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 10.3 ポイント（20.3%→22.7%→30.6%）増加している。男性では 10.2 ポイント（25.4%→26.0%→35.6%）、女性では 10.7 ポイント（16.0%→20.0%→26.7%）増加している。

<全国調査との比較>

全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、全国（52.1%）より 23.7 ポイント低くなっている。



※富山県調査データなし ※全国との比較は無回答含む

⑤ 法律や制度で

法律や制度では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 41.5%、「平等になっている」と答えた人の割合が 37.2%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」とする人の割合が 4.8%となっている。

<性別による比較>

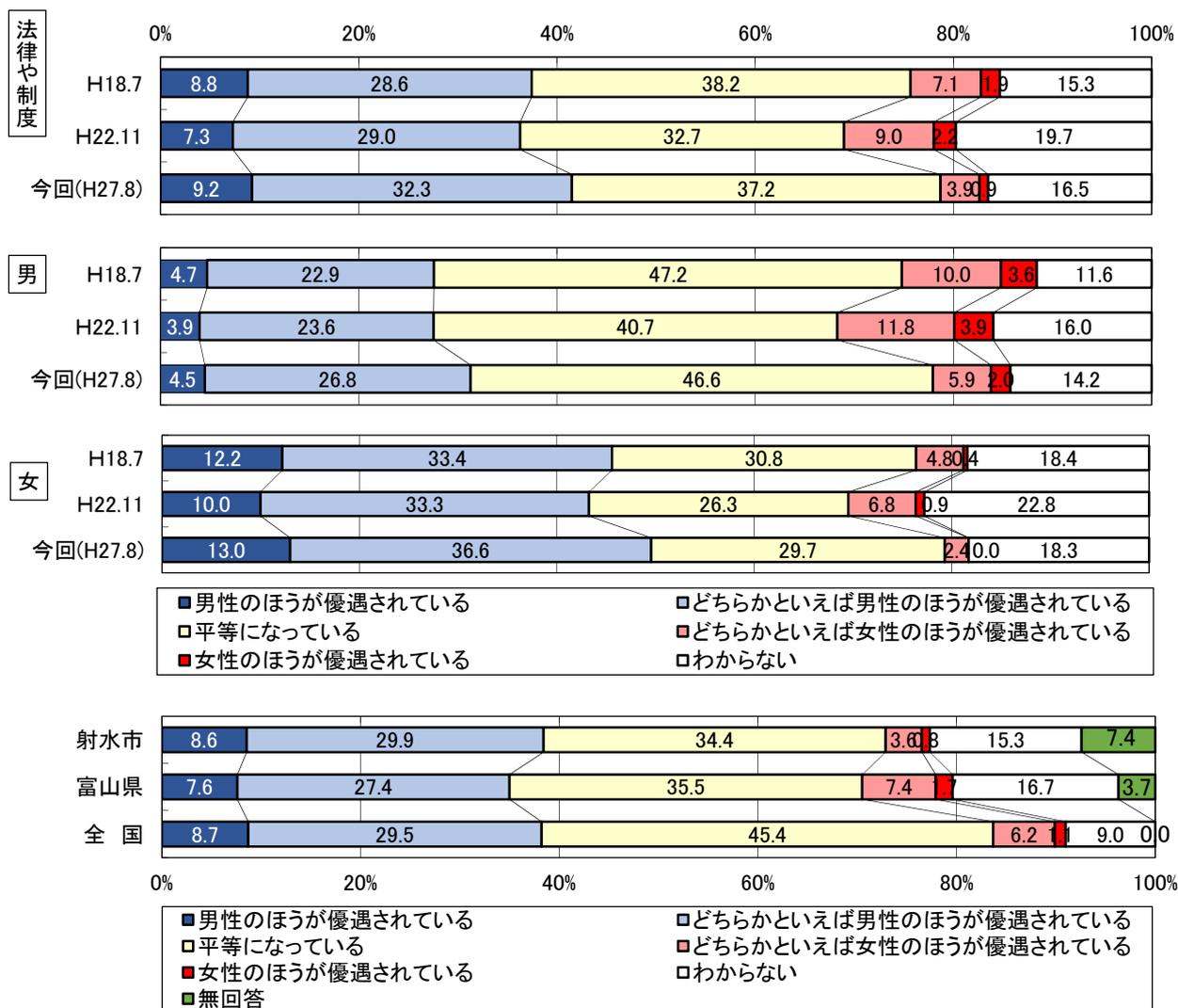
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（31.3%）より女性（49.6%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（29.7%）より男性（46.6%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成18年から平成22年にかけて減少し、平成22年から4.5ポイント（38.2%→32.7%→37.2%）増加している。男性では5.9ポイント（40.7%→46.6%）、女性では3.4ポイント（26.3%→29.7%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（35.5%）より1.1ポイント、全国（45.4%）より10.0ポイントそれぞれ低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑥ 政治の場で

政治の場では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 72.4%、「平等になっている」と答えた人の割合が 15.8%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 1.1%となっている。

<性別による比較>

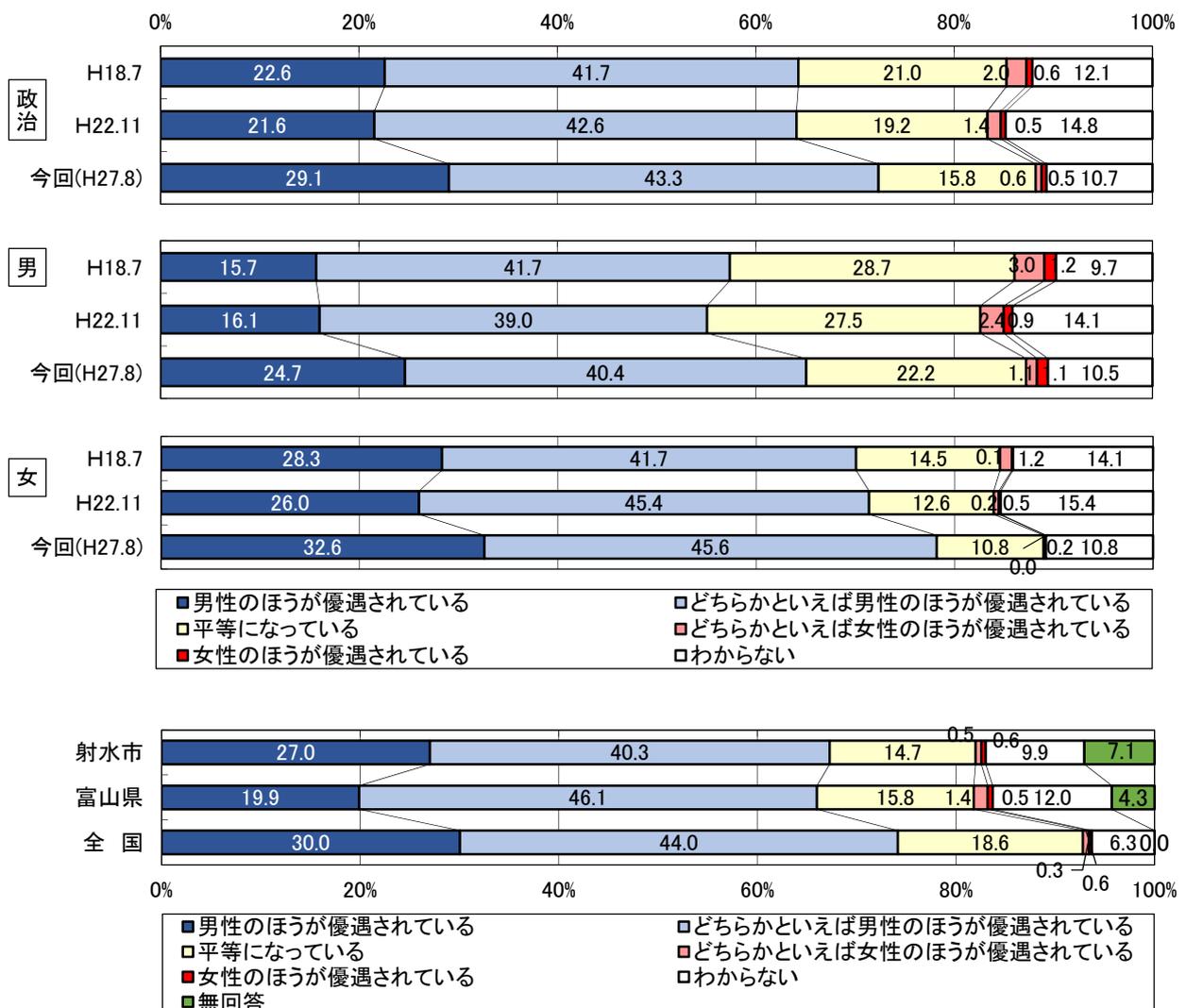
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（65.1%）より女性（78.2%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（10.8%）より男性（22.2%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 5.2 ポイント（21.0%→19.2%→15.8%）低下している。男性では 6.5 ポイント（28.7%→27.5%→22.2%）、女性では 3.7 ポイント（14.5%→12.6%→10.8%）低下している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（15.8%）より 1.1 ポイント低く、全国（18.6%）より 3.9 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑦ 慣習、しきたりで

慣習、しきたりでは、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 81.3%、「平等になっている」と答えた人の割合が 9.2%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 1.9%となっている。

<性別による比較>

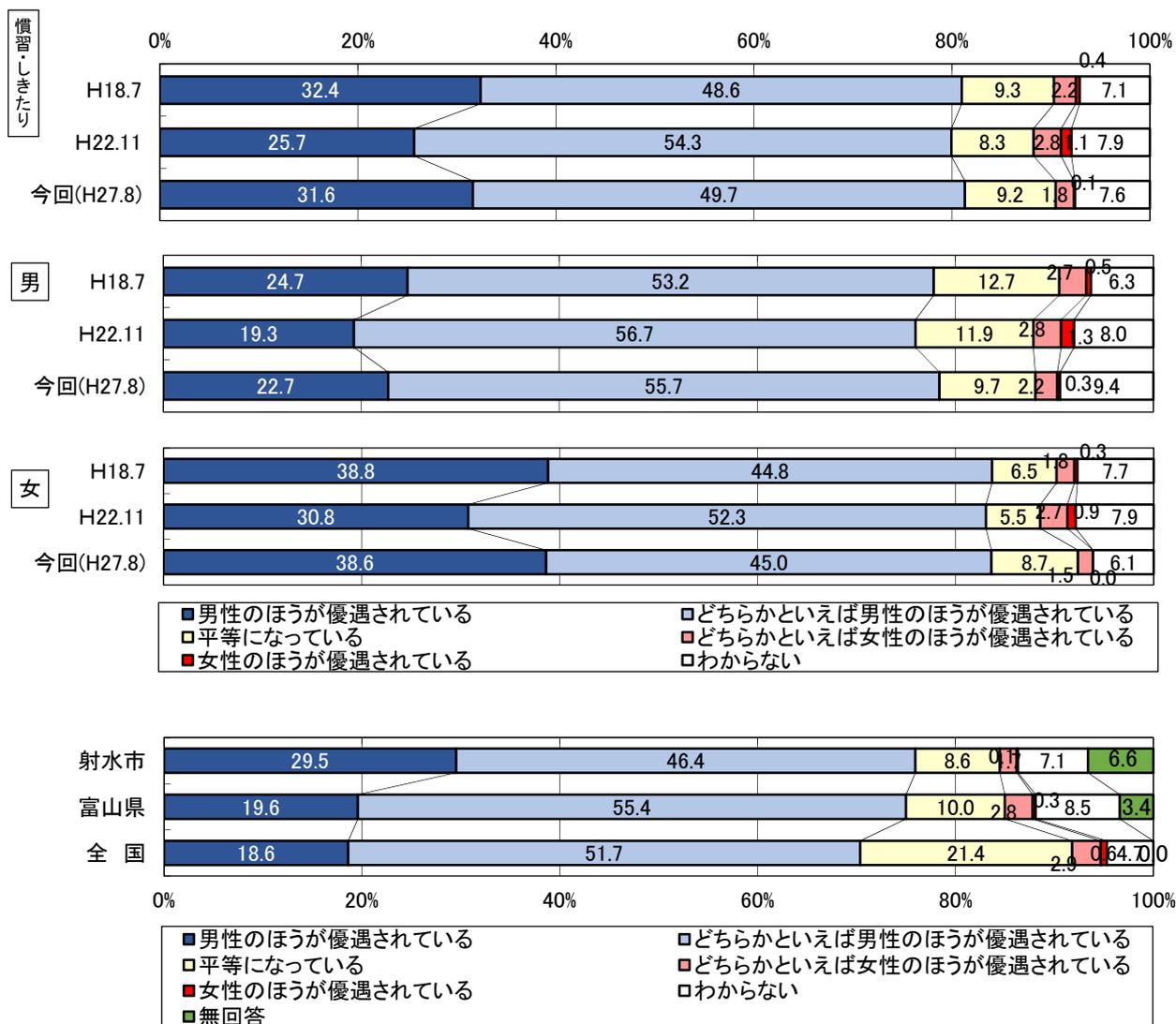
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（78.4%）より女性（83.6%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（8.7%）より男性（9.7%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は 0.9 ポイント（8.3%→9.2%）上昇している。男性では 2.2 ポイント（11.9%→9.7%）低下し、女性では 3.2 ポイント（5.5%→8.7%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（10.0%）より 1.4 ポイント、全国（21.4%）より 12.8 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑧ 社会全体にみて

社会全体にみて、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 78.3%、「平等になっている」と答えた人の割合が 10.7%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 2.8%となっている。

<性別による比較>

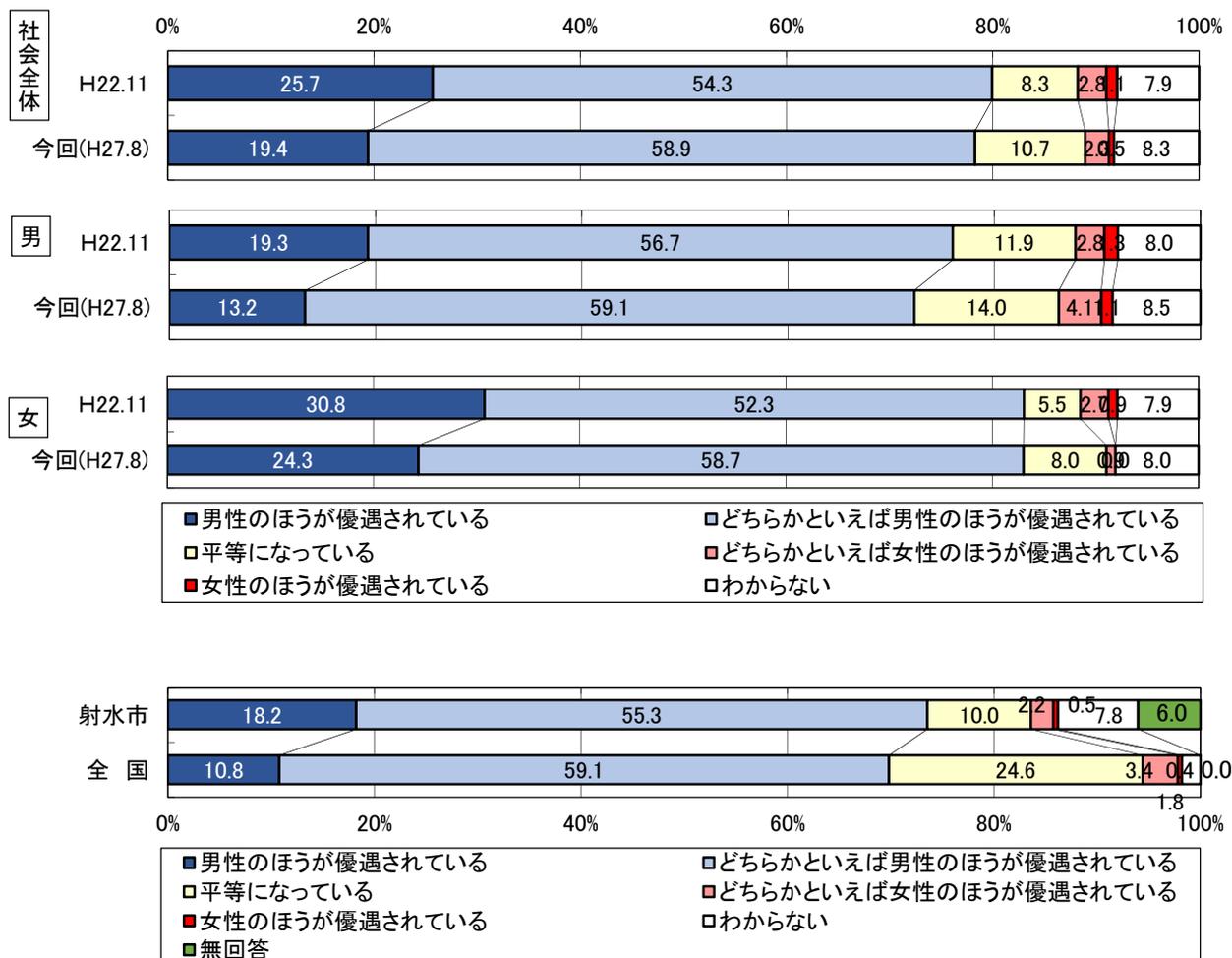
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（72.3%）より女性（83.0%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（8.0%）より男性（14.0%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は 2.4 ポイント（8.3%→10.7%）上昇している。男性では2.1ポイント（11.9%→14.0%）、女性では2.5ポイント（5.5%→8.0%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、全国（24.6%）より 14.6 ポイント低くなっている。



※富山県調査データなし、※全国との比較は無回答含む

3 家庭生活について

問3

次の①～⑧の家庭の仕事は、誰の役割だと思いますか。

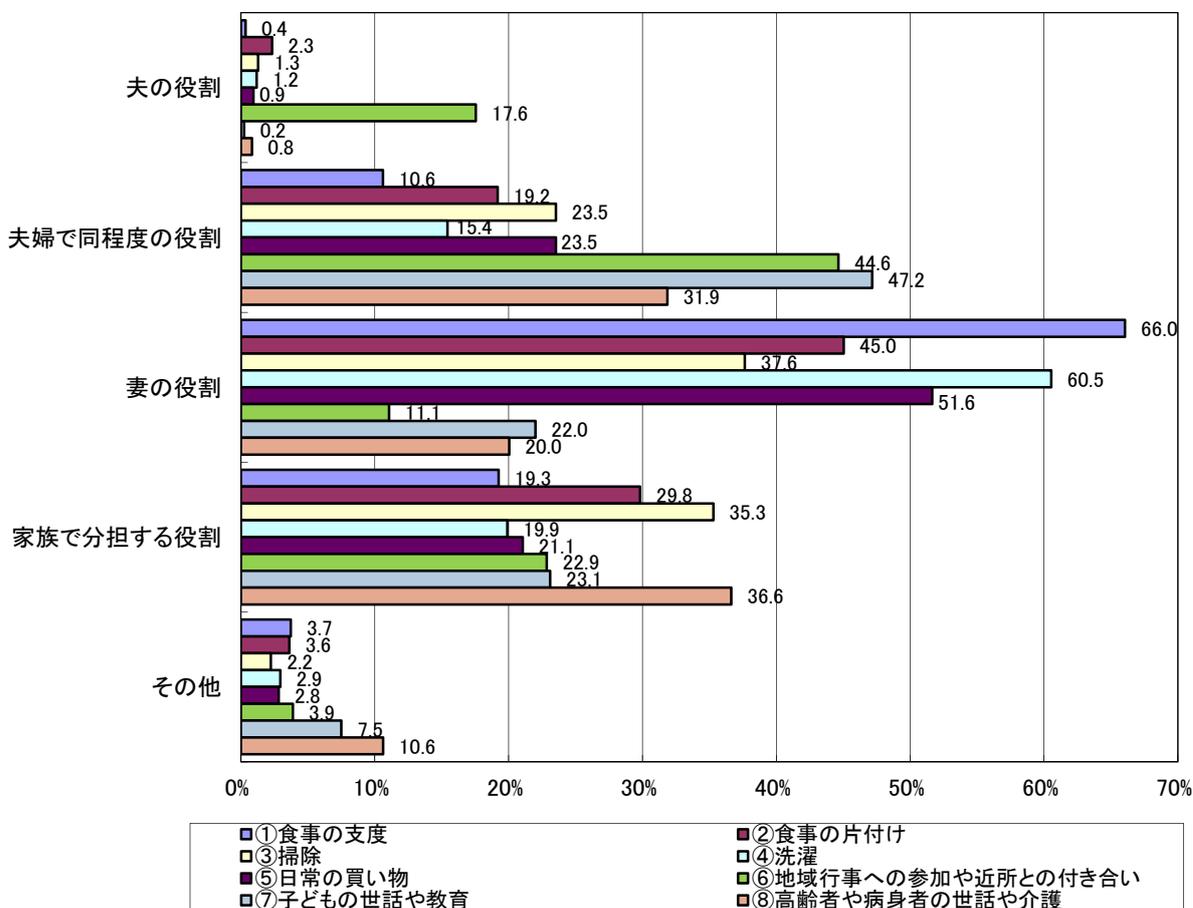
①～⑧の各項目について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 4261/877

(上段:回答数、下段:%)

項目	回答数/回収数						合計
	夫の役割	夫婦で同程度の役割	妻の役割	家族で分担する役割	その他		
① 食事の支度	3	91	566	165	32	857	
	0.4	10.6	66.0	19.3	3.7	100.0	
② 食事の片付け	20	164	385	255	31	855	
	2.3	19.2	45.0	29.8	3.6	100.0	
③ 掃除	11	200	320	300	19	850	
	1.3	23.5	37.6	35.3	2.2	100.0	
④ 洗濯	10	131	514	169	25	849	
	1.2	15.4	60.5	19.9	2.9	100.0	
⑤ 日常の買い物	8	200	439	179	24	850	
	0.9	23.5	51.6	21.1	2.8	100.0	
⑥ 地域行事への参加や近所との付き合い	149	379	94	194	33	849	
	17.6	44.6	11.1	22.9	3.9	100.0	
⑦ 子どもの世話や教育	2	390	182	191	62	827	
	0.2	47.2	22.0	23.1	7.5	100.0	
⑧ 高齢者や病身者の世話や介護	7	267	168	307	89	838	
	0.8	31.9	20.0	36.6	10.6	100.0	

家事一般



① 家事一般

家庭における家事一般の役割分担について聞いたところ、「妻」と答えた人の割合が 52.2%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」25.1%、「夫婦で同程度の役割」18.4%の順となった。

家事一般の内訳では、「食事の支度」について「妻」の割合が最も高くなっており、66.0%を占めている。「家族で分担する」が最も多かったのは「掃除」で 35.3%、次いで「食事の片付け」29.8%という順になっている。

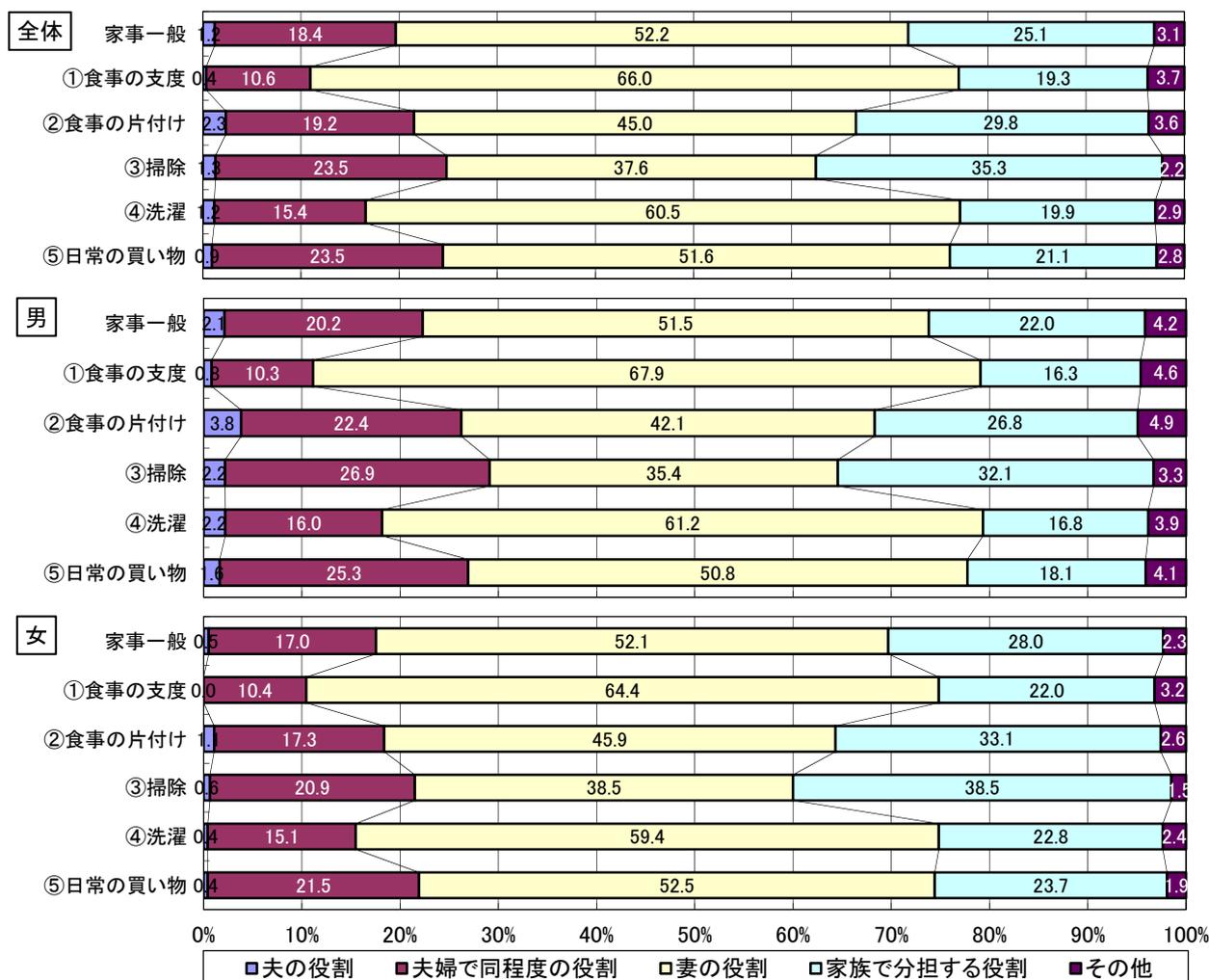
「夫婦で同程度の役割」としたのは「掃除」「日常の買物」で 23.5%、次いで「食事の片付け」19.2%、「洗濯」15.4%となっている。

<性別による比較>

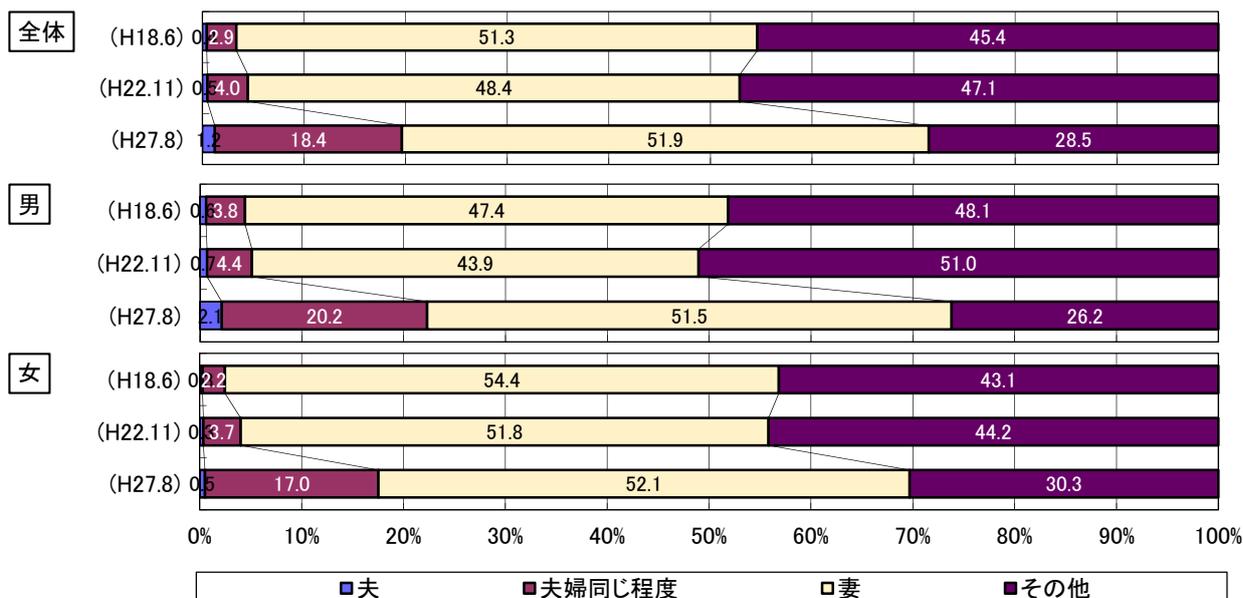
「妻」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。全体的に男性が「夫婦で分担する役割」が多いのに対し、女性は「家族で分担する役割」と回答している割合が多くなっている。

<既往調査との比較>

今年度調査では「夫婦同じ程度」と回答している人の割合が男女ともに増えている。



第2章 単純集計結果 3 家庭生活について

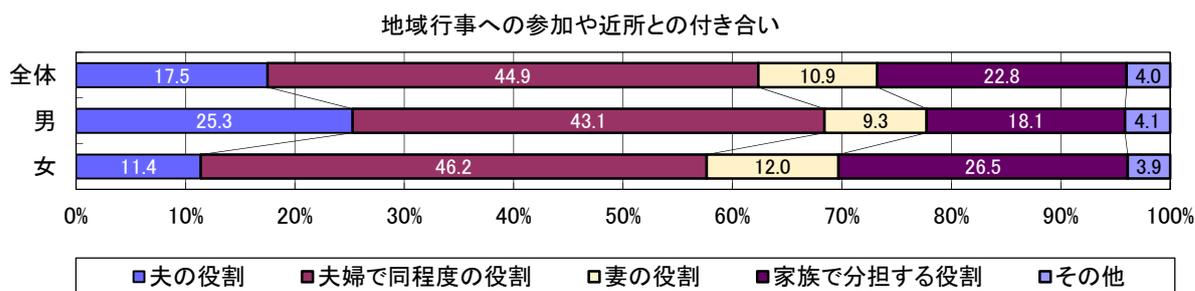


② 地域行事への参加や近所との付き合い

家庭における地域行事への参加や近所との付き合いの役割分担について聞いたところ、「夫婦で同程度」と答えた人の割合が44.9%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」22.8%、「夫の役割」17.5%の順となった。

<性別による比較>

「夫婦で同程度」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。男性が「夫の役割」と回答している割合が25.3%であるのに対し、女性は11.4%と13.9ポイント低い。また、「家族で分担する役割」と回答している割合も男性18.1%、女性26.5%と男性の方が8.4ポイント低くなっている。



③ 子どもの世話や教育

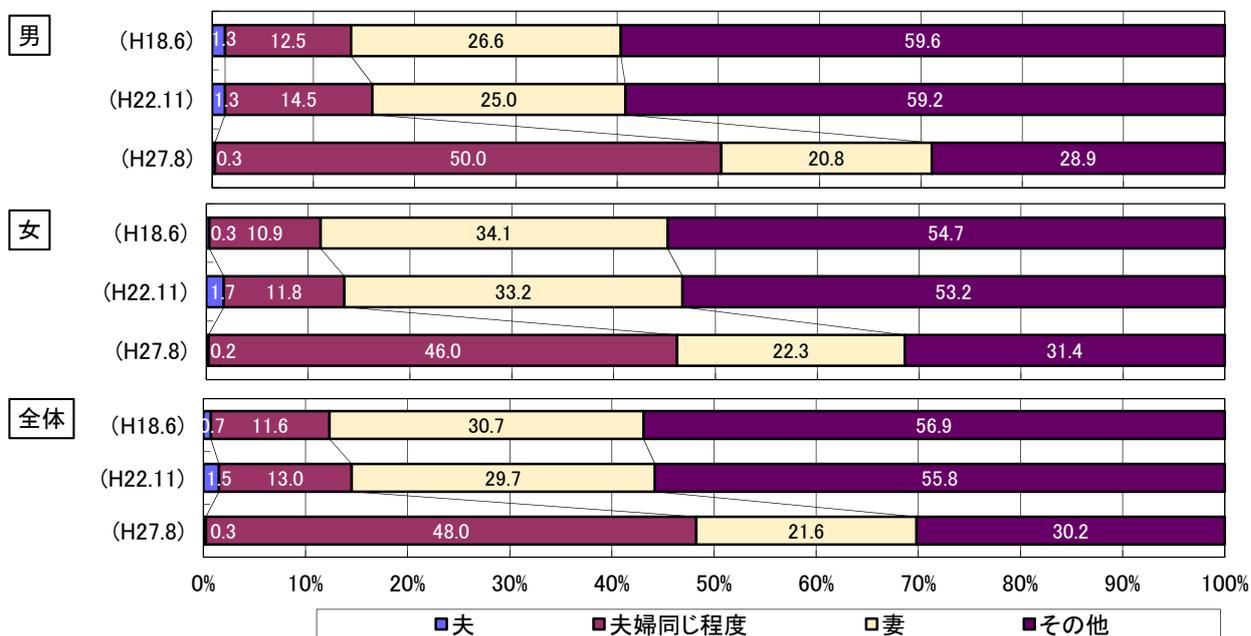
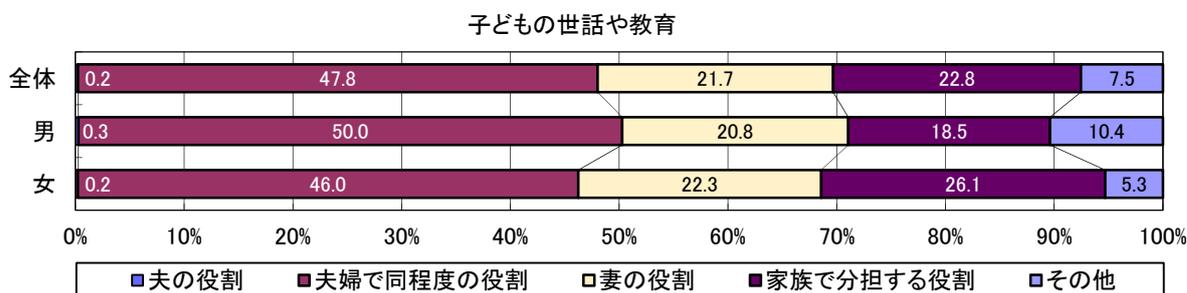
家庭における子どもの世話や教育の役割分担について聞いたところ、「夫婦で同程度」と答えた人の割合が47.8%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」22.8%、「妻の役割」21.7%の順となっている。

<性別による比較>

「夫婦で同程度」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。女性が「家族の役割」と回答している割合が26.1%であるのに対し、男性は18.5%と7.6ポイント低い。また、「妻の役割」と回答している割合も女性の方が男性よりも高くなっている。

<既往調査との比較>

「妻」の役割の回答が(30.7%→29.7%→21.6%)と減少し、「夫婦同じ程度」の割合が(11.6%→13.0%→48.0%)増加している。



④ 高齢者や病身者の世話

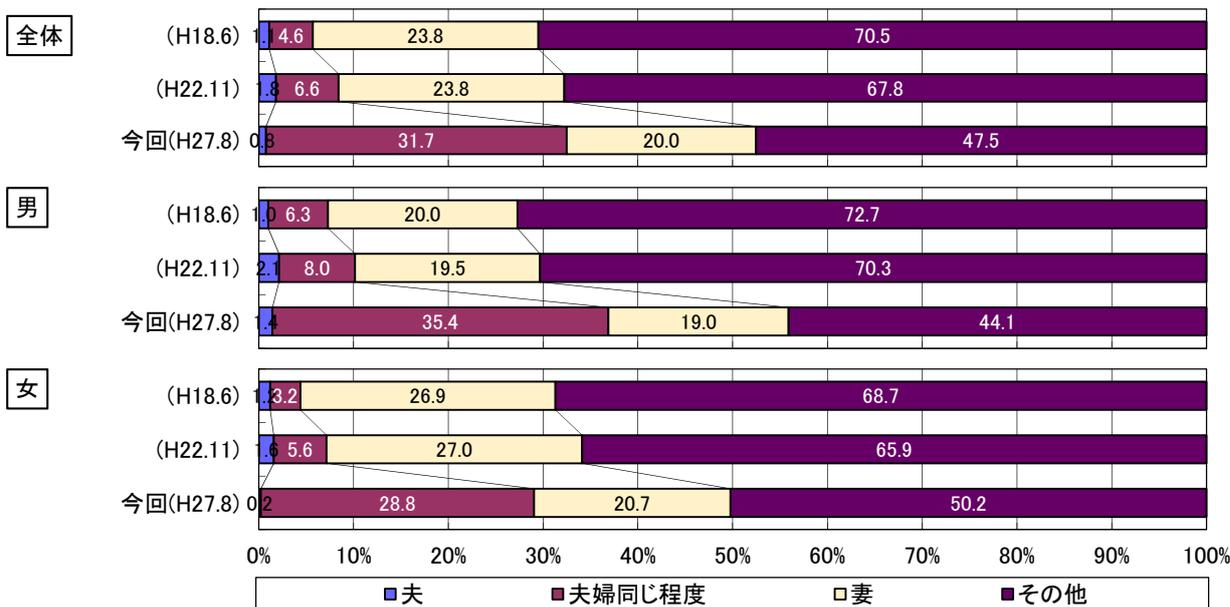
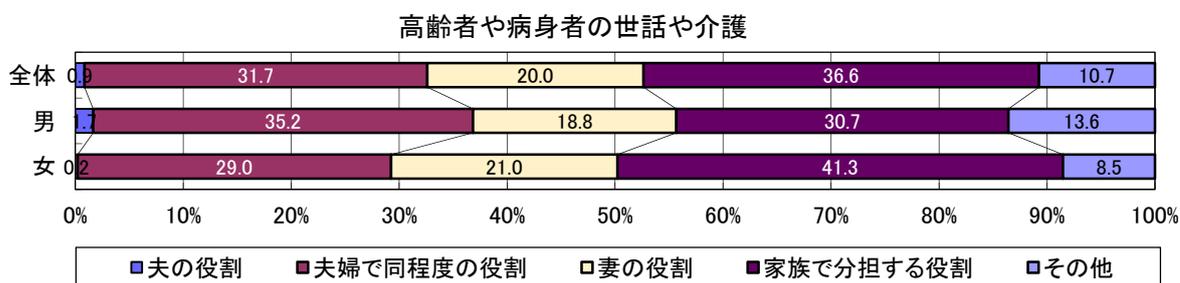
家庭における高齢者や病身者の世話の役割分担について聞いたところ、「家族で分担する」と答えた人の割合が36.6%と最も高く、次いで、「夫婦で同程度の役割」31.7%、「妻」20.0%の順となっている。

<性別による比較>

男性が「夫婦で同程度」と答えた人の割合が35.2%と最も高いのに対し、女性は29.0%と6.2ポイント低くなっている。女性は「家族で分担する役割」と回答した割合が最も高く、41.3%となっている。

<既往調査との比較>

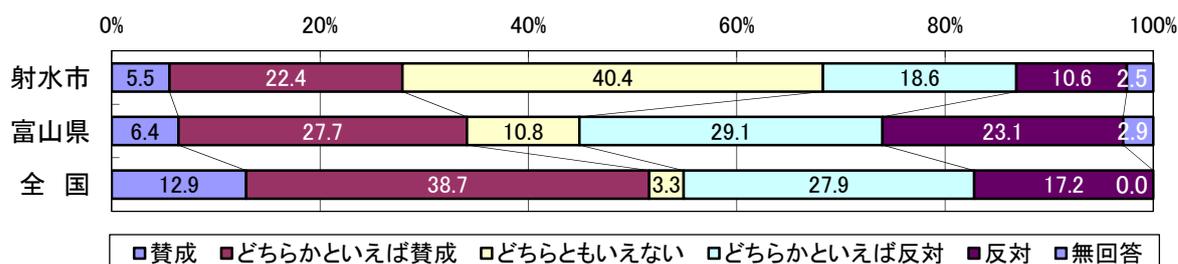
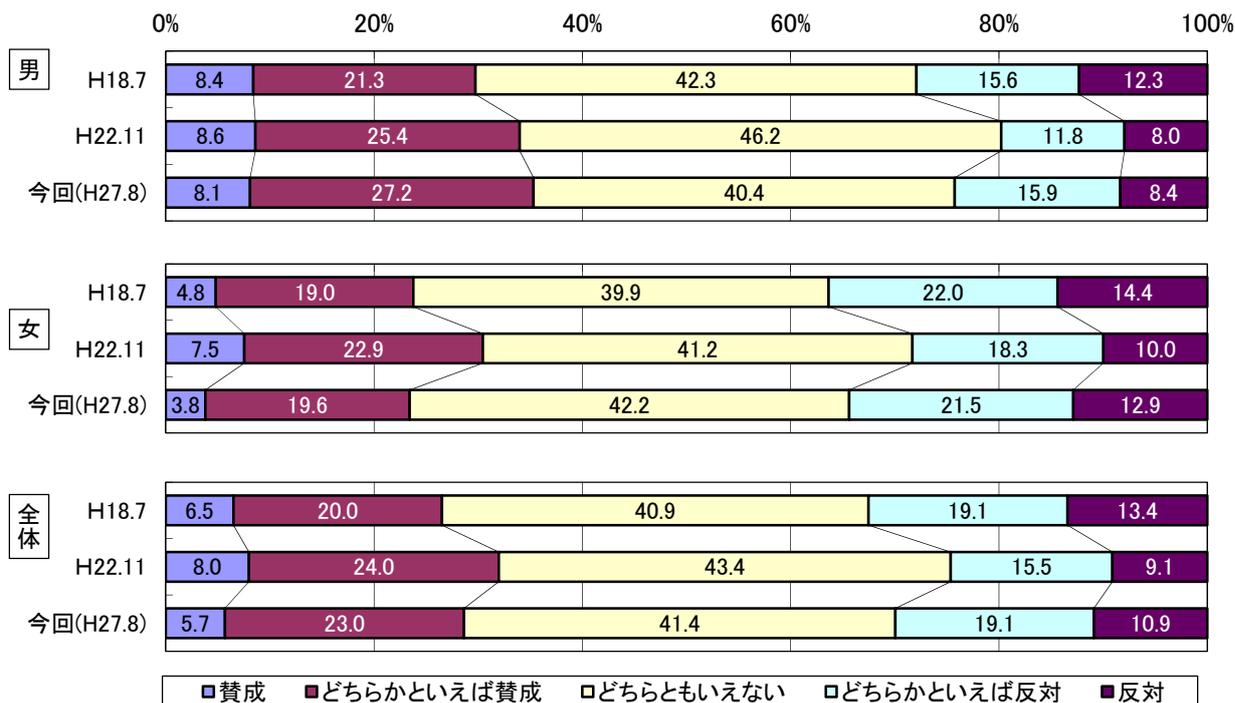
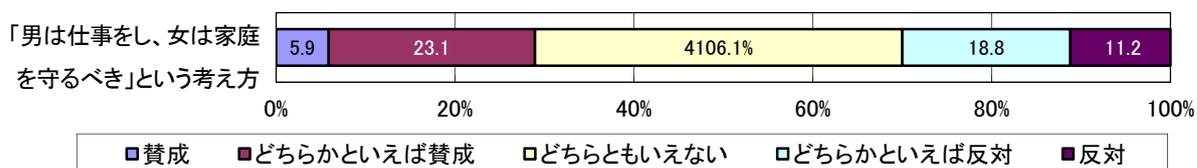
前問と同様に、全体的に「妻」の役割とする回答が減少し、「夫婦で同じ程度」と回答する割合が増加している。



問4

「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数		867/877	
項目	回答数	構成比	
賛成	51	5.9%	
どちらかといえば賛成	200	23.1%	
どちらともいえない	356	41.1%	
どちらかといえば反対	163	18.8%	
反対	97	11.2%	
合計	867	100.0%	



※富山県、全国との比較は無回答含む

第2章 単純集計結果 3 家庭生活について

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合が29.0%、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合が30.0%と、「賛成」「どちらかといえば賛成」が「反対」「どちらかといえば反対」を1.0ポイント下回っている。

<性別との比較>

「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合は、女性(23.4%)より男性(35.3%)の方が高くなっている。「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合は、男性(24.3%)より女性(34.4%)の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

平成22年度に「賛成」「どちらかといえば賛成」が「反対」「どちらかといえば反対」を7.4ポイント上回ったが、今回調査では、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合(30.0%)が「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合(28.7%)を1.3ポイント上回った。

また、男性が「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合が増加(29.7%→34.0%→35.3%)したのに対し、女性は(23.8%→30.4%→23.4%)と減少している。「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合については、男女ともに増加(男性 27.9%→19.8%→24.3%、女性 36.4%→28.3%→34.4%)した。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査ともに、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合が「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合より高くなっているが、射水市では低くなっている。

問5

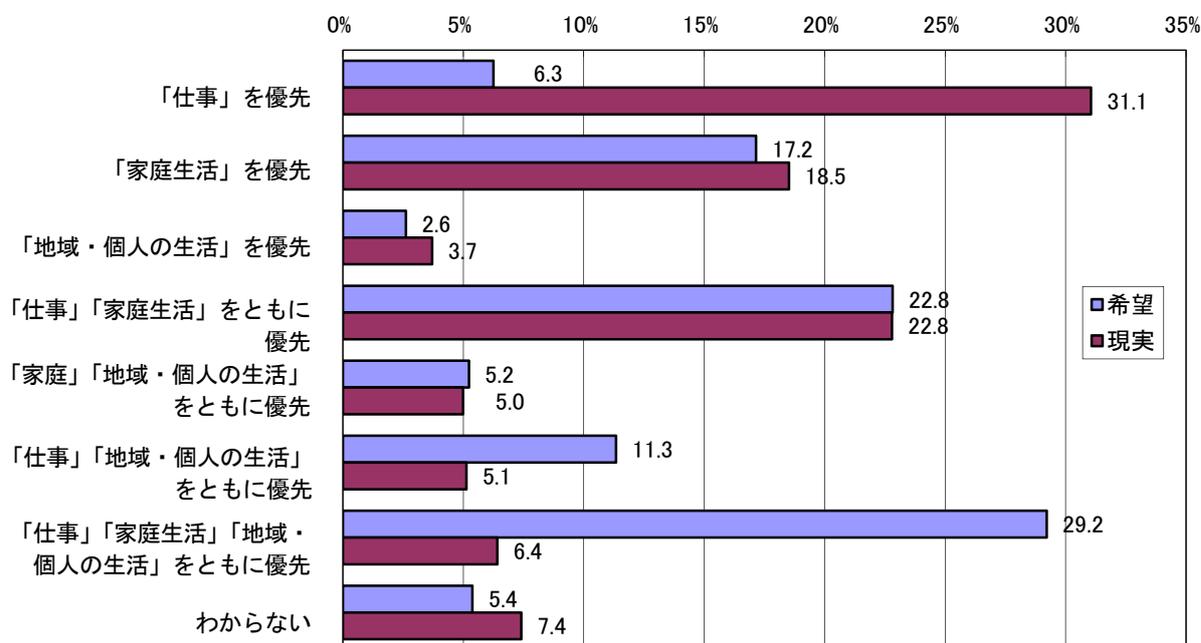
生活の中で、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動、学習、趣味、付き合い等）の優先度について、(1) あなたの希望に最も近いもの、(2) あなたの現実(現状)に最も近いものを、次の中からそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。(SA)

希望: 回答数/回収数 688/877

現実: 回答数/回収数 702/877

(上段:回答数、下段:%)

項目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	合計
希望	43 6.3	118 17.2	18 2.6	157 22.8	36 5.2	78 11.3	201 29.2	37 5.4	688 100.0
現実	218 31.1	130 18.5	26 3.7	160 22.8	35 5.0	36 5.1	45 6.4	52 7.4	702 100.0



「仕事」を優先」と答えた人の割合は、『希望』では 6.3%となっているが、『現実』では 31.1%と最も高くなっている。一方、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先」と答えた人の割合は、『希望』では 29.2%と最も高くなっているが、『現実』では 6.4%にとどまっている。

<性別による比較>

男女ともに「仕事」を優先」と答えた人の割合は、男性では希望と現実の差が 31.6 ポイント (希望 10.1%→現実 41.7%)、女性では差は 20.0 ポイント (希望 3.3%→現実 23.3%) と『現実』の方が高くなっている。一方、「家庭生活」を優先」と答えた人の割合は、男性では希望と現実の差が 5.6 ポイント (希望 15.0%→現実 9.4%) と『現実』の方が低くなっているのに対し、女性では差は 6.5 ポイント (希望 18.6%→現実 25.1%) と『現実』の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

前回調査で上位を占めていたのが「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」であったのに対し、今回調査では「仕事、家庭生活、地域・個人の生活」や「仕事と家庭生活」等複数を優先させた

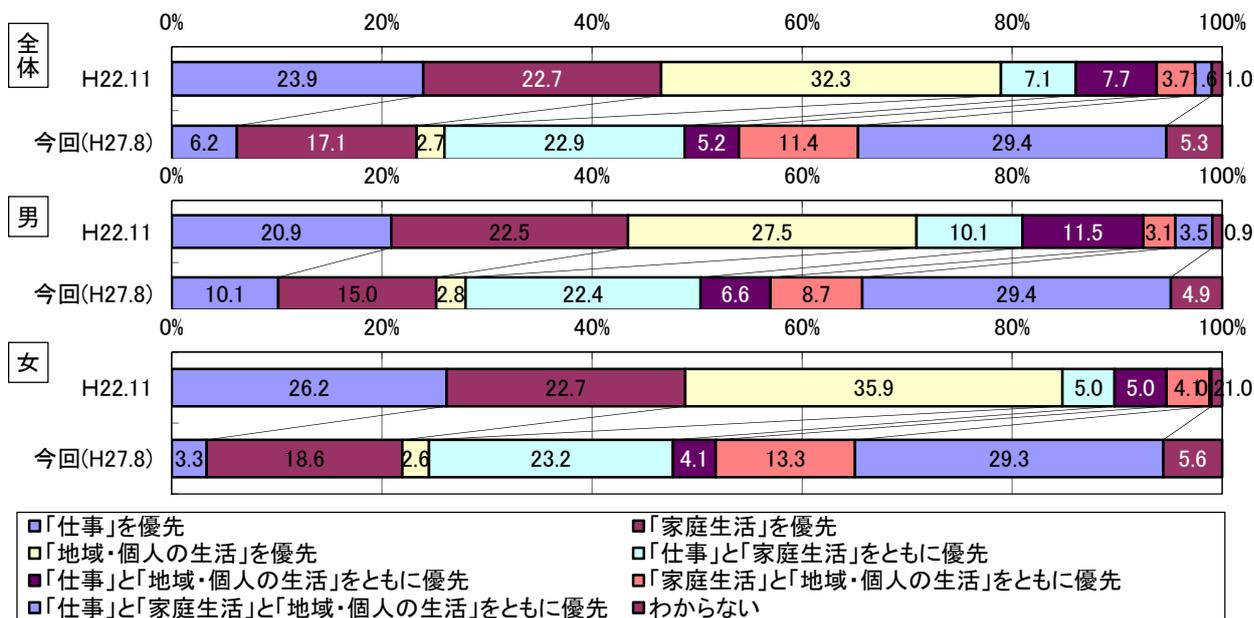
いという傾向が見られる。

＜富山県調査、全国調査との比較＞

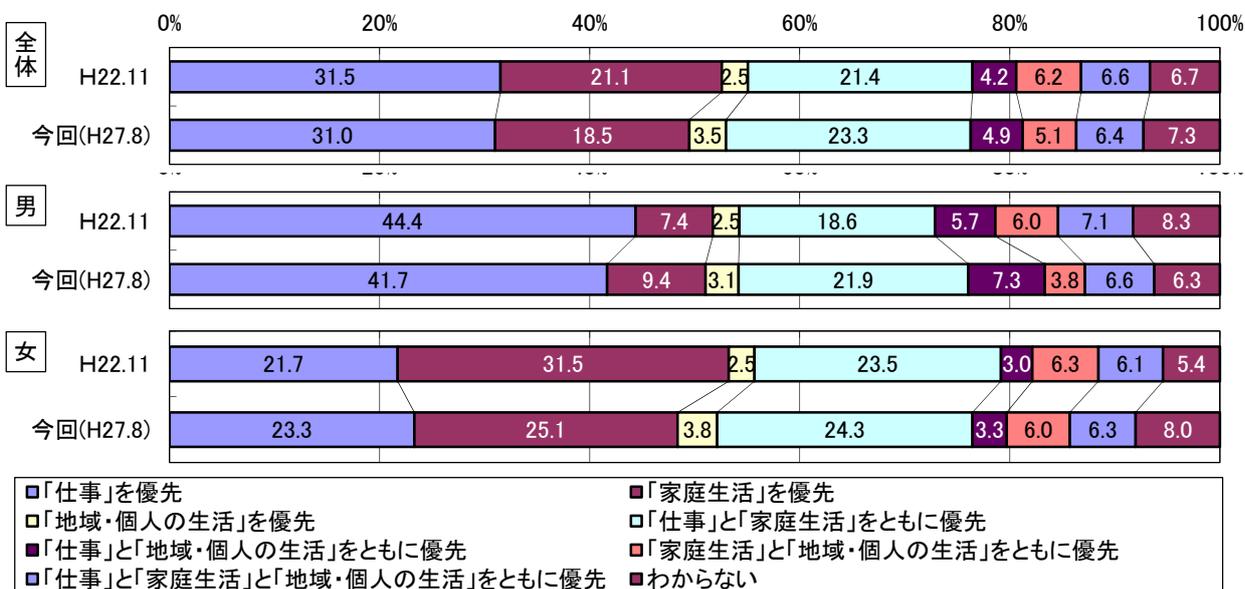
射水市では、希望では「家庭生活を優先」と答えた人の割合（富山県 13.2%、全国 27.6%、射水市 13.2%）、「仕事・家庭生活をともに優先」と答えた人の割合（富山県 23.1%、全国 30.5%、射水市 17.7%）が低くなっている。一方、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」と答えた人の割合（富山県 21.7%、全国 15.9%、射水市 22.7%）は高くなっている。

現実（現状）では、希望より富山県調査の現実の回答に近い調査結果がしめされており、「仕事を優先」、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活をともに優先」が多くなっている。

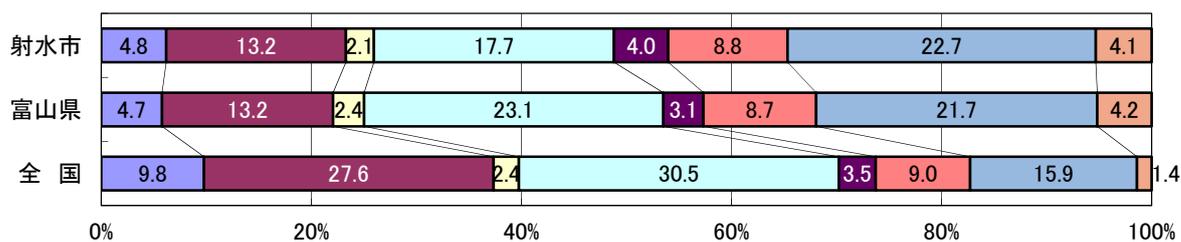
希望



現実

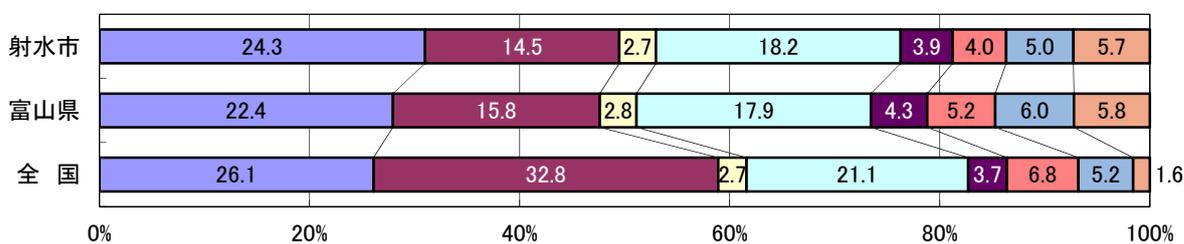


希望



- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない

現実



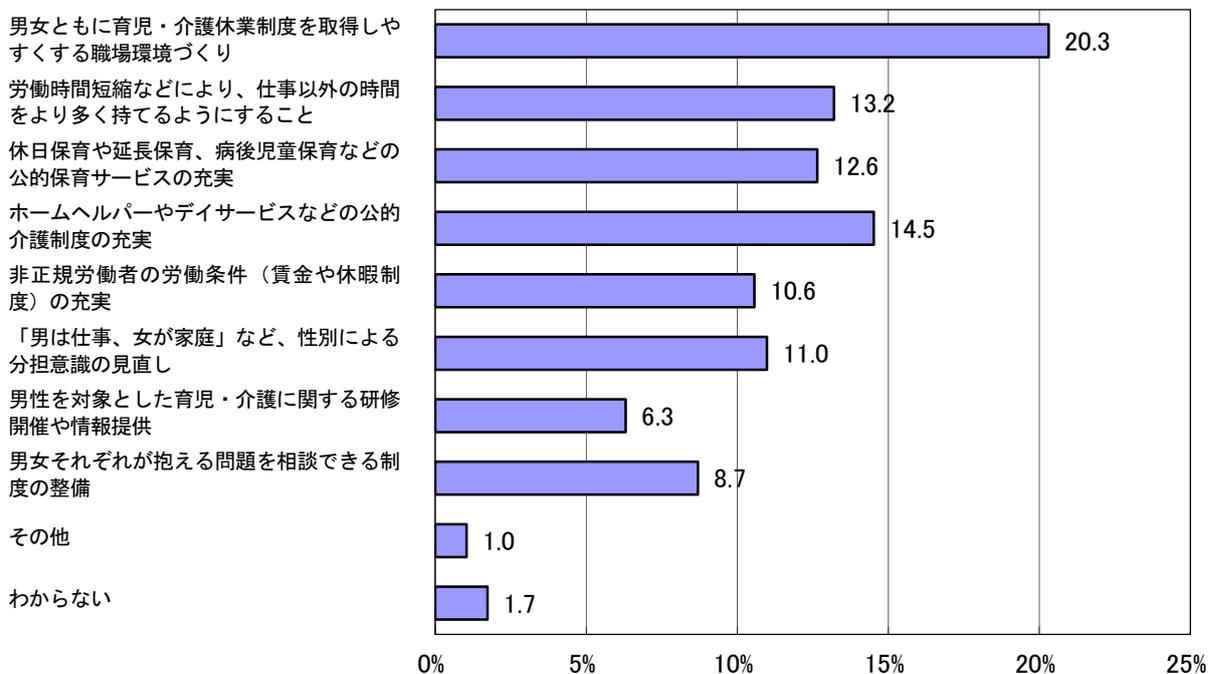
- 「仕事」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- わからない

問6

男性と女性がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 856/877

項目	回答数	構成比
男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり	586	20.3%
労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	381	13.2%
休日保育や延長保育、病後児保育などの公的保育サービスの充実	365	12.6%
ホームヘルパーやデイサービスなど公的介護制度の充実	419	14.5%
非正規労働者の労働条件(賃金や休暇制度など)向上	305	10.6%
「男は仕事、女は家庭」など、性別による分担意識の見直し	317	11.0%
男性を対象とした育児・介護に関する研修開催や情報提供	182	6.3%
男女それぞれが抱える問題を相談できる制度の整備	251	8.7%
その他	30	1.0%
わからない	50	1.7%
合計	2886	100.0%

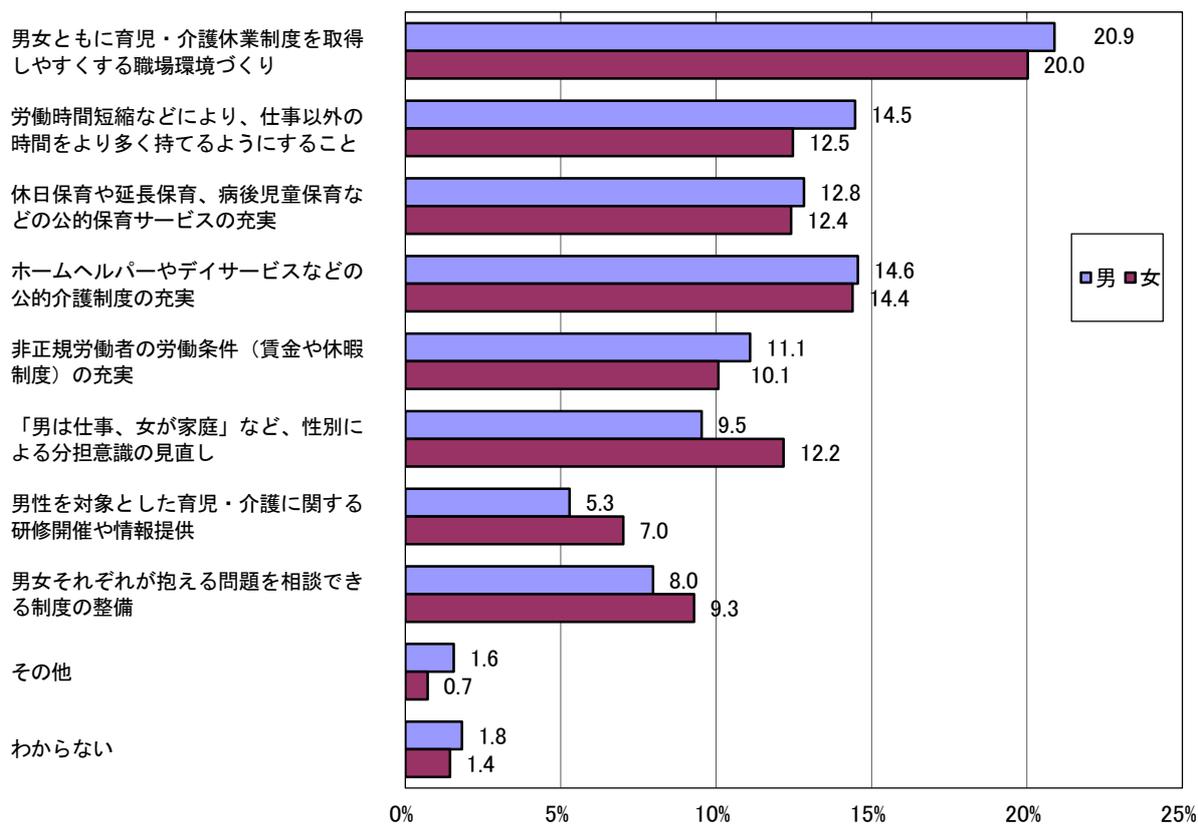


男性と女性がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことを聞いたところ、「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」を挙げた人の割合が20.3%と最も高くなっている。次いで「ホームヘルパーやデイサービスなどの公的介護制度の充実」14.5%、「労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」13.2%、「休日保育や延長保育、病後児童保育などの公的保育サービスの充実」12.6%となっている。

<性別による比較>

男女ともに同様な意見が挙げられているが、「男は仕事、女が家庭」など、性別による分担意識の見直し」と「男性を対象とした育児・介護に関する研修開催や情報提供」を挙げた割合が男性より女性の方がそれぞれ2.7ポイント、1.7ポイント多くなっている。

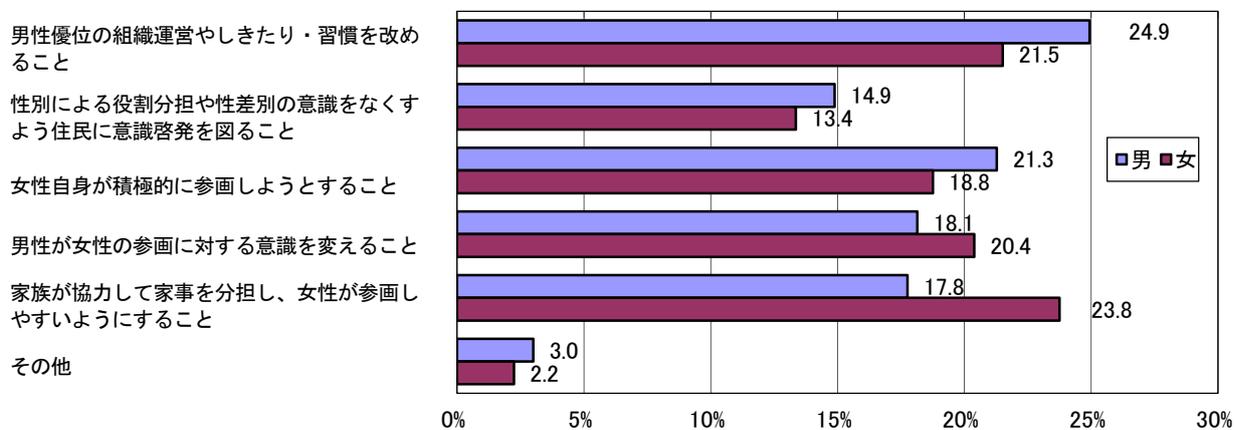
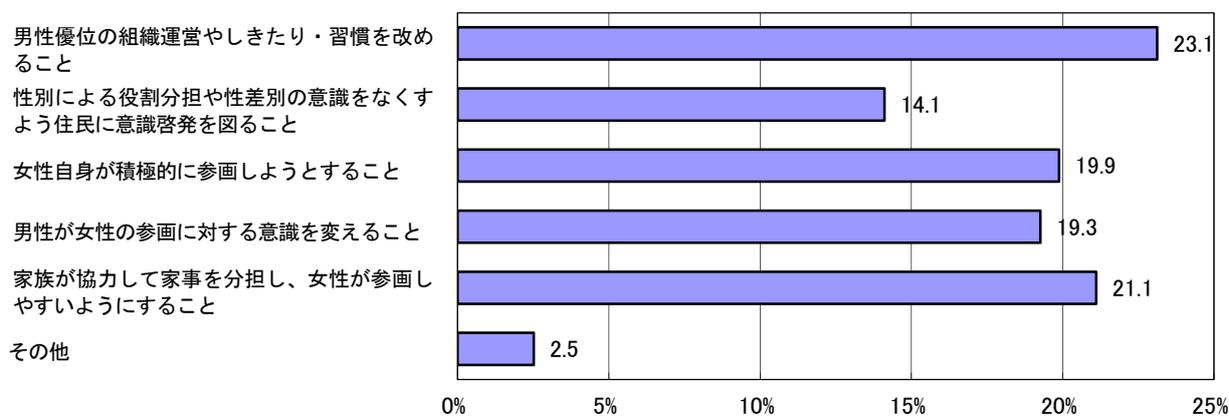
「労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」を挙げた割合が女性より男性に2.0ポイント多い結果となった。



問6-2
 女性の自治会長・町内会長が少ない現状において、どのような改善策が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 844/877

項目	回答数	構成比
男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること	413	23.1
性別による役割分担や性差別の意識をなくすよう住民への意識啓発をはかること	252	14.1
女性自身が積極的に参画しようとする事	355	19.9
男性が女性の参画に対する意識を変えること	344	19.3
家族が協力して家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること	377	21.1
その他	45	2.5
合計	1786	100.0



女性の自治会長・町内会長が少ない現状における改善策について聞いたところ、「男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること」を挙げた割合が23.1%と最も多く、次いで「家族が協力して家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること」21.1%、「女性自身が積極的に参画しようとする事」19.9%、「男性が女性の参画に対する意識を変えること」19.3%であり、回答にあまり偏りが出ない結果となった。

<性別による比較>

「家族が協力して家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること」と「男性が女性の参画に対する意識を変えること」を挙げた割合が男性より女性に多く、「男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること」と「女性自身が積極的に参画しようとする事」を挙げた割合が女性より男性に多い結果となった。

4 就業・就労について

問7

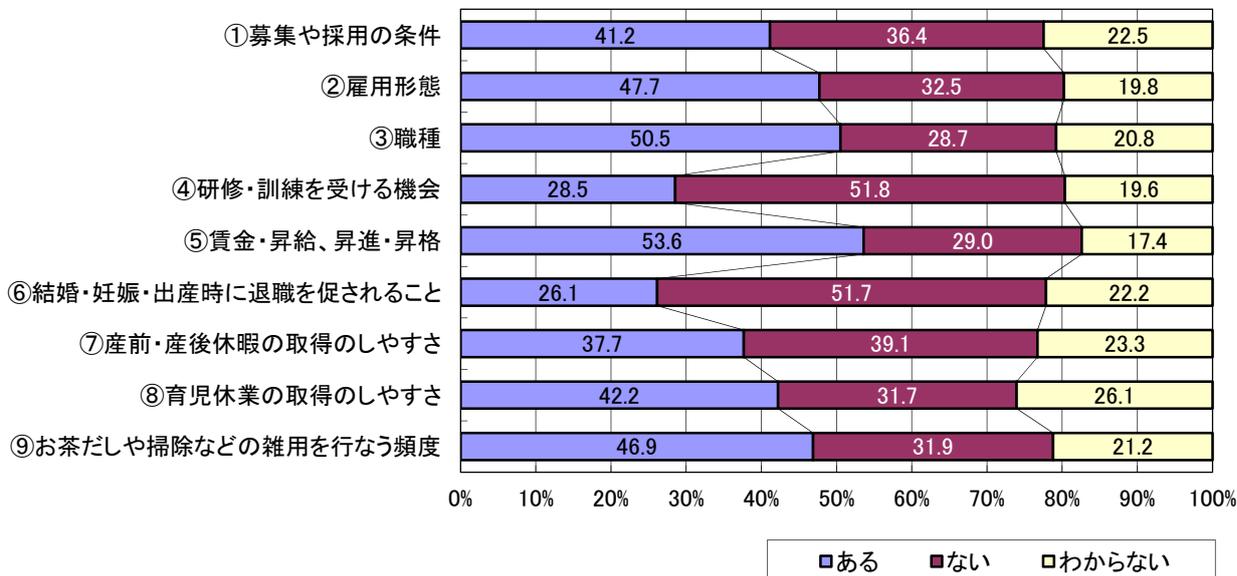
職場での男女平等についてお尋ねします。①～⑨の各項目について、それぞれ該当する回答に○印を付けてください。なお、(1)は現在働いている方のみ、(2)はすべての方に回答願います。(SA)

(1) 不平等感の有無 (働いている方のみ)

回答数/回収数 503/877

(上段:回答数、下段:%)

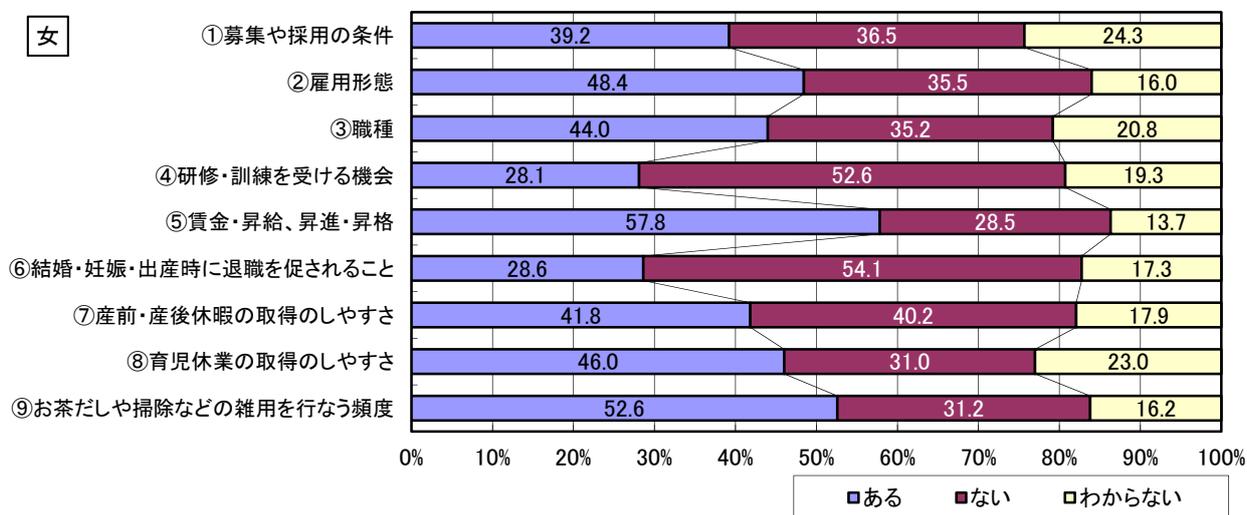
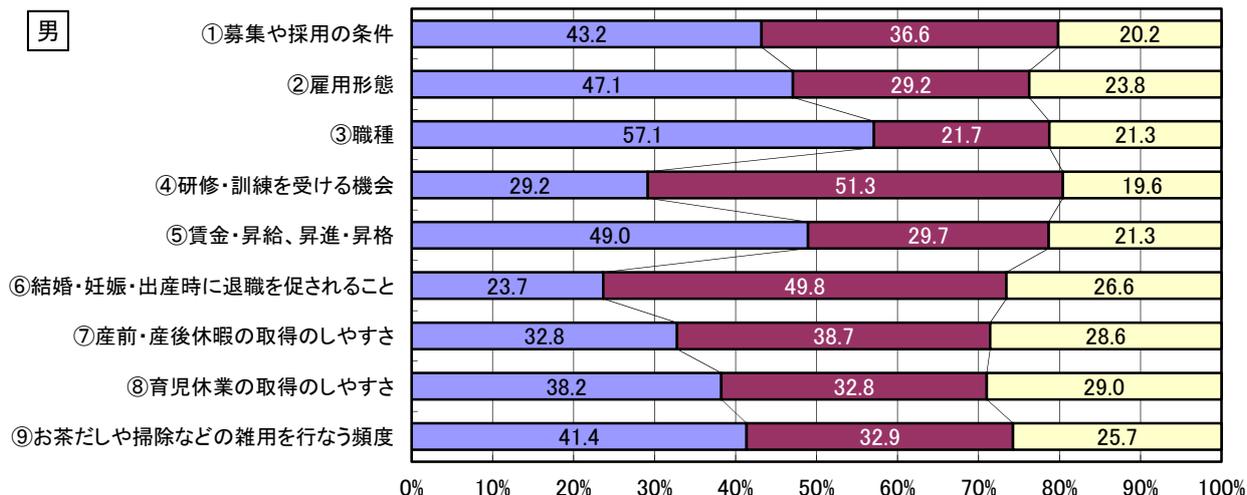
項目	ある	ない	わからない	合計
①募集や採用の条件	207 41.2	183 36.4	113 22.5	503 100.0
②雇用形態	239 47.7	163 32.5	99 19.8	501 100.0
③職種	250 50.5	142 28.7	103 20.8	495 100.0
④研修・訓練を受ける機会	141 28.5	256 51.8	97 19.6	494 100.0
⑤賃金・昇給、昇進・昇格	268 53.6	145 29.0	87 17.4	500 100.0
⑥結婚・妊娠・出産時に退職を促されること	131 26.1	259 51.7	111 22.2	501 100.0
⑦産前・産後休暇の取得のしやすさ	186 37.7	193 39.1	115 23.3	494 100.0
⑧育児休業の取得のしやすさ	209 42.2	157 31.7	129 26.1	495 100.0
⑨お茶だしや掃除などの雑用を行なう頻度	232 46.9	158 31.9	105 21.2	495 100.0



職場における男女の不平等感の有無については、「賃金・昇給、昇進・昇格」で 53.6%と最も高くなり、次いで「職種」50.5%、「雇用形態」47.7%、「お茶だしや掃除などの雑用を行う頻度」46.9%の順で高くなっている。

一方、「研修・訓練を受ける機会」「結婚・妊娠・出産時に退職を促されること」については、男女の不平等を感じる機会はない、と回答した割合が5割を超えている。

第2章 単純集計結果 4 就業・就労について



<性別による比較>

男女ともに同様な意見に回答している一方、「職種」について不平等感があるとした男性（57.1%）に対して、女性（44.0%）と、13.1ポイント高くなり、「賃金・昇給、昇進・昇格」について不平等感があるとした男性（49.0%）に対して、女性（57.8%）と、8.8ポイント高くなっている。さらに、「お茶だしや掃除などの雑用を行う頻度」についても男性（41.4%）、女性（52.6%）と11.2ポイント女性の方が高くなっている。

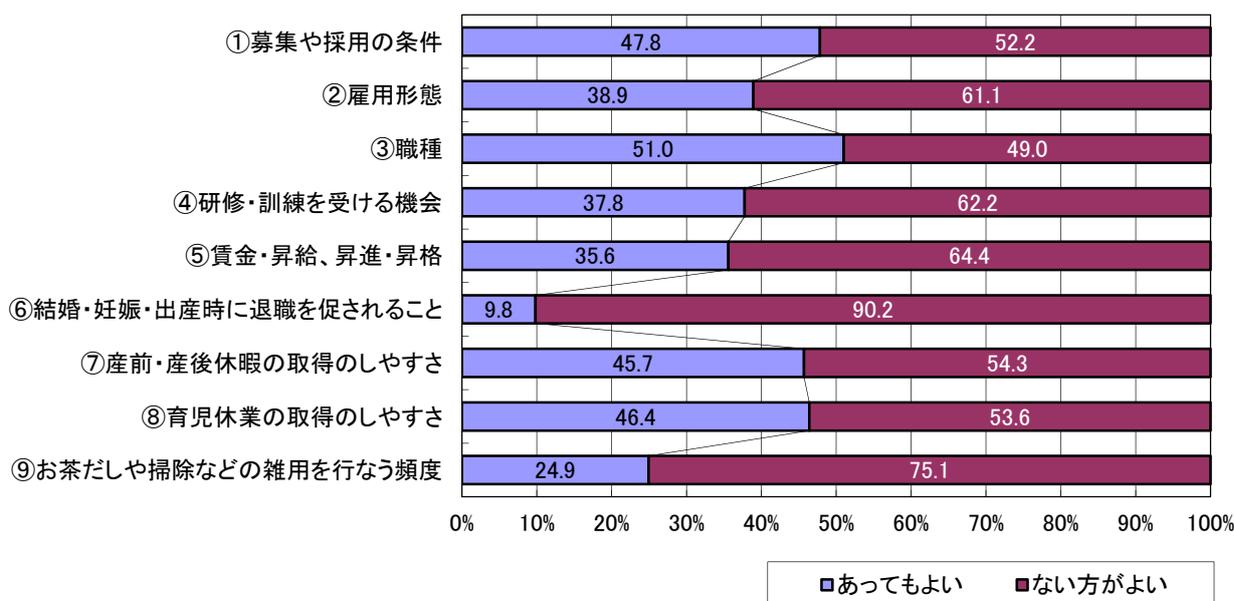
「研修・訓練を受ける機会」は男女ともに「不平等を感じる機会はない」の回答が5割を超えている。

(2) 不平等についての考え方 (すべての方)

回答数/回収数 714/877

(上段:回答数、下段:%)

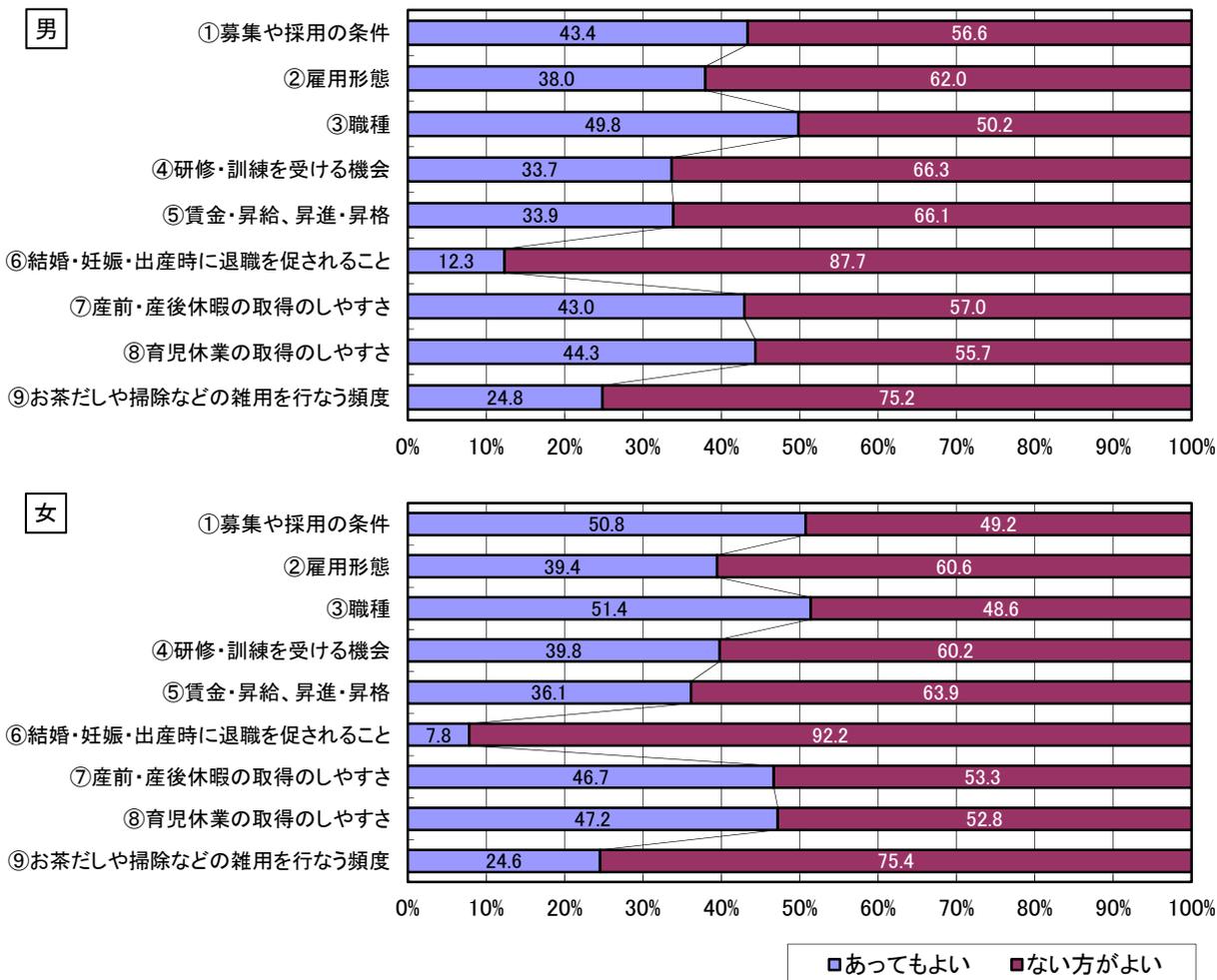
項目	あってもよい	ない方がよい	合計
①募集や採用の条件	339 47.8	370 52.2	709 100.0
②雇用形態	278 38.9	436 61.1	714 100.0
③職種	356 51.0	342 49.0	698 100.0
④研修・訓練を受ける機会	267 37.8	440 62.2	707 100.0
⑤賃金・昇給、昇進・昇格	252 35.6	456 64.4	708 100.0
⑥結婚・妊娠・出産時に退職を促されること	70 9.8	642 90.2	712 100.0
⑦産前・産後休暇の取得のしやすさ	323 45.7	384 54.3	707 100.0
⑧育児休業の取得のしやすさ	329 46.4	380 53.6	709 100.0
⑨お茶だしや掃除などの雑用を行なう頻度	176 24.9	530 75.1	706 100.0



不平等感についての考え方において、「ない方がよい」の割合が高かったものは、「結婚・妊娠・出産時に退職を促されること」で90.2%、「お茶だしや掃除などの雑用を行う頻度」で75.1%である。

一方、「あってもよい」と「ない方がよい」の回答が均衡したものは「募集や採用の要件」「職種」「産前・産後休暇の取得のしやすさ」「育児休業の取得のしやすさ」であり、特に「職種」に関しては、5割以上の回答を得ている。

第2章 単純集計結果 4 就業・就労について



<性別による比較>

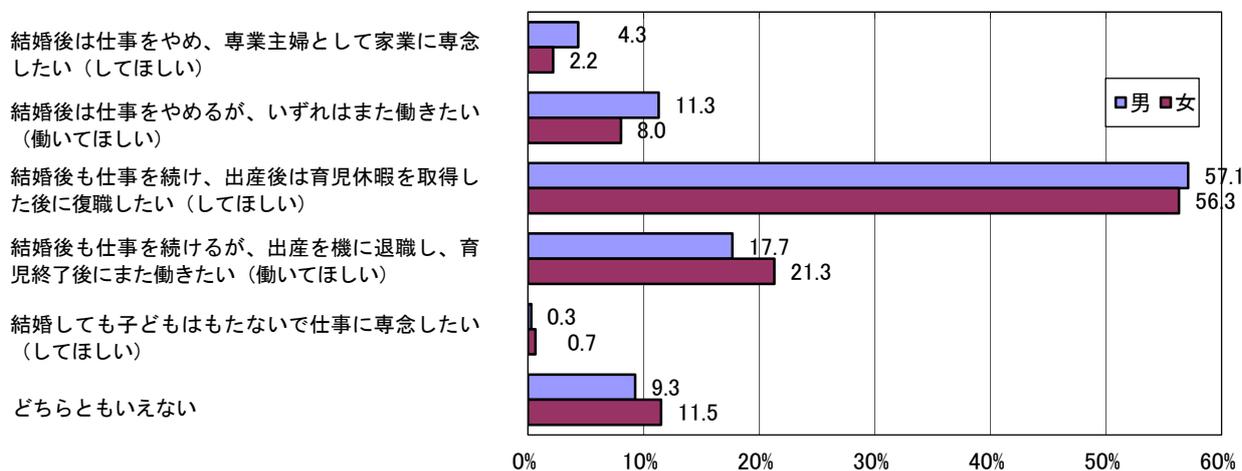
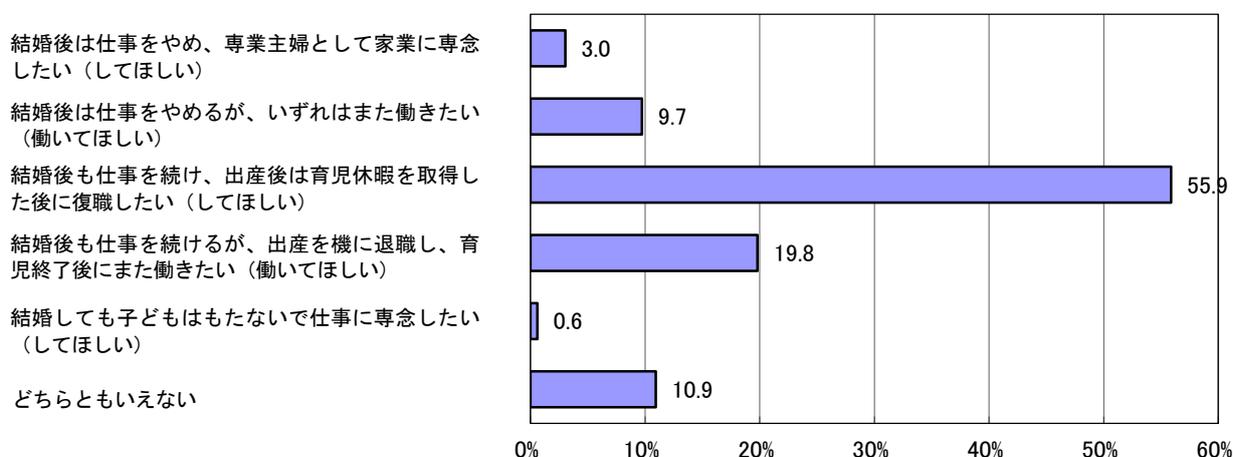
男女で同様の回答を得ている一方、「募集や採用の要件」では「あってもよい」が男性 43.4%、女性 50.8%と女性の方が 7.4 ポイント高くなっている。同様に、「研修・訓練を受ける機会」について「あった方がよい」男性 33.7%、女性 39.8%と女性の方が 6.1 ポイント高くなっている。

問8

一般的に女性が働くことについて、あなたはどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

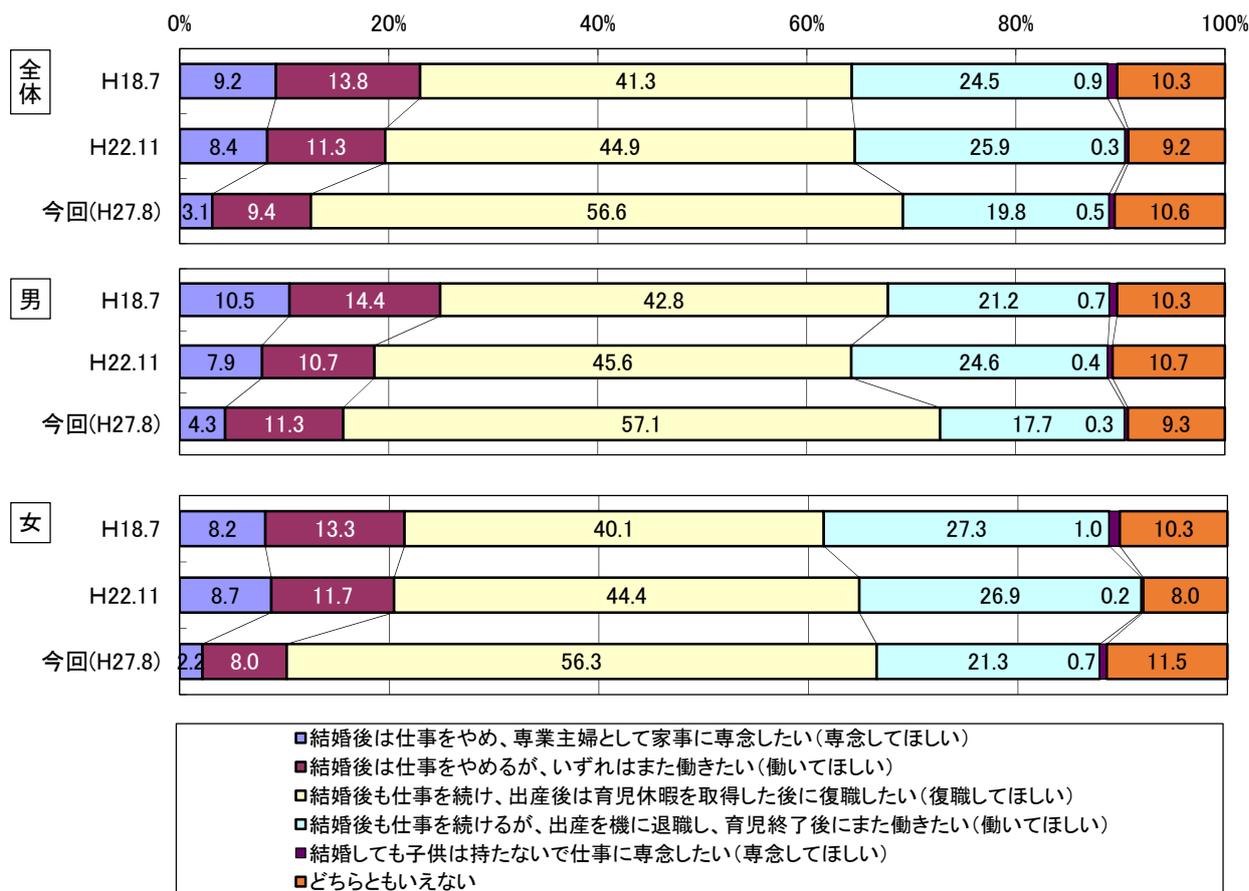
回答数/回収数 823/877

項目	回答数	構成比
結婚後は仕事をやめ、専業主婦として家事に専念したい(専念してほしい)	25	3.0
結婚後は仕事をやめるが、いずれはまた働きたい(働いてほしい)	80	9.7
結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい(復職してほしい)	460	55.9
結婚後も仕事を続けるが、出産を機に退職し、育児終了後にまた働きたい(働いてほしい)	163	19.8
結婚しても子どもは持たないで仕事に専念したい(専念してほしい)	5	0.6
どちらともいえない	90	10.9
合計	823	100.0



結婚後の就業スタイルについて聞いたところ、「結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい (してほしい)」と答えた人の割合が男女とも最も高く、男性 57.1%、女性 56.3%であった。次いで、「結婚後も仕事を続けるが、出産を機に退職し、育児終了後にまた働きたい (働いてほしい)」と答えた人の割合が高くなっている (男性 17.7%、女性 21.3%)。

第2章 単純集計結果 4 就業・就労について



<既往調査との比較>

男女ともに全体的に同様の結果が見られ、結婚後も仕事を続けたいとする回答は（65.8%→70.8%→76.4%）と増加している。

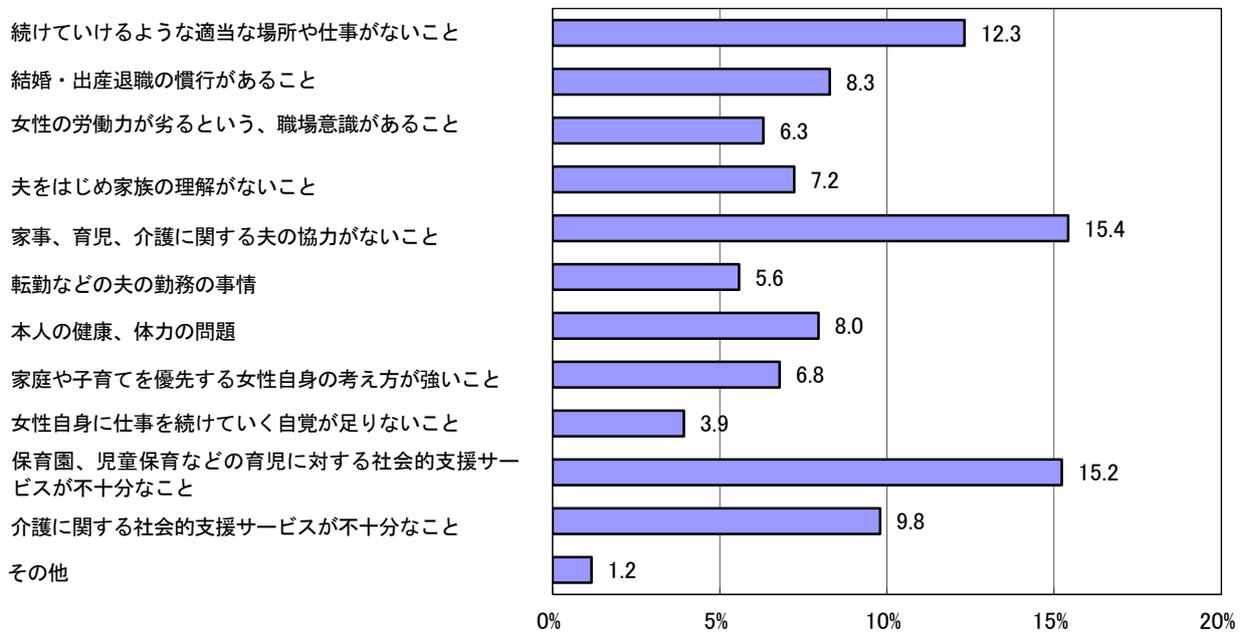
「結婚後は仕事をやめ、専業主婦として家事に専念したい（してほしい）」と答えた人の割合が男性（10.5%→7.9%→4.3%）と6.2ポイント、女性（8.2%→8.7%→2.2%）と6.0ポイント減少している。また、「結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい（復職してほしい）」と答えた人の割合が男性（42.8%→45.6%→57.1%）と14.3ポイント、女性（40.1%→44.4%→56.3%）と16.2ポイント増加している。「結婚後は仕事をやめるが、いずれはまた働きたい（働いてほしい）」が男性が3.1ポイント減少（14.4%→10.7%→11.3%）、女性は5.3%減少（13.3%→11.7%→8.0%）となっている。また、「結婚後も仕事を続けるが、出産を機に退職し、育児終了後はまた働きたい（働いて欲しい）」が男性は前回調査では3.4ポイント増加しているものの、今回は6.9ポイント減少し（21.2%→24.6%→17.7%）、女性は6.0ポイント減少（27.3%→26.9%→21.3%）となっている。

問9

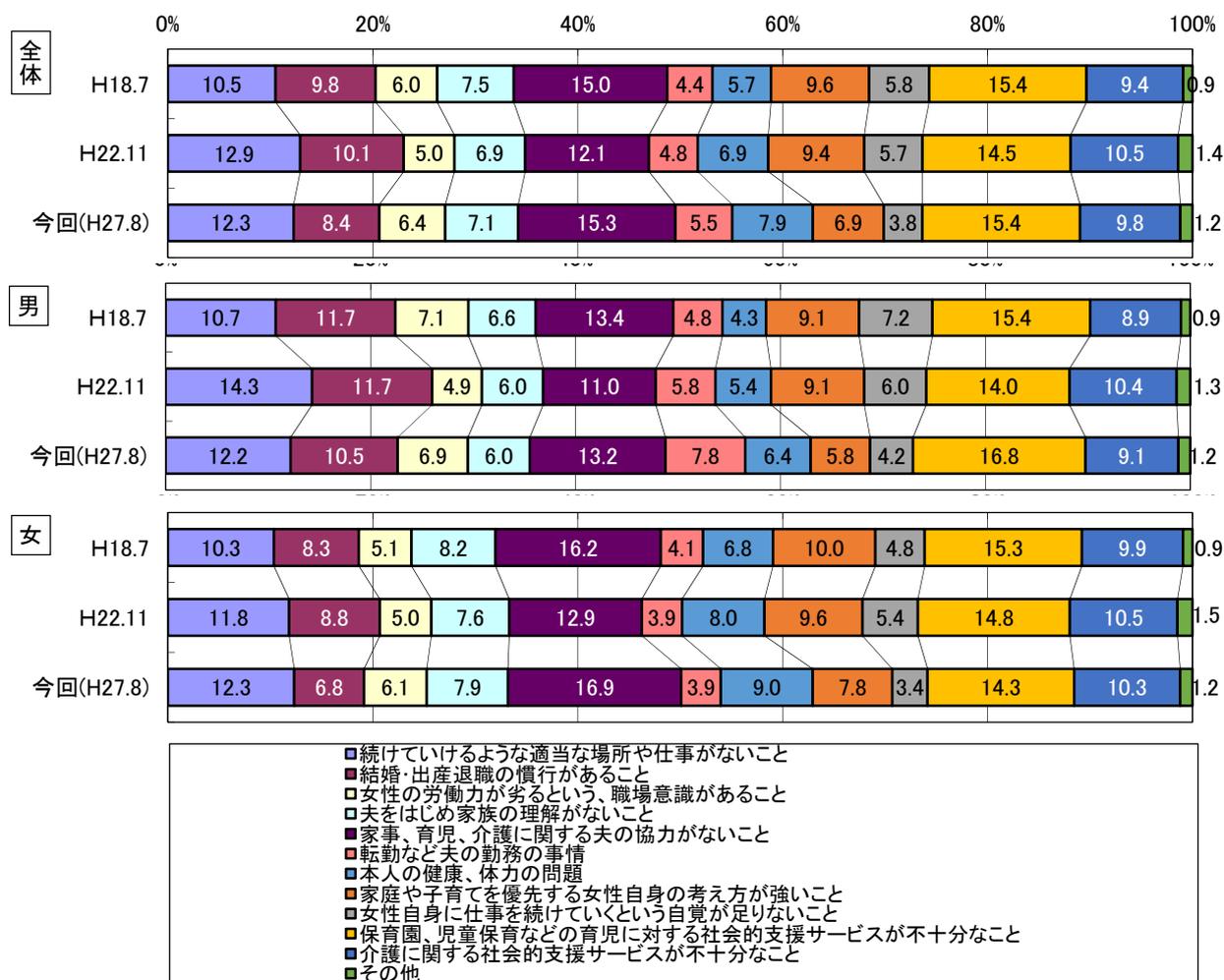
女性が働き続ける上では、どんな障害があると思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 780/877

項目	回答数	構成比
続けていけるような適当な場所や仕事がないこと	254	12.3
結婚・出産退職の慣行があること	171	8.3
女性の労働力が劣るといふ、職場意識があること	130	6.3
夫をはじめ家族の理解がないこと	149	7.2
家事、育児、介護に関する夫の協力がいないこと	318	15.4
転勤など夫の勤務の事情	115	5.6
本人の健康、体力の問題	164	8.0
家庭や子育てを優先する女性自身の考え方が強いこと	140	6.8
女性自身に仕事を続けていくという自覚が足りないこと	81	3.9
保育園、児童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと	314	15.2
介護に関する社会的支援サービスが不十分なこと	202	9.8
その他	24	1.2
合計	2062	100.0



第2章 単純集計結果 4 就業・就労について



女性が働き続けていく上での障害について聞いたところ、「家事、育児、介護に関する夫の協力がなくないこと」を挙げた人が最も多く15.4%、次いで「保育園、児童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」15.2%、「続けていけるような適当な場所や仕事がないこと」12.3%の順となっている。

<性別による比較>

男性で「保育園、児童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」と答えた人の割合が16.8%と最も高く、次いで「家事、育児、介護に関する夫の協力がなくないこと」と答えた人の割合が13.2%、「続けていけるような適当な場所や仕事がないこと」12.2%となっている。女性では、「家事、育児、介護に関する夫の協力がなくないこと」が16.9%と最も高く、次いで「保育園、児童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」14.3%、「続けていけるような適当な場所や仕事がないこと」12.3%の順となっている。

<既往調査との比較>

「家事、育児、介護に関する夫の協力がなくないこと」を回答した人の割合は、平成22年度調査では減少したものの、今回調査では3.2ポイント増加している。

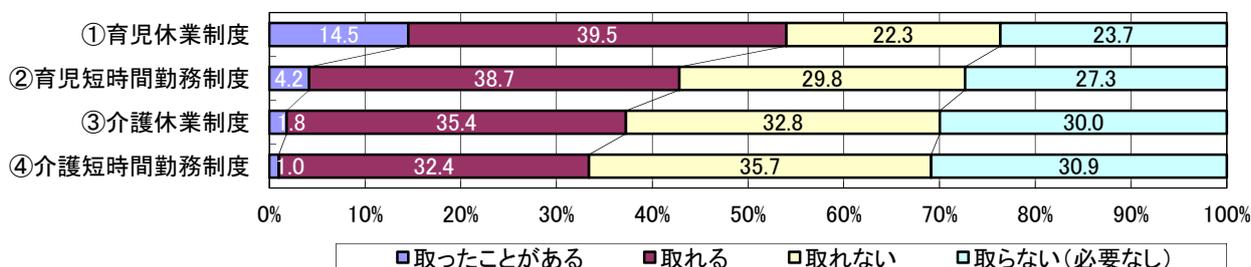
問10

あなたの職場で、育児休業、介護休業を取得することはできますか（取得したことはありませんか）。①～④の各制度についてあてはまるものをそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。（SA）

回答数/回収数 613/877

（上段：回答数、下段：％）

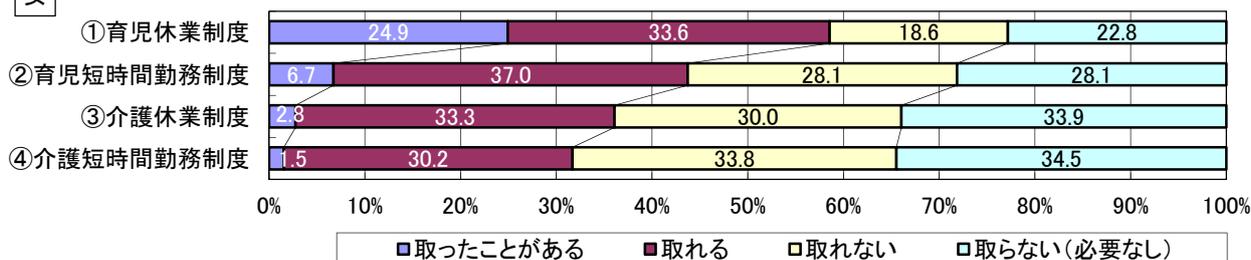
項目	取ったことがある	取れる	取れない	取らない(必要なし)	合計
①育児休業制度	89 14.5	242 39.5	137 22.3	145 23.7	613 100.0
②育児短時間勤務制度	25 4.2	232 38.7	179 29.8	164 27.3	600 100.0
③介護休業制度	11 1.8	214 35.4	198 32.8	181 30.0	604 100.0
④介護短時間勤務制度	6 1.0	194 32.4	214 35.7	185 30.9	599 100.0



男



女



職場において育児休業や介護休業、短時間勤務制度等を取得することはできるかについて聞いたところ、育児休業取得可能な職場が54.0%と最も多く、取得者も14.5%と最も多い。次いで育児短時間勤務取得可能な職場が42.9%であり、取得者は4.2%であった。

介護休業、介護短時間勤務については、取得可能な職場が3割ほどあるものの、取得者は2.0%以下であり、介護休業については、いまだ定着していない様子が伺える。

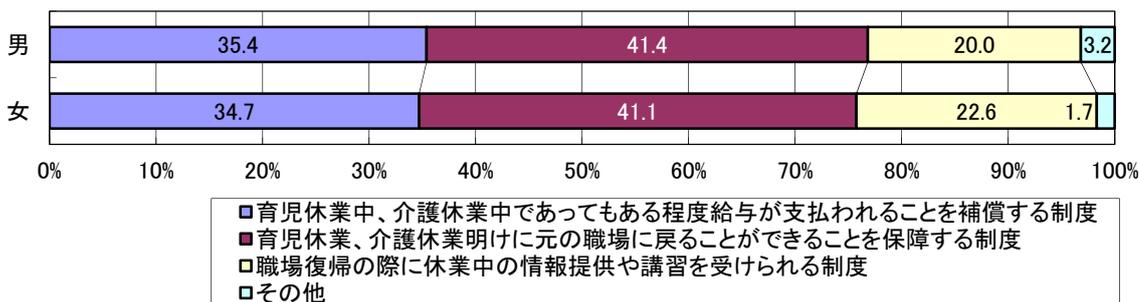
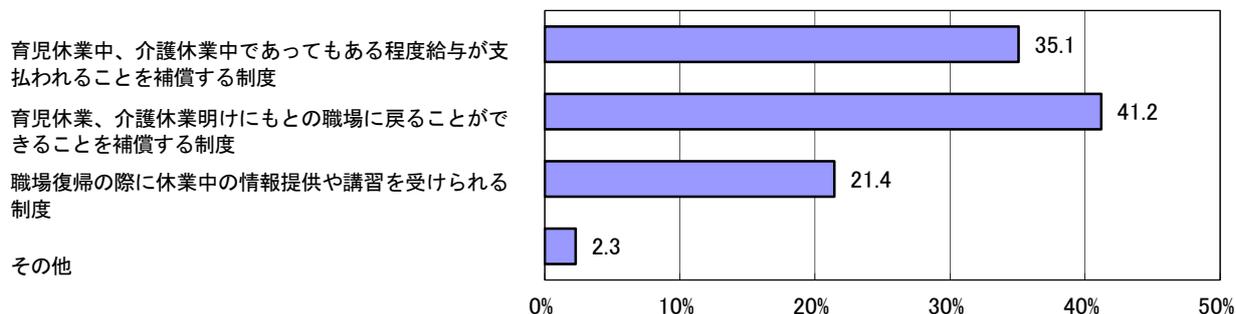
<性別による比較>

男性で休業制度を取得している人は2.0%以下にとどまり、育児、介護休業を「取れない」「取らない」と回答している人が5割を超えている。女性においても育児休業については半数以上が「取ったことがある」「取れる」と回答しているものの、介護休業について未だ取得者が少ない状況にある。

問11
 育児休業介護休業等を取得するためには、どのような制度を充実させたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 817/877

項目	回答数	構成比
育児休業中、介護休業中であってもある程度給与が支払われることを補償する制度	522	35.1
育児休業、介護休業明けに元の職場に戻ることができることを保障する制度	613	41.2
職場復帰の際に休業中の情報提供や講習を受けられる制度	319	21.4
その他	34	2.3
合計	1488	100.0



育児休業介護休業等を取得するためには、どのような制度を充実させたいか聞いたところ、「育児休業、介護休業明けにもとの職場に戻ることができることを補償する制度」と答えた人の割合が41.2%と最も多くなった。次いで、「育児休業中、介護休業中であってもある程度給与が支払われることを補償する制度」が35.1%、「職場復帰の際に休業中の情報提供や講習を受けられる制度」が21.4%であった。

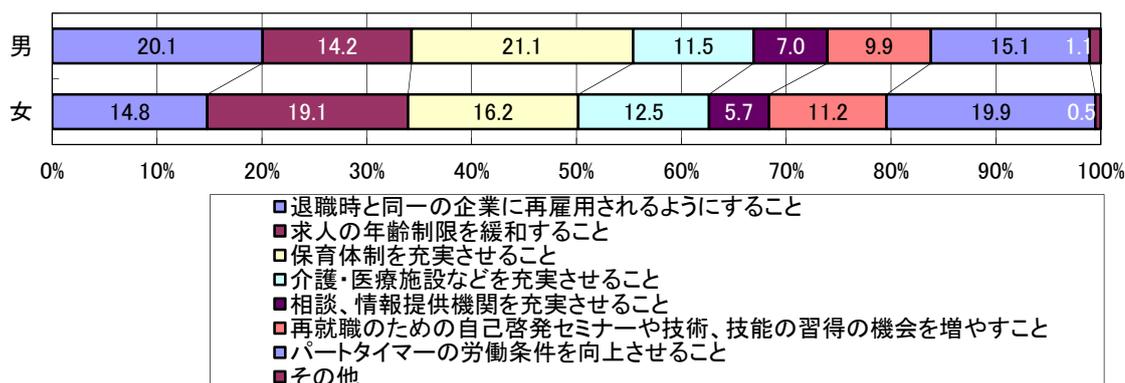
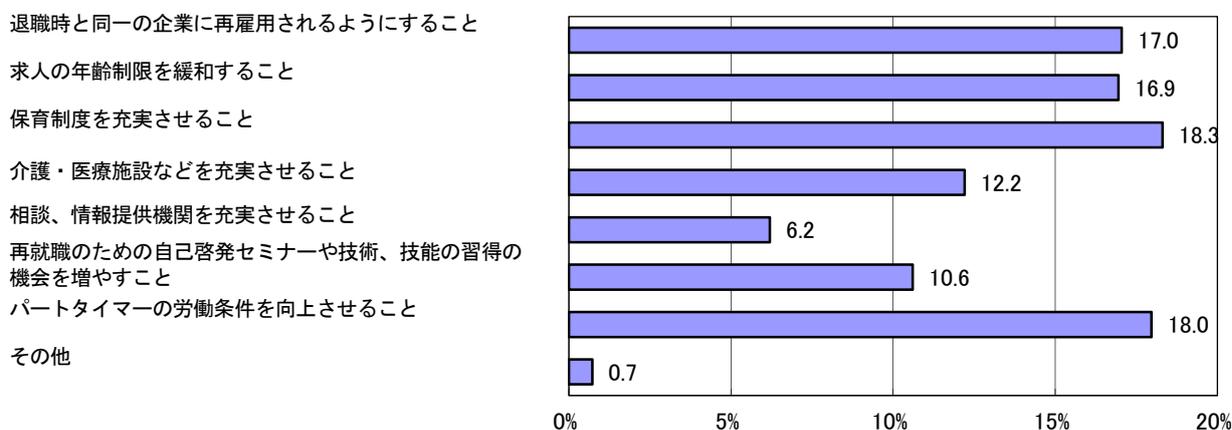
<性別による比較>

男女ともに同様の回答が得られ、休業を取得する際の懸念として、給与の問題と、元の職場に復帰できるかが挙げられる。

問12
 いったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。
 (MA)

回答数/回収数 796/877

項目	回答数	構成比
退職時と同一の企業に再雇用されるようにすること	352	17.0
求人の年齢制限を緩和すること	350	16.9
保育体制を充実させること	378	18.3
介護・医療施設などを充実させること	252	12.2
相談、情報提供機関を充実させること	128	6.2
再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得の機会を増やすこと	219	10.6
パートタイマーの労働条件を向上させること	371	18.0
その他	15	0.7
合計	2065	100.0



いったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要か聞いたところ、「保育体制の充実させる」と答えた人の割合が18.3%と最も多くなった。次いで、「パートタイマーの労働条件を向上させること」が18.0%、「退職時と同一の企業に再雇用されるようにすること」17.0%、「求人の年齢制限を緩和すること」16.9%という順であった。

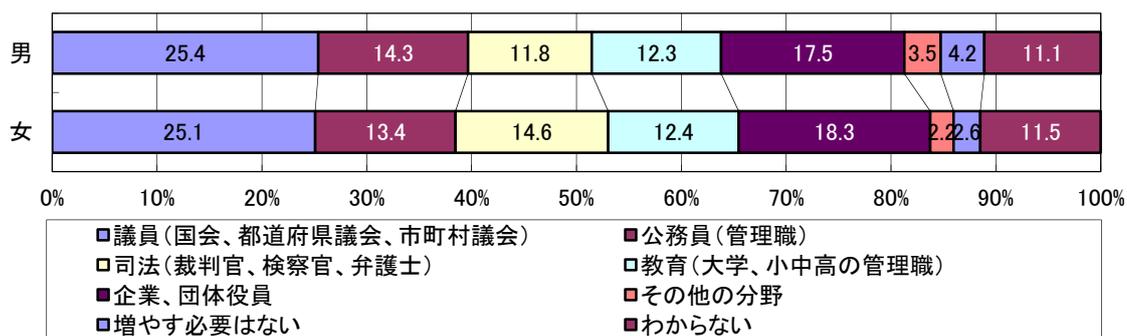
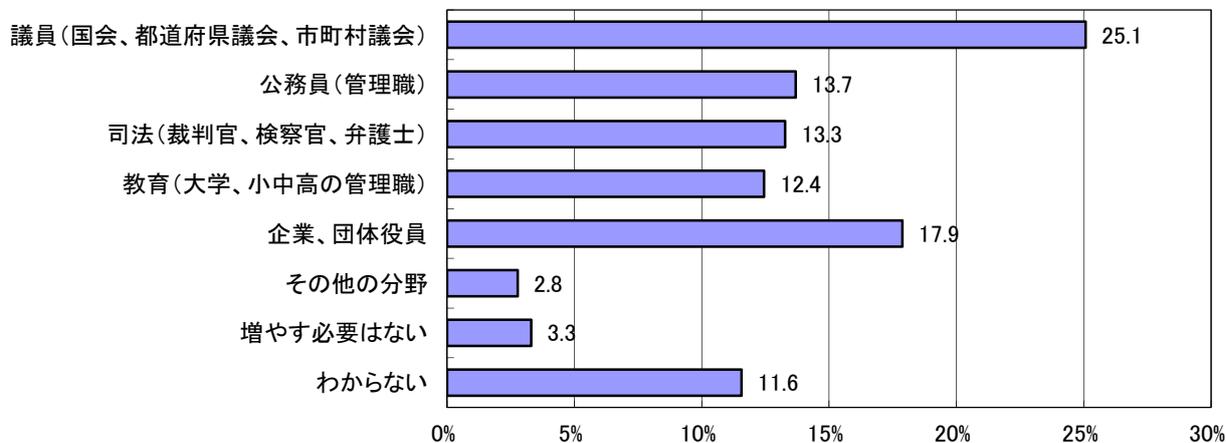
＜性別による比較＞

男性では「保育体制の充実させる」が最も多く21.1%、女性では「パートタイマーの労働条件を向上させること」が19.9%と最も多くなった。

問13
 あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業・役職はどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 826/877

項目	回答数	構成比
議員(国会、都道府県議会、市町村議会)	425	25.1
公務員(管理職)	232	13.7
司法(裁判官、検察官、弁護士)	225	13.3
教育(大学、小中高の管理職)	211	12.4
企業、団体役員	303	17.9
その他の分野	47	2.8
増やす必要はない	56	3.3
わからない	196	11.6
合計	1695	100.0



今後、女性がもっと増えた方がよいと思う職業・役職について聞いたところ、「議員（国会、都道府県議会、市町村議会）」が25.1%と最も高くなった。次いで、「企業、団体役員」17.9%、「公務員（管理職）」13.7%、「司法（裁判官、検察官、弁護士）」13.3%の順となった。

<性別による比較>

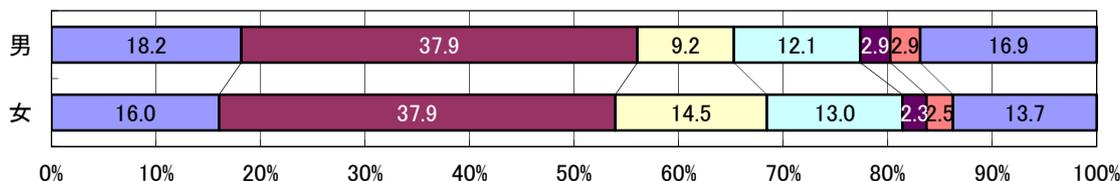
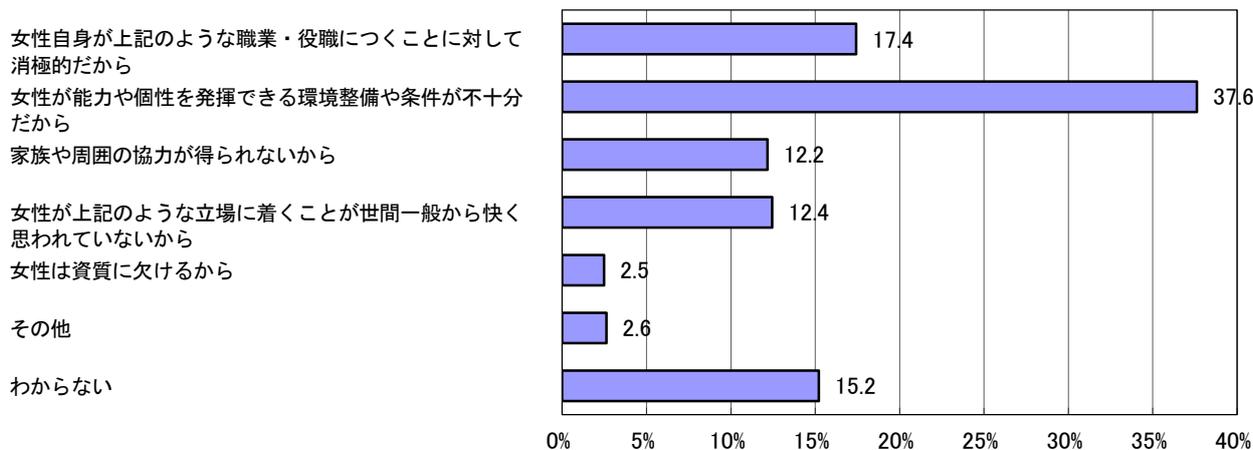
男女とも同様な回答が出ている一方、「司法（裁判官、検察官、弁護士）」で女性14.6%、男性11.8%と女性のほうが高い結果となった。

問13-2

問13で回答した職業・職種に就く女性が少ない理由について、あなたはどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 723/877

項目	回答数	構成比
女性自身が上記のような職業・役職に付くことに対して消極的だから	126	17.4
女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから	272	37.6
家族や周囲の協力が得られないから	88	12.2
女性が上記のような立場につくことが世間一般から快く思われていないから	90	12.4
女性は資質に欠けるから	18	2.5
その他	19	2.6
わからない	110	15.2
合計	723	100.0



- 女性自身が上記のような職業・役職に付くことに対して消極的だから
- 女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから
- 家族や周囲の協力が得られないから
- 女性が上記のような立場につくことが世間一般から快く思われていないから
- 女性は資質に欠けるから
- その他
- わからない

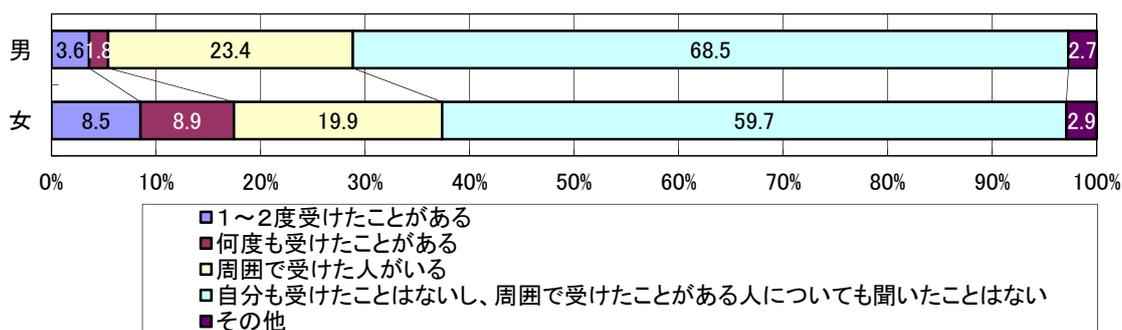
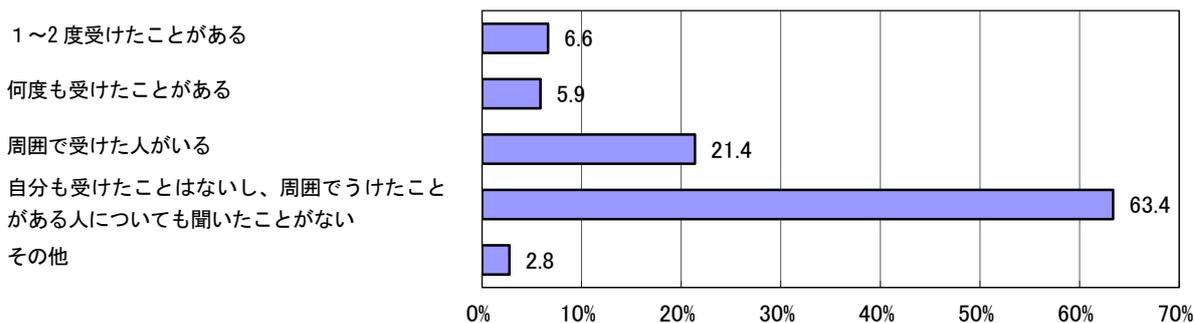
5 男女の人権について

問14

あなたは、配偶者や恋人などから身体的暴力（なぐる、ける）や精神的暴力（心理的脅迫、大声でどなる）、性的暴力（避妊に協力しない、中絶の強要）、経済的暴力（生活費を渡さない）を受けたり、見聞きしたことはありますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。（SA）

回答数/回収数 800/877

項目	回答数	構成比
1～2度受けたことがある	53	6.6
何度も受けたことがある	47	5.9
周囲で受けた人がある	171	21.4
自分も受けたことはないし、周囲で受けたことがある人についても聞いたことはない	507	63.4
その他	22	2.8
合計	800	100.0



配偶者や恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「自分も受けたことはないし、周囲でうけたことがある人についても聞いたことがない」とする人の割合が63.4%と最も多いが、「1～2度受けたことがある」(6.6%)「何ども受けたことがある」(5.9%)と、暴力を受けたことがあるとする人の割合は12.5%となっている。

<性別による比較>

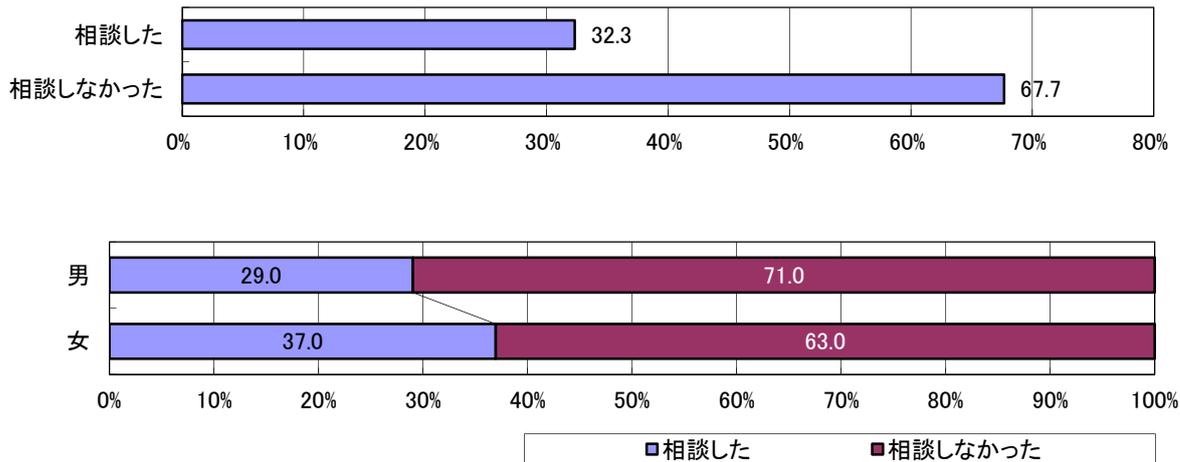
暴力を受けたことがある男性は合わせて5.4%、女性は合わせて17.4%で、女性への暴力の方が多くなっている。また、「何どもある」と答えた女性は8.9%と、男性(1.8%)を7.1ポイント上回っている。

問14 (II)

問14で「1」または「2」を選んだ方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。あてはまるものどちらかの番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 99/100

項目	回答数	構成比
相談した	32	32.3
相談しなかった	67	67.7
合計	99	100.0



「DVを受けたことがある」と回答した人に「相談の有無」について聞いたところ、「相談した」とする人の割合は32.3%、「相談しなかった」(67.7%)となっている。

<性別による比較>

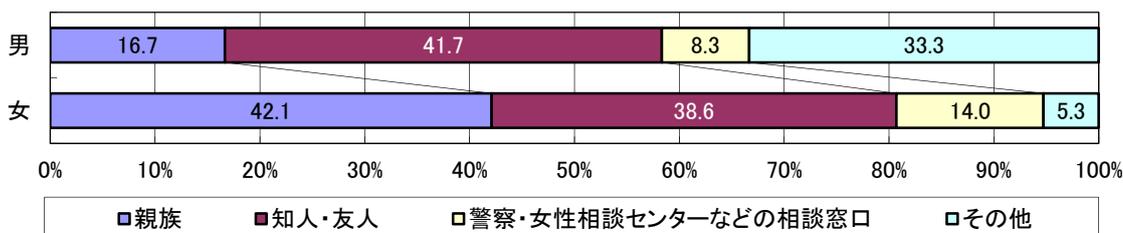
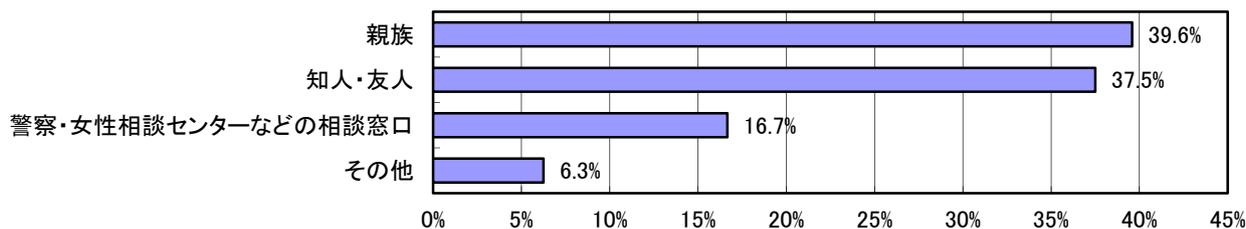
女性よりも男性の方が「相談しなかった」とした割合が多くなった。

問14(2)-1

問14(2)で「1」を選んだ方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 32/32

項目	回答数	構成比
親族	19	38.8
知人・友人	19	38.8
警察・女性相談センターなどの相談窓口	8	16.3
その他	3	6.1
合計	49	100.0



暴力を受けたことがあると答えた人に、誰かに相談したかどうか聞いたところ、「親族に相談した」(39.6%)「友人・知人に相談した」(37.5%)を挙げた人の割合が高くなっている。また、「警察・女性相談センター等相談窓口」(16.7%)と公共相談窓口の利用も見られた。

<性別による比較>

「親族」に相談したと回答した人の割合は女性(42.1%)の方が男性(16.7%)より高く、「友人・知人」に相談したと回答した人の割合は、男性(41.7%)の方が女性(38.6%)より高くなっている。また、「警察・女性相談センターなどの相談窓口」は女性の方が男性よりも回答した人の割合が高い。男性は「その他」と回答した人が(33.3%)と多い。

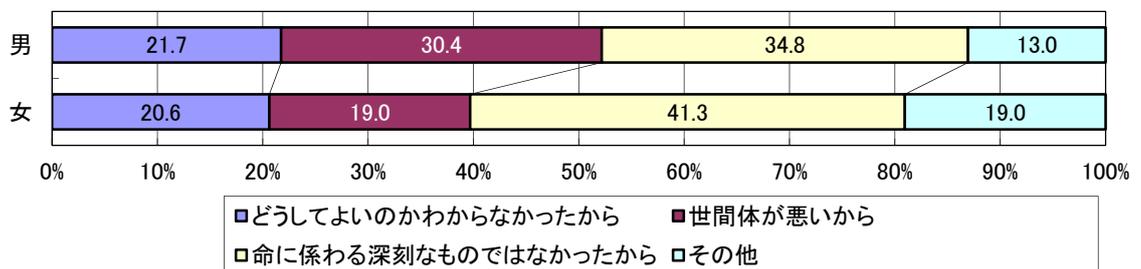
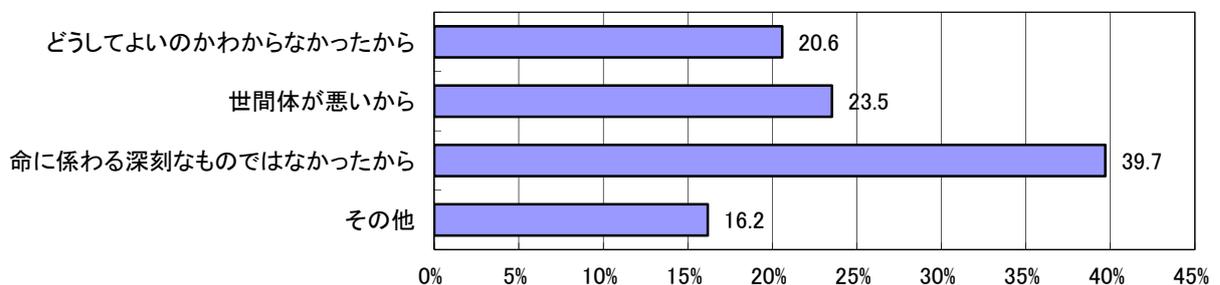
問14(2)-2

問14(2)で「2」を選んだ方にお聞きします。相談しなかった。できなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

(1) 相談しなかった理由

回答数/回収数 62/67

項目	回答数	構成比
どうしてよいのかわからなかったから	14	20.6
世間体が悪いから	16	23.5
命に係わる深刻なものではなかったから	27	39.7
その他	11	16.2
合計	68	100.0

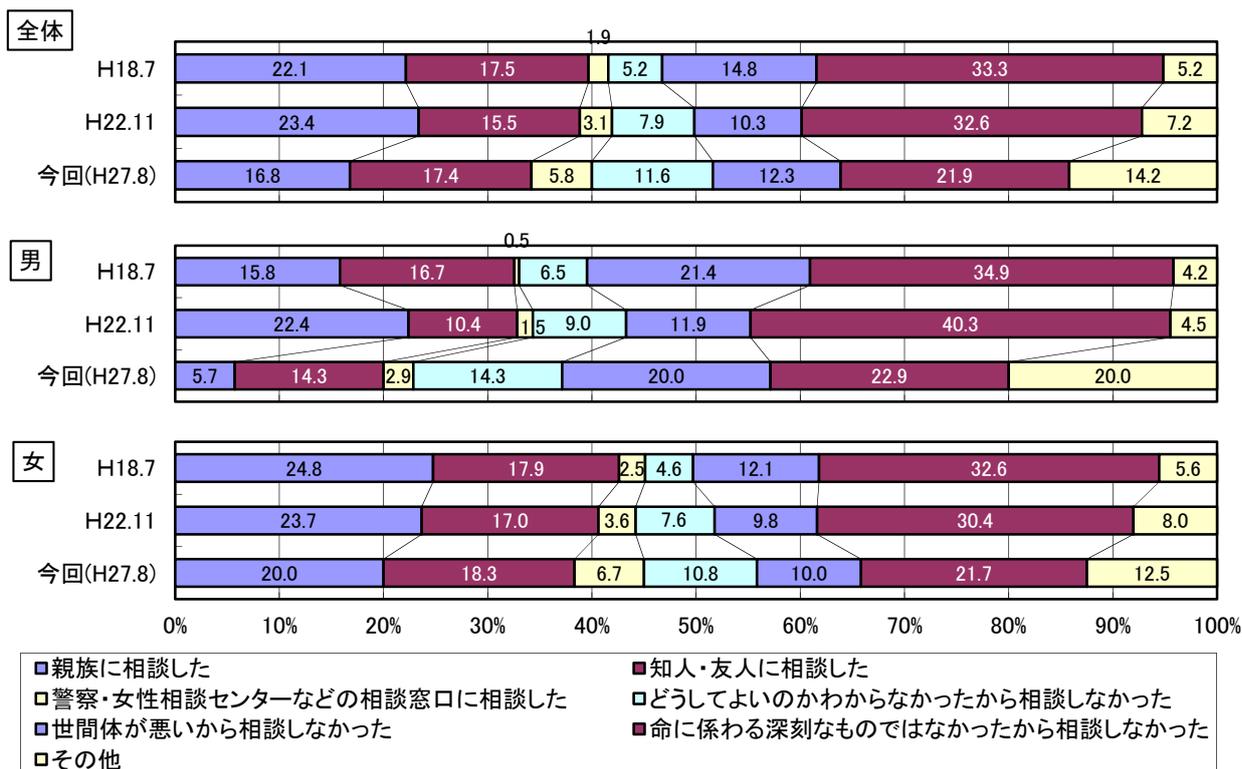


「DVを受けたことがある」と回答した人に「相談しなかった理由」について聞いたところ、「命に係わる深刻なものではなかったから」とする人の割合が39.7%と最も高くなった。「世間体が悪かったから」23.5%、「どうしたらよいかわからなかった」20.6%と続き、その他と回答する人も16.2%であった。

<性別による比較>

「世間体が悪いから」と回答した割合は、女性(19.0%)よりも男性(30.4%)の方が多くなった。

一方、「命に係わる深刻なものではなかったから」とした割合は、女性(41.3%)の方が男性(34.8%)よりも高くなった。「どうしたらよいかわからなかったから」とした人は、男女ともに2割程度の人が回答している。



(2) 相談しなかった理由（既往調査との比較）

性別にみると、男性は「相談した」とする人の割合は（33.0%→34.3%→22.9%）と10.1ポイント減少し、「相談しなかった」とする人の割合も（62.8%→61.2%→57.2%）と5.6ポイント減少している。女性は「相談した」とする人の割合は（45.2%→44.3%→45.0%）と0.2ポイント増加し、「相談しなかった」とする人の割合も（49.3%→47.8%→42.5%）と6.8ポイント減少している。

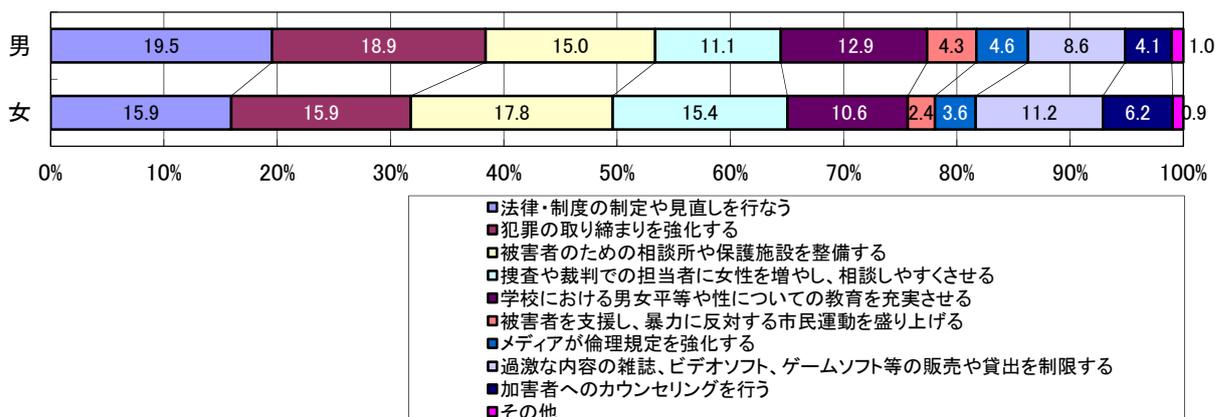
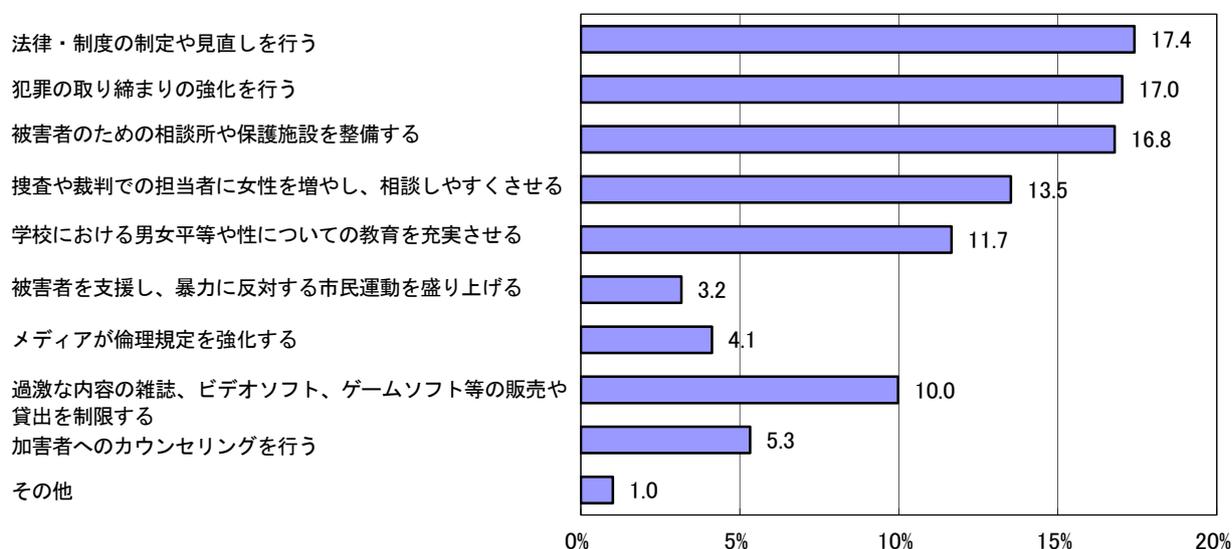
全体で見ると、「相談した」とする人の割合は（41.5%→42.0%→40.0%）と1.5ポイント減少し、「相談しなかった」とする人の割合も（53.3%→50.8%→45.8%）と7.5ポイント減少している。一方でその他とした回答が増加しており、「我慢する」といった回答が多くみられた。

問15

性犯罪、売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、配偶者等の暴力、セクシャル・ハラスメント等、女性に対する暴力や差別をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。（MA）

回答数/回収数 783/877

項目	回答数	構成比
法律・制度の制定や見直しを行なう	363	17.4
犯罪の取り締まりを強化する	355	17.0
被害者のための相談所や保護施設を整備する	350	16.8
捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくさせる	282	13.5
学校における男女平等や性についての教育を充実させる	243	11.7
被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	66	3.2
メディアが倫理規定を強化する	86	4.1
過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する	208	10.0
加害者へのカウンセリングを行う	111	5.3
その他	21	1.0
合計	2085	100.0



「女性に対する暴力や差別をなくすためにはどうしたらよいか」聞いたところ、「法律・制度の制定や見直しを行う」と回答した人が17.4%と最も多く、次いで「犯罪の取り締まりの強化を行う」（17.0%）の順であり、法律・制度の充実や取り締まり強化による公的な支援を望む回答が多く得られた。また、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」（16.8%）「捜査や裁判

第2章 単純集計結果 5 男女の人権について

での担当者に女性を増やし、相談しやすくさせる」(13.5%)と、相談や保護する場所の充実を求める回答も多くなった。さらに、日常生活における「過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」についても(10.0%)回答が見られた。

<性別による比較>

男女ともに同様な回答が得られたが、「捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくさせる」が男性 11.1%に対して女性 15.4%と 4.3 ポイント高く、「法律・制度の制定や見直しを行う」については男性 19.5%、女性 15.9%と男性の方が 3.6 ポイント高く、同様に「犯罪の取り締まりの強化を行う」については男性 18.9%、女性 15.9%と男性が 3.0 ポイント高くなった。

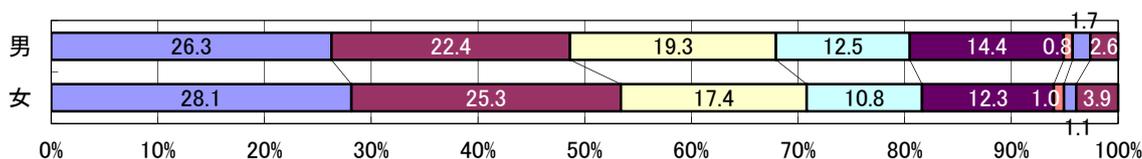
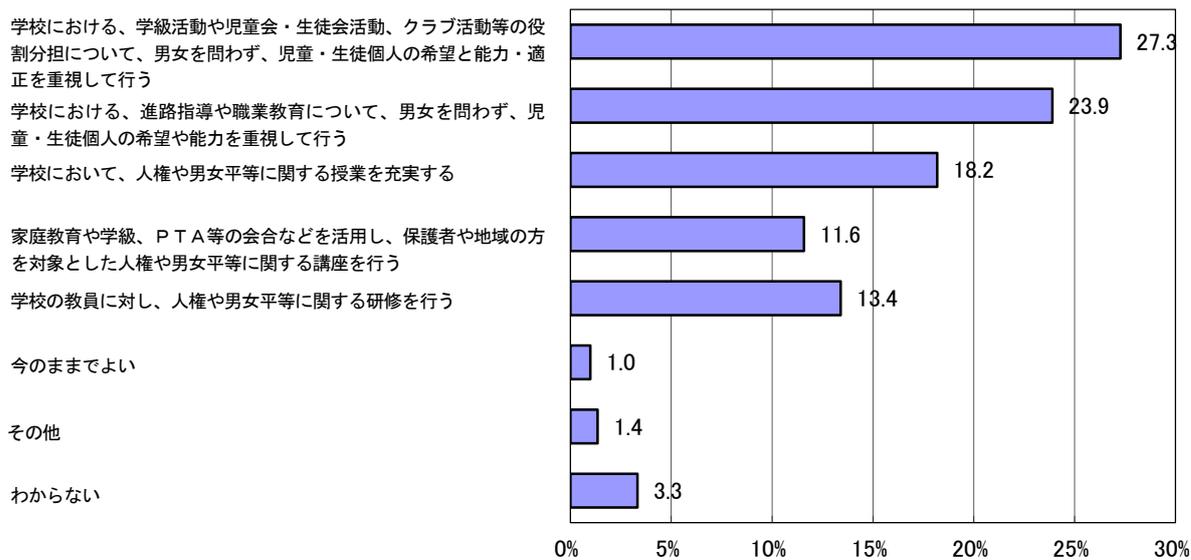
6 子どもの教育について

問16

次の世代を担う子どもたち（小・中学生）に対して、人権尊重や男女平等の意識を育成するために重要だと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。（MA）

回答数／回収数 821／877

項目	回答数	構成比
学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適正を重視して行なう	525	27.3
学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力・適正を重視して行なう	460	23.9
学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する	350	18.2
家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行なう	223	11.6
学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行なう	258	13.4
今のままでよい	19	1.0
その他	26	1.4
わからない	64	3.3
合計	1925	100.0



- 学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適正を重視して行なう
- 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力・適正を重視して行なう
- 学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する
- 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行なう
- 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行なう
- 今のままでよい
- その他
- わからない

第2章 単純集計結果 6 子どもの教育について

次の世代を担う子どもたち（小・中学生）に対して、人権尊重や男女平等の意識を育成するために重要だと思うものについて聞いたところ、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適正を重視して行う」と回答した人が27.3%と最も多くなった。次いで、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う」が23.9%、「学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する」18.2%の順となり、学校教育が「人権尊重や男女平等の意識を育成するために重要」と回答した人が多くなった。また、「保護者、地域」「教員」への男女平等に関する研修、講座の開催についての回答は、それぞれ11.6%、13.4%となった。

<性別による比較>

男女ともに同様の意見であったが、「学校における指導」について、女性（53.4%）の方が男性（48.7%）よりも高いことに対し、「家庭、地域、教員に対する研修、講座の開催」について男性（26.9%）の方が女性（23.1%）よりも高い結果となった。

7 男女共同参画に関する施策について

問17

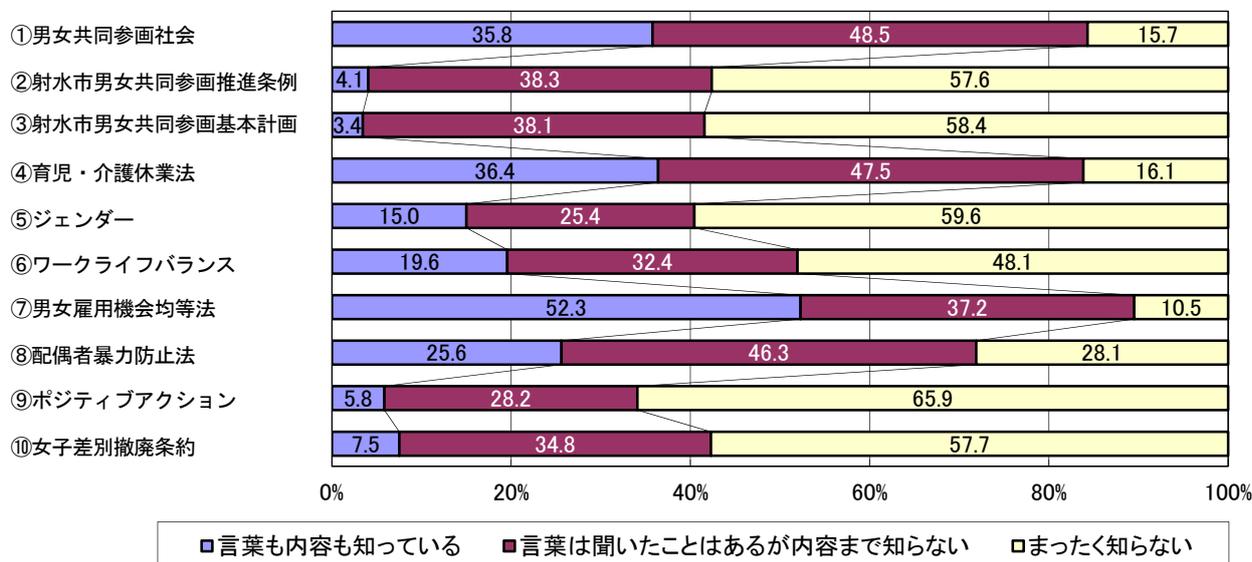
あなたは、次に挙げる言葉についてどの程度ご存知ですか。①～⑩についてあてはまるものをそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数

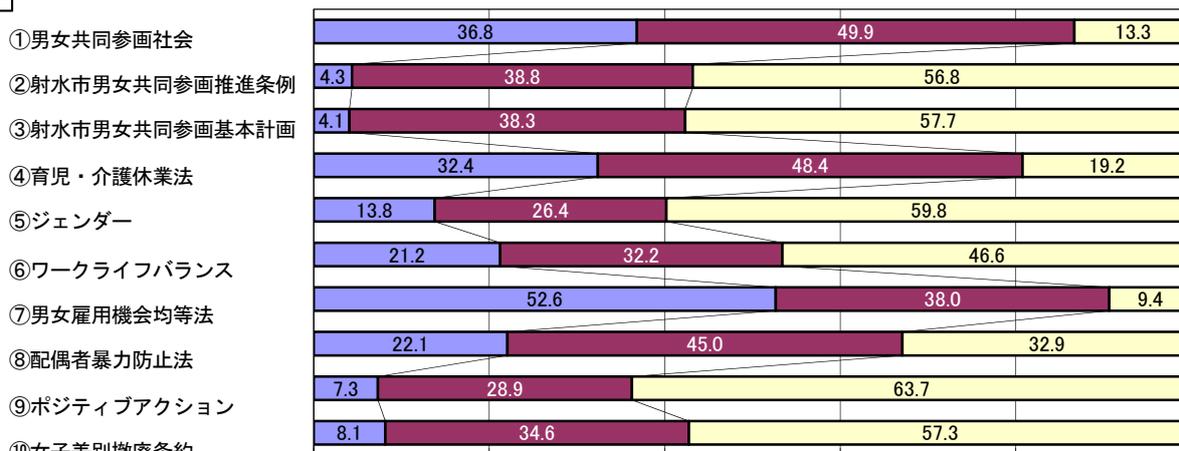
816/877

(上段:回答数、下段:%)

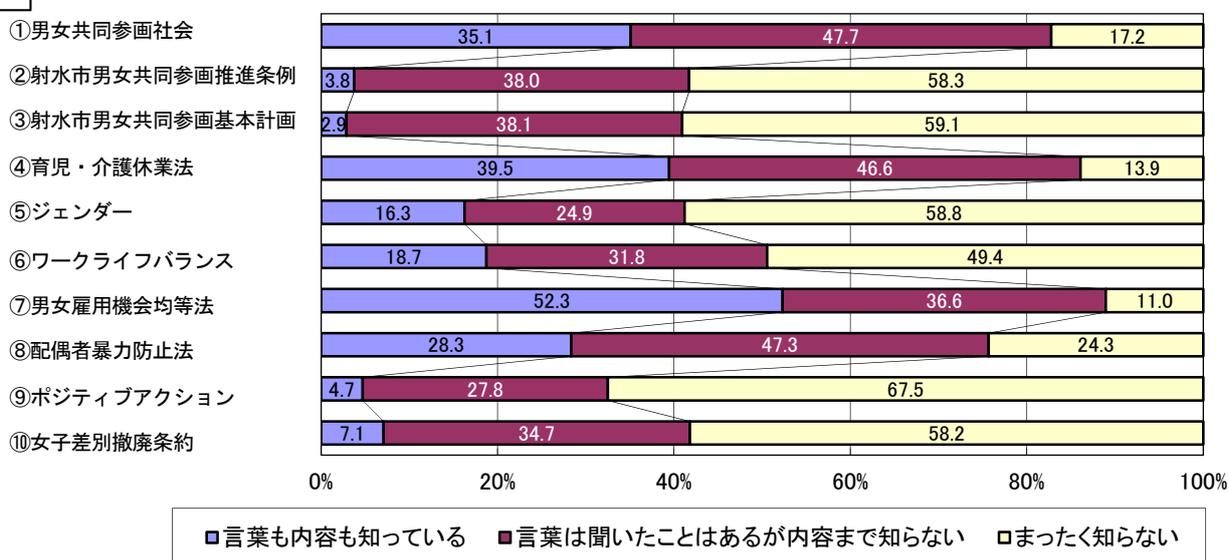
項目	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	合計
①男女共同参画社会	292 35.8	396 48.5	128 15.7	816 100.0
②射水市男女共同参画推進条例	33 4.1	312 38.3	469 57.6	814 100.0
③射水市男女共同参画基本計画	28 3.4	310 38.1	475 58.4	813 100.0
④育児・介護休業法	293 36.4	382 47.5	130 16.1	805 100.0
⑤ジェンダー	121 15.0	205 25.4	480 59.6	806 100.0
⑥ワーク・ライフ・バランス	156 19.6	258 32.4	383 48.1	797 100.0
⑦男女雇用機会均等法	424 52.3	302 37.2	85 10.5	811 100.0
⑧配偶者暴力防止法	206 25.6	372 46.3	226 28.1	804 100.0
⑨ポジティブ・アクション	47 5.8	227 28.2	530 65.9	804 100.0
⑩女子差別撤廃条約	61 7.5	282 34.8	468 57.7	811 100.0



男



女



言葉の周知について聞いたところ、「男女雇用機会均等法」が 89.5%と最も高くなった。次いで、「男女共同参画社会」84.4%、「育児・介護休業法」が84.3%であった。

一方、「まったく知らない」と回答した人が多かったのは「ポジティブアクション」65.9%、「ジェンダー」59.6%、「射水市男女共同参画基本計画」58.4%、「女子差別撤廃条約」57.7%、「射水市男女共同参画推進条例」57.6%となった。

<性別による比較>

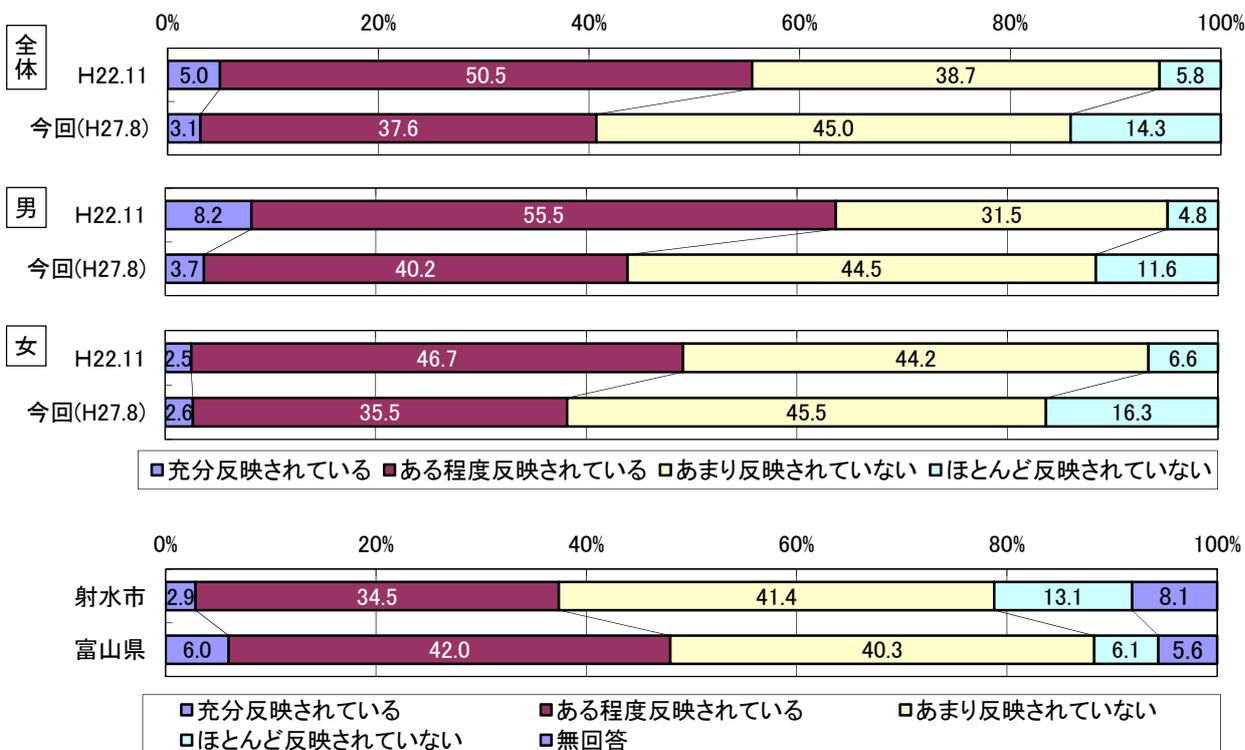
男女ともに同様の回答を得られたが、「育児・介護休業法」について、「言葉も内容も知っている」女性が 39.5%であったのに対し、男性は 32.4%と 7.1 ポイント低く、「配偶者暴力防止法」について「言葉も内容も知っている」について女性が 28.3%であったのに対し、男性は 22.1%と 6.2 ポイント低い結果であった。

問18

あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで番号に○印をつけてください。(S A)

回答数/回収数 822/877

項目	回答数	構成比
充分反映されている	26	3.2
ある程度反映されている	310	37.7
あまり反映されていない	369	44.9
ほとんど反映されていない	117	14.2
合計	822	100.0



※全国調査データなし、富山県データとの比較では無回答含む

女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思うかについて聞いたところ、「反映されている」と回答した人が40.9%であったのに対し、「反映されていない」59.1%であった。

<性別による比較>

「反映されている」と回答した人が男性43.9%であったのに対し、女性は38.1%と5.8ポイント低くなっている。

<既往調査との比較>

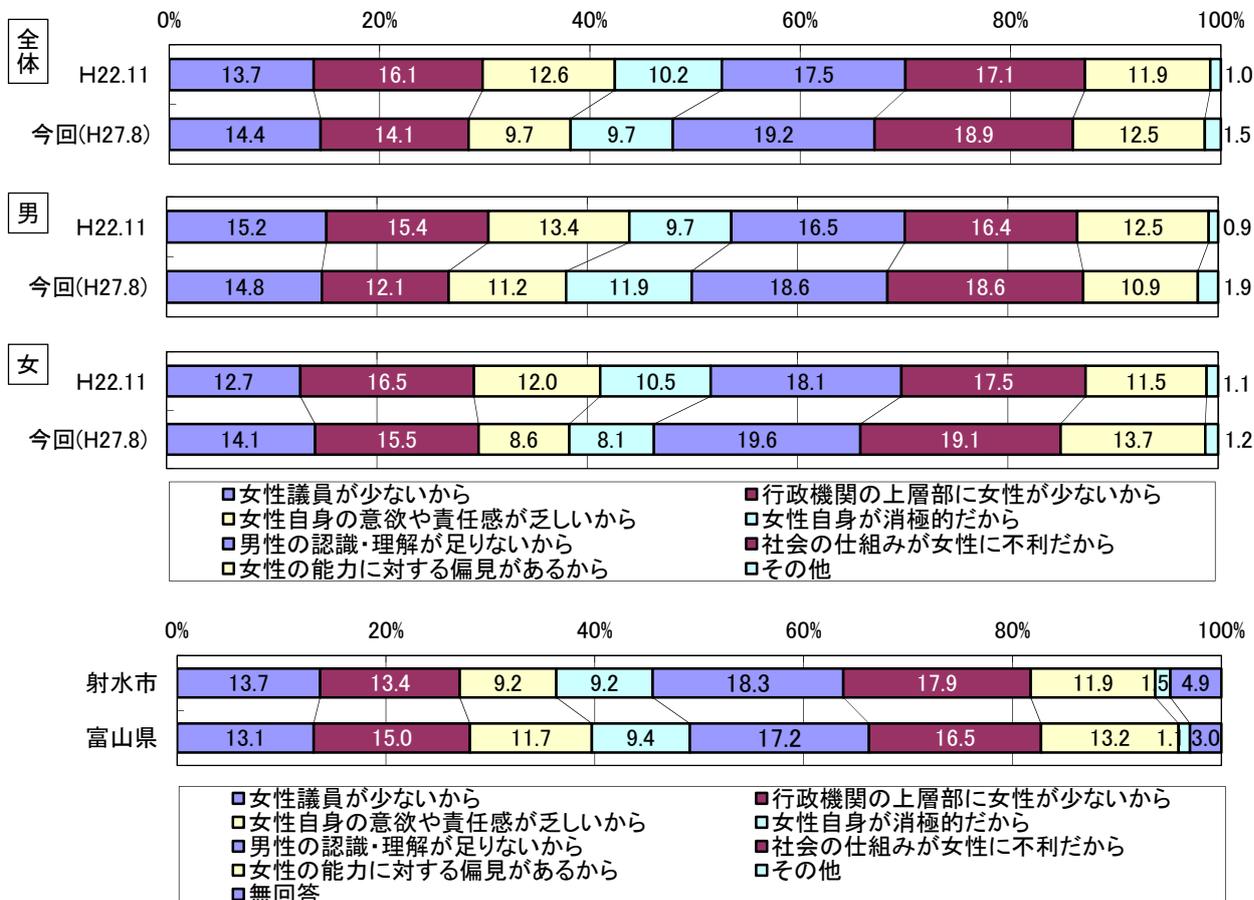
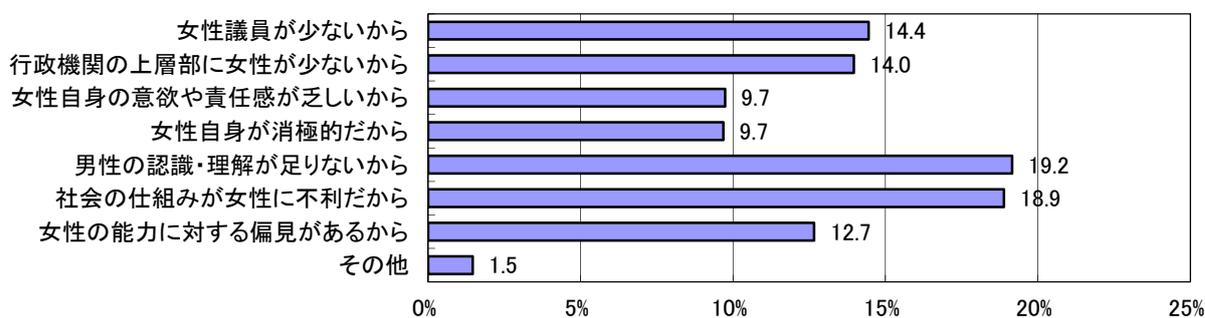
平成22年度では「反映されている」と回答した人が55.5%であったのに対し、今年度40.7%と14.8ポイント低くなっている。

富山県との比較では、「反映されている」の回答が10.6ポイント低くなっている。

問18-2
 問18で「2」～「4」を選んだ方にお聞きします。女性の意見が反映されていない理由について、次の中からあなたが考えるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 765/796

項目	回答数	構成比
女性議員が少ないから	267	14.4
行政機関の上層部に女性が少ないから	258	14.0
女性自身の意欲や責任感が乏しいから	180	9.7
女性自身が消極的だから	179	9.7
男性の認識・理解が足りないから	354	19.2
社会の仕組みが女性に不利だから	349	18.9
女性の能力に対する偏見があるから	234	12.7
その他	27	1.5
合計	1848	100.0



※全国調査データなし、富山県データとの比較では無回答含む

前問で「十分反映されていない」とした人に、その理由について聞いたところ、「男性の認識、理解が足りない」を挙げた人の割合が19.2%と最も高く、次いで「社会の仕組みが女性に不利である」(18.9%)、「女性議員が少ない」(14.4%)、「行政機関の上層部に女性が少ない」(14.0%)などの順となっている。

<性別による比較>

男女ともに「男性の認識、理解が足りない」(男性 18.6%、女性 19.9%)「社会の仕組みが女性に不利である」(男性 18.6%、女性 19.1%)を挙げた人の割合が最も高くなっている。

<既往調査との比較>

「行政機関の上層部に女性が少ないから」「女性自身の意欲や責任感が乏しいから」「女子自身が消極的だから」と回答した人の割合が減少しているのに対し、「女性議員が少ないから」「男性の認識・理解が少ないから」「社会の仕組みが女性に不利だから」「女性の能力に対する偏見があるから」が増加している。

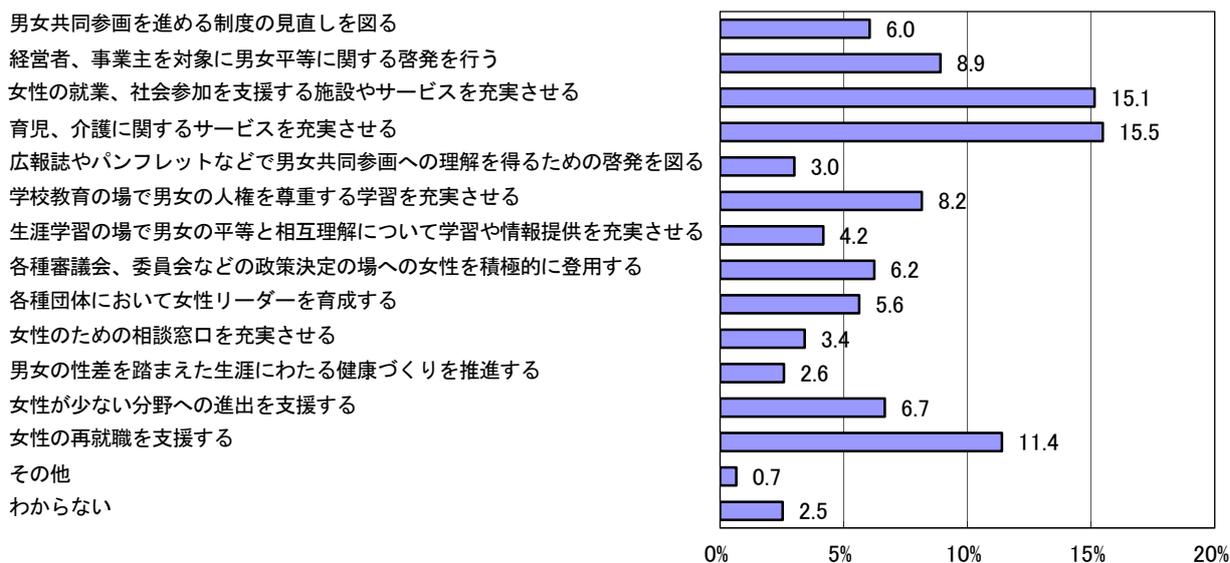
<富山県との比較>

同じような回答を得られているが、「女性議員が少ないから」「男性の認識・理解が少ないから」「女性の能力に対する偏見があるから」の項目で富山県よりもポイントを上回っている。

問19
男女共同参画を推進していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

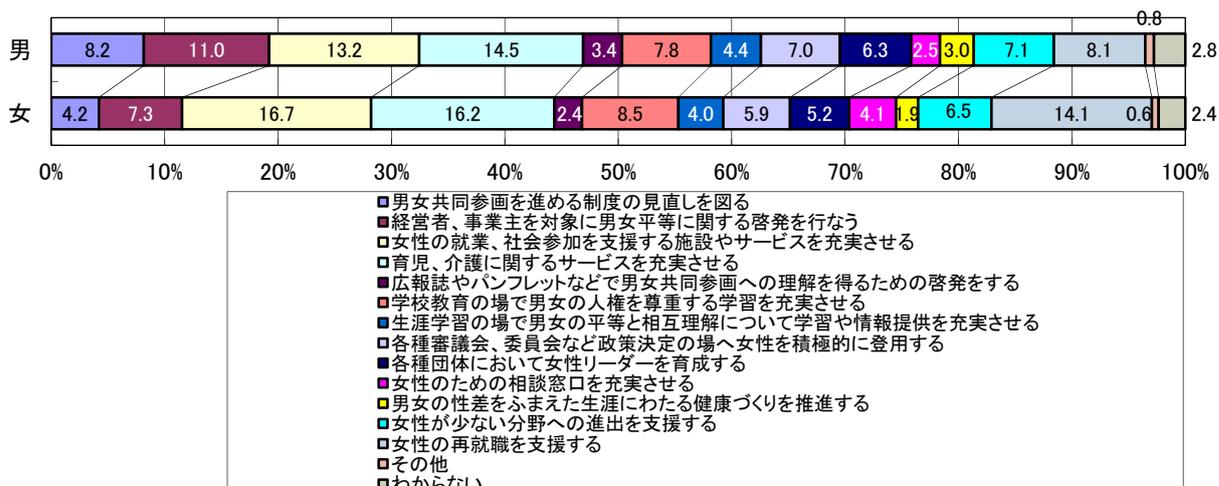
回答数/回収数 808/877

項目	回答数	構成比
男女共同参画を進める制度の見直しを図る	129	6.0
経営者、事業主を対象に男女平等に関する啓発を行なう	190	8.9
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる	323	15.1
育児、介護に関するサービスを充実させる	330	15.5
広報誌やパンフレットなどで男女共同参画への理解を得るための啓発をする	64	3.0
学校教育の場で男女の人権を尊重する学習を充実させる	174	8.2
生涯学習の場で男女の平等と相互理解について学習や情報提供を充実させる	89	4.2
各種審議会、委員会など政策決定の場へ女性を積極的に登用する	133	6.2
各種団体において女性リーダーを育成する	120	5.6
女性のための相談窓口を充実させる	73	3.4
男女の性差をふまえた生涯にわたる健康づくりを推進する	55	2.6
女性が少ない分野への進出を支援する	142	6.7
女性の再就職を支援する	243	11.4
その他	14	0.7
わからない	54	2.5
合計	2133	100.0



男女共同参画を推進していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきか聞いたところ、「育児、介護に関するサービスを充実させる」、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」についてそれぞれ15.5%、15.1%と多くの人の回答を得た。次いで「女性の再就職を支援する」11.4%、「経営者、事業主を対象に男女平等に関する啓発を行う」8.9%、「学校教育の場で男女の人権を尊重する学習を充実させる」8.2%の順であった。

第2章 単純集計結果 7 男女共同参画に関する施策について



<性別による比較>

男女ともに同様の回答であったが、「男女共同参画を進める制度の見直しを図る」「経営者、事業主を対象に男女平等に関する啓発を行う」の項目で男性の回答が女性より4ポイント程度上回り、一方、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」「育児、介護に関するサービスを充実させる」の項目で女性が男性より2ポイント程度上回る結果となった。

<既往調査との比較>

質問項目について多少違いがあるものの、「条例の整備」「男女共同に関する啓発」に関する回答の割合が低下し、「女性の就業を支援する施設やサービスの充実」「育児、介護に関するサービスの充実」の回答に対する割合が増加している。

8 自由意見

問 20

男女共同参画を推進していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

(MA)

性別	年齢	自由記述
男	50～59 歳	私の職場でも男女共同参画が言われていますが、殆どの女性の方が何につけても(仕事も含め)消極的な人が多いのです。まずは女性の方々自身の意識を変革していくことだと思います。社会は遊びではありません。男ばかりに任せていけばいいやという女性の方々の考え方の根本を問い質し変えていくことだとおもうのですが
男	40～49 歳	アンケートをしても現実的には変化を感じる事が少ない。目に見えて分かる変化が必要であると感じる。
男	30～39 歳	高卒の私には難しいことはわかりませんが、男女の違いをお互いに理解し、尊重し、弱い所を助け合うことが大事だと思います。市民の大半は中小企業に勤めているのではないかと思います。そもそも、中小企業に様々な制度を充実させる事が必要。中小企業が様々な制度を充実させるには行政のバックアップ(金銭面)がないと難しいと思います。企業まかせでは前に進まないと考えています。
女	30～39 歳	男性の家事について、家事を任せても、家事能力が低く、結局自分(女)が家事をしてしまう。男性の家事能力がもっと高くなれば良いと思う。家事を男性に任せても、男性にはやってあげている感がある。男性も家事をして当たり前な社会であればと思う。
男	40～49 歳	もし、職場に養育施設を設立 OK としたらすべての問題は解決できると思う。
女	70 歳以上	女性は家庭や育児を大事にして男性を尊とぶ今までのほうがよい。その方が女性も大事にしてもらえ男性は思いきり仕事に精を出し、家庭もうまくいきます。最近の女性は家事も育児も大変で男の力ばかりあてにして口ばかりが強くなりケンカがたえないと聞いています。役割分担をして助け合い、協力して家庭を守り、地域のつながりも強力にして楽しく生きがいのある生活をしてほしいです。特に料理をする事が大事だと思います。それが女性の幸せ度を向上させます。外で働くということはどんなに大変なことか良い家庭を営んでいくことが大変なことか、感謝をして男性を立て、家長として寄り添って子育てが終れば経済的にも協力する。
男	30～39 歳	このアンケートに関してもそうだが、男女平等を謳う場合必ず、女性が冷遇されているとするのは、いかがなものか。女性が優遇されているものも多数あると思われる。行政、マスコミが挙って女性冷遇の立場に立つため、すり込み作用により世間がそのような風潮になっているのではないか。(行政等が一因になっているのでは?) 女性が優遇されている場合でも男性を感じる不平等をこの場を借りていわせていただいた。
女	70 歳以上	まだ職場、学校では男女平等でないことがたくさんある
女	60～69 歳	まずは自治会の役員構成から

女	60～69 歳	男女平等がどこまでなのか、又、男女共同参画、男女平等の中身の問題で、最終的に責任をとってできるかのように思えます。身近な問題でもいろいろな人が混ざっている今日、とても恥ずかしい問題なのではないでしょうか？
女	70 歳以上	男女平等といいますが男性のほうが中心になって社会を動かして行かれたほうがよいと思います。女性は子供を産まなければ社会がなりたちません。若い人達の結婚できない社会ではだめだと思っています。
男	60～69 歳	個人のニーズが多様化しており、無駄のない予算化。必要性を明確化する。
男	40～49 歳	企業、ベースアップ、人材不足、対応して。日々望まれることですが男女平等、等しておきましても一回おきたい。
男	30～39 歳	途中で回答する気が失せました。こんなことを市民に聞く暇があったら、行政の人達はきっと熱意も能力もあるでしょうから、何をしたらよいかを自分で考えて責任をもって胸を張ってやってください。
女	20～29 歳	小学生の子供がいますが、昔は野球は男のスポーツというのがあたりまえのようでしたが、今は女の子も見られ、差別というものは全く感じられません。今の学校は「女の子だから」とか「男じゃない」ということはあまり感じられない場所になってきていると思います。しかし当たり前のことですが、それぞれの性格によって家庭生活が成り立っているところもあると思うので、何でもかんでも男女共にというもうるさくいいすぎなくて大丈夫なのではないかなと思います。
不明	不明	昔は、PTA 役員と言えれば母親の仕事でしたが、今時は父親の参加率も多く、平等になってきたように思います。
男	70 歳以上	少子高齢化の進む社会で将来の発展を図るため育児、保育への充実、子供の医療費、教育費の助成。
男	20～29 歳	女性も男性も能力ややる気があれば、どの仕事をしていても問題ないように感じます。よほど危険や体力を伴う仕事を除いては
女	20～29 歳	女性が結婚、出産、育児をする時にどんなに能力があろうともどちらかを選択して（仕事か家庭）どちらかを諦めなければいけない。人生が変わる局面にさらされます。社会で会社で昇格するには、どんなキャリアがあっても一旦自分の気持ちとは裏腹に決めないとダメというのをよく聞きます。色んな方の話を聞くとあまりに負担が多く復帰してもバリバリと第一線でしていた時の能力と同等を求められ出来なければそこに居づらくなるとせっかく能力があるのに、理解を得られず又、新人にも任せることもできずどうしようもない状況もあるのも確かです。昔のしきたりも大切です。でも今の時代に合わせた昔のしきたりもおきざりにならない考え方も大切だと思います。最近男女共にモラルのない方々をととても良く目にします。接客業をしていて目の当たりにするのは、家庭環境だと感じる事が多いです。孤児や寂しさからくる色々な問題もあり、仕事のこういったキャリアアップに対してのリスクや不安もあると思います。親が親なら子供も同じだと感じる事が多いです。叱らない親、理不尽なクレームなど世の中がおかしな方向になっていると思うてしまう。まともな人を育てるにはまず親の教育になるのでしょうか、、、
女	40～49 歳	親の介護は完全に男女平等が当たり前な社会になってほしい。
男	60～69 歳	男女平等について体力差があるから基本的に難しい。
女	50～59 歳	富山県では保育所の待機児童がほとんどいないようであり、働く母親にとって

		は、福祉行政的に充実しているようである。しかし生後2ヶ月から預けるというのは親にとってはよいが子供にとっては？である。離乳食やオムツトレーニング等、親自身が他人にまかせきりによしとしているのはどうか・・・もっと育児の素晴らしさと責任を感じてもらいたい。そのためには育児休暇の充実と、以前の仕事に復帰できる保障をしてほしい。
男	70歳以上	1.自治会における参加呼びかけ、相談、自治活動の連絡報告が欠けている現状である。2.自治会員が安心して自治会後に相談できない。3.自治会後員が会員の声を殆ど無視しているのが現状である。特に中野自治会の抗議をお願いします。
女	60～69歳	公的な場では男女平等と言われ、実行もされていますが、家庭や小さな社会では、まだまだ男が上。実際、私は男の子を産めなかったため嫁として役目をはたさなかったと40年近く言われ続けました。
男	60～69歳	通勤先でも「私は女性だから」って考えの方を見受けます。女性側にも「責任感を持って、仕事をなしとげる」という意識を向上させないと、女性管理職は増えない。逆に企業は「社員の〇割以上は女性管理職」という政策はとんでもない政策である。管理職として通勤させるということは企業の命運がかかっている。人格、資質、能力、統率力等、男女問わず管理職としてふさわしい人間を登用することが最も重要であり、ただ女性だから管理職に任命したなんてことになったら、その企業だけでなく我が国が退廃することになる。
男	30～39歳	女性については、仕事を頑張る人、育児を頑張る人に別れているように見えます。本人の意思、希望を聞き、仕事について向上したいのであれば支援する制度、子育ても頑張りたい人にはまた別の支援をする制度があってもいいと思います。画一的に「男性」「女性」ではなく良い意味で個人主義を尊重できる制度の設計をされればよいと思います。育休中に異動させないのはいいいですが、「一人」とみなしてしまうと周りの人が快く思いませんし、本人にとっても良い気分にはなれないでしょう。
女	70歳以上	今のままではいいとも思わないが、もっともっと女性進出を受け入れる社会になってほしいと思います。
男	70歳以上	共同理解。協力し合って役に立つ人を育てる。一番市民の役に立つ所、役に立つ人のいるところ。役所(市役所)。役人(市職員)。
男	60～69歳	この年代の者は、男性の認識、理解がどうしても不足していると思う。これからは、学校教育、生涯学習等で意識の改善等を図っていく事が大切であると思う。
女	20～29歳	一部の男性が私たち女性のことを能力がない者だと思って公の前で女性が発言すると「女性は大人しく黙っていればいい」という考えを持っている人がいたので、発言しづらい。高齢の男性は若い女性のことをすぐく下に見ており、平気で怒鳴りつけたり暴力、暴言を吐くのでやめてほしい。男女平等にできない原因のひとつは、高齢の方にある固定概念があるからではないかと思う。
女	20～29歳	高岡市では生涯学習センター内に男女平等推進センターがあり、相談員による相談や講演会や男性むけの料理教室等を行っています。射水市ではセンターがあるのか、そのような取組みがなされているのか知らないのが現状です。射水市は他市町村から若い世代の流入が比較的多いと思うので、若い世代への男女平等共同参画の働きかけを強化してほしいと考えます。

男	40～49 歳	男の子も女の子も平等にしていかなければ良くないと思います。
女	20～29 歳	物腰柔らかな、頭の良い女性数名を活躍させる場を作り、射水市民に周知させることで、女性が大いに活躍する道づくりに一役かうと思います。あくまでも頭が良いだけでなく、人当たりが良い人です。そうすれば女性の社会進出の見方も、もう少し良くなると思います。
女	40～49 歳	男女の賃金の差がいつまでたっても平等にならない。役職もつかない。その上、家庭に戻っても全ての家事を女性がしている。女性のほうが働いている時間が多いと思う。
女	40～49 歳	共働きですが、時間外労働が多いため、家庭のことができない状況にあります。同居の義母の協力は大変ありがたいが、その分夫の協力が少なく、家庭での性的役割が固定され、子供たちもそれが「当たり前」になっていることが、私の中の懸念材料となっています。射水市の中でも田舎の地方なので地域にも性的役割が当たり前のように残っており、高齢者の意識を変えていくことの難しさを感じております。(具体例。お祭り、地藏盆などで子供にも性別により役があつたりなかったりします。地域の伝統は、性的役割が基本となりいろいろな決め事があり、それを崩すのは容易ではありません。)
男	50～59 歳	男女平等や男女共同参画といった言葉がなくなり、一人の人間として、お互いが、周囲が、助け合えるような社会が実現することを願っています。
女	70 歳以上	自治会の会計約の人が突然引越して何もしてなかった事務処理等を私(女性)一人で全部したのに総会の資料にはなにひとつしなかった男性が会計役となっており、すごく屈辱を覚えた経験があります。女性というだけでダメなのです。当然、役員報酬もその男性に行きました。黙って受け取る人の品格も疑いましたが。
男	60～69 歳	男性優位の社会が永久に続くと思います。変えることは困難だと思います。
女	30～39 歳	このアンケートではじょせいがどうかばっかりな気がした。普段、子育てしている方と働いているのですが、子供が熱を出したとかいろいろな学校行事で女性(母)が参加して、職場に穴をあけざるおえない状況になっている気がします。男性(父)の意識の問題、男性側の社会の協力も必要だと日々感じています。土日ならいいけど平日は女性(母)にというのはおかしいかなと思います。
女	20～29 歳	私は、女性が家庭に入る、男性が外で働くことは良いと思う。共働きしないと子供を育てる事が難しい家庭が多いと思うが実際家事の分担や育児のウエイトはどうしても女性が大きくなる傾向にあると思う。結果、子供を増やせず、少子高齢化が進み、年金などの負担が大きくなる。男性の賃金が十分なら専業主婦でどんどん家庭を良くしていけば明るい社会づくりにつながるのではないかな。雇用に関して男女の職種適性はどうしても仕方ないと思う。しかし育児出産の関係か女性の出世は少なく、良くない。仕事に穴をあけるのは会社とすれば迷惑なことなのは仕方ないが、それを迷惑がっているはだれも子供を作り育てなくなってしまふ。パートタイマーの短期雇用や代理の役職を与えるなどして職場の穴をうめる意味でのサポートも必要ではないかな。出産、育児は不利なことなのか? 社会には必要なことなのに金も稼げず子供も育てられないのはおかしい。雇用の不平等をなくすか出産育児のサポートや補助成金制度を充実させなければ人口は減る一方だと思います。射水市は医療補助が充実しており大変よろしいと思うが、保育園の不足や一時預かり保育にもっと力をいれてほし

		い。母親が肉体的にも精神的にも健康に子育てできる街になってほしい。
男	50～59 歳	私が勤めている会社では、女性の役職者を増やす取り組みを今年度からはじめた。元々女性社員が多い職場でもあるが、役職者になることによって、女性の意識が変化するように、企業研修や座談会を開催し、積極的に意識改革に努めるようになった。但し、女性の中には考え方によっては、ここぞとばかりに女性の弱い面を強調して間違った主張をする人もいることから、女性自身の偏見を取り除く取り組みも必要と思います。
女	60～69 歳	男女平等とは？男は男の人の仕事があり(体力的にも)女は女の人の仕事があり、それぞれ足りないものを補って社会は成り立っていますので、私の娘との考えと私共は、少々所か大分考え方が違います。娘のほうが人間として自立しているのかなーと思う時もあり、又私のほうが～と思う時もあります。職場での仕事は、女性の方が男性より、よく、まじめにやるのでは？
女	60～69 歳	私は、仕事でパート等したことが無く、社会の仕組み等詳しくありません。最近ではテレビ、新聞等をよく見て社会の状況を知るようにしています。
女	20～29 歳	・育児休業が取りにくい(長期)民間はそういう慣習が強いと感じる。・男性の育児休業が取れない。社会認知が低いと感じる。・経営者等に男女平等の啓発を行なっても効果があるのか?と思う。やはり、制度や法律で決めたほうが良いと思う。
女	50～59 歳	役所、学校などでは少しずつ整ってきているのですが、民間では全く変わらない。射水市も本気で考えるならば、企業別に従業員にアンケートを実施し、企業への改善を求めれば良いのではないのでしょうか。実態を把握せずに改善など出来ないでしょう。
女	40～49 歳	私は、今でいうモラハラ、DV に 10 年 1 人で耐えてました。面倒なこと、家のこと、地域のこと、育児、介護(夫の祖母)全てを私に任せ、自分の顔を潰すなど……。3 年子供と逃げ回り、離婚は去年ようやく成立しましたが、自分のしていることを理解できていないままだと思います。こういう人がきっと沢山いるはず。夫が強い、男のほうが収入が多い。大きな間違い、勘違いの上で成り立っている暴言、暴力、夫婦間だと犯罪じゃないというのはおかしいと、もっと世間～認識を広め、今も我慢している犠牲者を少なくしてほしいと思います。
女	70 歳以上	私は退社して 20 年経っており、現実的に考えることが少なく、申し訳ありませんが、私の意見は的を得ていないと思う次第です。
男	60～69 歳	昔から、男は外に出て生活費を稼ぐ。女はそれを生活の中で上手に使う。これが家庭の経済であったが、戦後生活が多様化、華美になり、これを経済的にフォローするために女性が働くようになった。この為、主が男性、従が女性という考え方が強いと思います。これが現在の社会溝になっている。これは制度と形から変えていく必要がある。制度の充実と、各ポストへの女性の積極的な登用など、人口の 1/2 は女性であることを忘れないように！！
女	60～69 歳	「男女共同参画」というと、社会での女性の権利をより強く主張することに力が注がれるように受け取られがちです。しかし、「男女共同参画」が円滑に実現されるためには、受け入れる社会の心の基盤が必要であると思うのです。・アメリカやドイツ等、テレビ画面に登場する世界の女性のリーダー達は、困難に立ち向かう勇気や人々を正しく導こうとする判断力、人を受け入れる懐の深

		<p>い度量を持ちあわせているようです。女性は、あのように育つことができるのですね。・私は、すでに退職しましたが、私と一緒に働いた職場の女性の上司の中には、真に頼れる上司もありました。深く理解する力、公平な判断力、部下に思いやりを注げる心、職務への情熱等…安心して身を任せて働くことができた一方、そんな女性の上司はきわめて少なかったように思えます。・〈子どもの頃からの学校教育〉なぜかと考えてみましたが、正しい社会を協力して作ろうとする共同参画の意識は、教育で培われるのではないかと。</p> <p>【ア 体験】男女が、学校でのいろいろな体験を通して、堂々と考えを出し合い、共に困難を乗り越えることを通して培われるのではないかと。</p> <p>【イ 道徳(心の高さ)教育の充実】その際、道徳教育は抜いては語れないのではないかと。互いに思いやりをもち、偏見のない寛容な心を養うことが、社会のために協力して尽くす心の基盤となると思う。</p> <p>【ウ 言葉遣い】今すぐできる大切なことは、子どもたちの日常の言葉遣いを丁寧にすることではないかと。第一は、「〇〇君、〇〇さん」と「くん・さん」をつけて男女が互いに尊重して呼び合えること。〈地域への啓蒙〉女性自身も自らの識見を高める努力をすべきではないかと。「雌ん鳥が騒ぐとろくなことがない…」と巷で言われることがあるが、未来を託す子どもたちを育てている女性の教育ほど大切なものはない。エネルギーのある社会を築くために、「男女共同参画」は大切なこと。『その基盤となる男女の心(正しい判断力、人への思いやりの心等を育てるための地域への啓蒙活動があればいいのではないかと。理想を述べてしまいました。悪しからず…。』</p>
女	70歳以上	300人くらいの会社にパートで働いています。7:3くらいで女性が多いです。私は70代で清掃の仕事をしています。PC関係の会社で、若い人が中心なのですが、男女平等や共同参画の計画参入以前の家庭でのしつけや社会でのマナー等をもっと勉強してほしいと思います。基本ができていないのに……。
女	50～59歳	家庭内の家事分担が平等でないと、社会の見方(男尊女卑)も変わらないと思う。女性管理職が少ないのも、不平等だと思う。
女	50～59歳	男性と女性とはそれぞれ良い部分があるので、平等だから全てが同じという考えではなく、それぞれが職場や地域、家庭での立場において相手を認め、お互いを思いやることができれば、当然能力を発揮できるようになるのではないのでしょうか。
女	40～49歳	家庭、社会、地域におかれている女性の立場(わが身)を常々自覚し、少々のことからでもよいので、変わる意識を常に持つ。異端児ではない、人に溶け込んでの寛容性に富んだ、現実になじむやり方。
男	60～69歳	社会全体の倫理観の欠如。公立結果主義の考え方が他人を思いやる気持ちをなくしていると思う。
男	70歳以上	女性自身が社会に参画する意欲が乏しい。
女	50～59歳	家事の全てを引き受けても、育児の全てを引き受けることは男性には出来ない。男も女もなく協力せねば生活するという事は難しいのだということを経験するのは、学校ではなく過程であると思う。性差による能力の違いはあっても、同じ人間であるし、個人個人尊重されねばならないということを経験するのは、学校であり、また家庭の家族からであると思う。小中学校の時代から是非教育してほしい。そういう力にある家庭を作ってほしい。今の時代、す

		ぐに「個」にこもって、弱いところ、楽しいこと、嬉しいことなどお互いに見せ合うことが無い。それはお互いから学べない。人は人と交わり成長していく。人を変えるのは人なんです。新しい時代に男性も女性も協力し合えるものがあるよう、祈っています。
女	40～49 歳	”男女平等”と言いながら、いつまで経っても男尊女卑が根深く残っている社会のままだと感じます。
女	40～49 歳	以前勤めていた職場では、男性と同じ意見を述べたとしても発言者が女性の場合「女のくせに生意気」という理由で却下されることも多かったので、まだまだ本当の男女平等という域に達するのは難しいと思います。社会全体で意識が変わる日が早く来ると良いと思っています。【ご担当者様：お世話になります。射水市に越して来てまだ日が浅いので以前住んでいた神奈川県で感覚で回答させて頂きました。よろしくお願い致します。】
女	30～39 歳	①男女共同参画推進事業として、よく女性のためのとか、女性対象のものを多く行なっている印象がある。それだと女性の社会進出・復帰は促せると思われるが、男性は仕事のみ女性の仕事と家庭両立となり女性の負担が大きくなり結果として社会進出・復帰をあきらめる女性が多くなってしまおうと思う。なので男性(特に若い世代)を対象とした活動、例えば男性が家庭と仕事を両立する意識を持つためのセミナーなどを行ったり、現在の男性管理職の人が、部下が家庭と仕事を両立する事に対しても偏見を持たないように働きかけたりすることが必要だと思う。②育児・介護サービスをもっと充実させることは重要だと思う。特にヘルパーなどは必要だと思う。育児・介護に限らず、ちょっとした家事手伝いサービスも、もっとあると良い。業者が増えれば利用する人も増え、費用も下がり、さらに利用者が増えて助かる。手伝いサービスの利用により共働きの核家族への負担も減り結果として男女共同参画が進むと思われる。
女	60～69 歳	私達の地域では女性の立場を尊敬され本当に大事にされていると思います。これからも続けていただくことをと思います。職場では年齢の差で平等ではなく、大きな差があります。これは改善を希望したいです。
男	30～39 歳	「女性だから」といって本音(本気)で意見を聞かなかつたり、家庭内でも言葉の暴力などでストレスを感じている方は、現在でも多数いると思うので社会的にもシッカリとしたサポートで支えてあげて欲しいです。しかし中には逆に女性の方からの暴力(特に既婚者)を受けている男性も居て、誰にも相談できずに苦しんでいる人も居るのが現実にあるので片寄った物の見方をしない様に、それこそ「平等」にサポートして欲しいです。理想になってしまいますが、取り組んでもらえるのなら「より良い社会作り」をお願いします。
男	50～59 歳	「中学・高校時代、運動会では団長が男、副団長が女とか、応援団長が男、応援副団長が女という風に役職に対し性別が固定化されていた。別に団長が女でも良い、応援団長が女でも良い、なのにその様に役職が固定化されているのは女子生徒が主導権を握られない。この時点で既に性差別は始まっている。」と息子が言っていた(現在大学生)。学校教育の現場に「子供達の意識が後に日本社会のイデオロギーをつくる」という意識が足りないのでは?まずは教育現場にあまり性差別の原因となりかねない要素を全て払拭し、男女平等の理念を子供達に叩き込むべき。イデオロギーを変えずして社会構造は変えられない。とも本人が言っていました。

女	60～69 歳	・各地域の行事(各自治体)が多すぎて参加しにくい場合が多い(半ば強制的な行事が多い)。 ・日中どこへ行っても、お年寄りが多いので、そのパワーの活用場所を利用する機会を作って欲しい(例えば、困っている人の相談に乗るとか、近所の家の草むしりをしてあげるとか)。
男	60～69 歳	段々婦人会の活動が減ってきています。もっと婦人会の働く(出来る)事を昔のようにもっと多くの人を婦人会に活動できる様に。
女	60～69 歳	いつも暗いニュースばかり。子供の教育がすごく心配。学校・地域等で犯罪・事故の無い明るい町づくりに強化していきたい。
男	70 歳以上	・男女とも事なかれ主義のような空気が！ ・互いの特徴を認め合い伸ばしていく社会造りを望みます。
男	60～69 歳	職場では所管官庁の常例検査がありますので男女平等の扱いは名実に違和感無く定着してしまっただけ。しかし、居住地の自治会や地域活動では男女共同参画社会は程遠いように感じられます。行政が男女共同参画に関するアクションプログラムを作る際の提案ですが、男女共同参画を定着させる誘導策として例えば自治会組織構成(役員)の半数を女性登用した場合や自治会長に女性を登用した場合に助成金を手厚く交付するなどして優遇したら如何でしょうか。
女	40～49 歳	嫁は家の者のために尽くすもの、という考え方や慣習が定着している為、積極的に社会に出て活動することは批判されがちである。自分自身も外に出て活動する事に後ろめたさを感じてしまう。ボランティア活動なども、もっと参加したいと思うし多くの人々と交流し、学び合いたいと思うが、なかなか出来ずにいる。
女	50～59 歳	日々生活するだけでも大変なのに、そういう事を考えてる時間はありません。年をとると採用してくれる企業、会社なども少なく家族が病気で通院に付いて行くこともあり、それを言うと余計に採用してくれる所も無く。このアンケートは理解しにくく、答えも答えにくい(当てはまらない)項目が多くて、アンケートの結果はおかしいものになると思います。
男	30～39 歳	積極的に話し合い等に参加したい。
女	60～69 歳	年代で男女平等についての考え方に大きな差がある。若い方は一緒に協力して育児、家事、仕事をする事に違和感を持っていない、当然であると言う考え方が見てとれる。50代以上の人達には、女性に対して対等・協力者であると言う事が少なく、都合のいい使用人(言葉は悪いですが)、上から目線的な思いで見られている事が多いのではないかと…。
女	18～19 歳	子供を産んで仕事を辞めた後、再就職したくてもサービス業だと土日限らず働かなくては行けないし、そうすると子供に寂しい思いをさせてしまうからと働きたくても働けないお母さんが多くなっていると思う。誰にも相談出来ずに一人で苦しんでいるお母さんが一人でも減って欲しいと思う。お母さんを見て子供は育つと思うから。
女	50～59 歳	男女は根本的に違うもの。価値は同等であることが前提。男女平等という単純なことではない。互いに尊重、理解すべき立場。人間創造された神様、宗教性をプラスしないと平等の意味を間違えることになる。背後に神様がいらっしゃるから人間は尊い存在。
女	50～59 歳	日本は男女平等という言葉は現実難しいと思いますが、今後男女平等に近い形になっていけばいいのかなと思います。

男	60～69 歳	掛け声だけでなく、積極的に活動し住民に情報提供していけばどうでしょうか？
女	60～69 歳	地域の行事やボランティアに参加するのは高齢な女性ばかりです。それこそが男女不平等ではないのでしょうか？特に 60 以上の男性。また企業、病院等でもまだまだ女性は弱い立場だと思います。家庭でも企業でも、もう少し意見を取り上げてほしいと思います。
女	30～39 歳	女性に対し、選択肢を沢山提示する事も大切とは思いますが、何より男性がそれを認められるように意識を変えてくれることが一番だと思います。以前勤めていた会社では、30 代の女性は結婚・出産をするかしないかが問題でなく、する可能性があるという為に、必ず採用されないということがありました。男性リーダーの意識改革が必要だと思います。まずは、更にトップにいるような方が、育休を取ったり、介護休業を取ってみられるのが良いと思います。
女	60～69 歳	日頃あまり男女平等など意識しないので、若い時から職場や地域などで講演や研修会で耳にしていれば、家族の中でも色々協力できたかなと思います。
男	30～39 歳	設問が、「こういう答え」がほしい、ありきを感じた。
女	60～69 歳	地域では、女性が陰役する事が目に付きます。
女	60～69 歳	地域活動において、積極的に参加。色々な人々とふれあう。週 5 日間は汗を出し、スポーツ。
女	30～39 歳	男性も育児休暇をとれるような、むしろ取らないといけないような制度や環境づくりが広がれば良いなと思います。育児の大変さを経験する事で、仕事に生かされるメリットがたくさんあることを、企業の経営者や管理職の方々の意識改革が急務ではないかと思えます。
男	60～69 歳	青年団、消防団、婦人会という組織があったのですが、参加する人が少なく弱体化しています。テレビが悪いのか、職場が忙しいのか、利己的なのか、古臭いイメージで入りにくいのか分からないが、組織活動を細めに展開できればいいと思う。その中で共同参画を考えたら・・・。婦人会に男も入れるのかな。消防団に女の人がいるようになる。老人クラブは活発ですね。昔の人はなぜか活発だったです。
女	40～49 歳	公的な職場で働く人には男女平等が守られてきていると思う。けれど、一般の職場ではまだまだ。出産をして職場に戻ると仕事なくなっている事もよく耳にする。これでは子供を産み育てたいと思う女性が減るのも当然かと思えます。
男	60～69 歳	【社会生活（集団）での】・男の役割・女の役割・共同の役割の学習を、家庭と学校で教える。（例：権利と義務・自由と責任・人間としての節度・社会生活の節度）
女	20～29 歳	問 10 育児短時間勤務制度を取れなかったので退職しました。（産休後、パートになりたいと言ったところ、じゃあ辞めてほしいといわれた）
女	30～39 歳	女性の育児は必要だと思う。だが、仕事をし、子供を保育園に預けることになるが、”保育料の値下げ、もっと国で負担をするべきだと思う”。そうすれば、女性も仕事をすこし短時間に出来、育児に専念できる部分がでてくる。やはり、育児+仕事+家事は大変だと思う。
女	50～59 歳	すばらしい病院にいくと、どんな性であろうと人格であろうと、あたたかく接して下さいます。（窓口でも何処の担当でも）。その姿を見て有り難いなあと

		思います。根本として、人としての有様が大切だと気づかされます。住んでいる地域では、女性として体力的に大変だろうからと気遣っていただいている部分もあります。お互いを思いやり、良さがどんどん生かされ、認め合える社会になればと思います。
不明	40～49 歳	今後は女性の時代になっていくと思います。
女	50～59 歳	男女平等といわれていますが、“男性ならでは”、“女性ならでは”の部分もある仕事、内容もあると思います。何事も家族と話し合ったり、お互い協力し合うことで役割分担していけると思う。社会の中でも偏見を持たず、素直になれば話し合いが出来る様にしてほしい。大人になると、子供のように自然体でいられなくなることが増えますね。何事も協力し合い、“ありがとう”が思える心が育つといいですね。
男	60～69 歳	根本的に、男女の体のつくりが違う！ので全てにおいて平等とはならないのではないか！ある職種には男女共差は無いのであろうが、肉体労働に対しては、出来るものと出来ないもの（もしくはしたくない労働等）が必ず生じてしまいます。それを全て平等に考えるのは無理である。また、それを除くというのは誠におかしい。矛盾の極みであると思う。
女	70 歳以上	このアンケートは、もう少し若い人を選ぶべきだと思う。私達は男女平等の時代より、男の人がもう少ししっかりと家庭を守る人間になってほしい。社会の現状が悪いのでは！！世の男性たちはかわいそうな気もするけど！！
男	40～49 歳	全ての女性が望んでいるとは思わない。
女	40～49 歳	男女平等やら女性の働き甲斐のある職場作りやら、女性管理職を増やす傾向に私の会社でもあるが、能力があり、やりたい人はやればいいが、家庭を大事にしたい人もいると思うので、そんなことばかり言って欲しくない
男	50～59 歳	人それぞれ
女	40～49 歳	射水市において、男女平等という言葉は知っていても、地域性や意識の中で、その認識は薄いと感じます。それは男性が女性に、日々の生活において求めていることもあるし、女性もその中で生活をしていることの窮屈さもあると思う。平等と言っても人によって捉え方が違うため、理解をして認識するには、大変時間がかかると思う。
男	70 歳以上	特に女性の方は、引っ込み思案にならず、堂々と意見等を述べてもらいたい。
女	20～29 歳	男性の男女平等意識がまだまだ低いことは言うまでもないと思います。特に 50～70 代の男性に多いと感じます。しかし、男女平等をはき違えている女性労働者も多すぎるのではないのでしょうか。どうしても子供が父親でなく母親を必要とする機会があったり、女性自身が家庭を優先したいと考えることがあったりするのですが、「家庭を優先するのも当たり前、その上で職場でも平等に扱え」というのは無理があります。女性自身の考え方の見直しも必要だと思います。そして、それぞれの望む働き方に近い働き方を選択できる社会になるといいと考えます。
女	70 歳以上	・男女共同参画の提唱から、もう年数を重ねて久しく、いまだに差別と思われる事象が見受けられるという事の一因には老世代と同居の家庭にあるように思われ、特に地域への参加に消極的である。・未成人(年)者の犯罪が増加している事に懸念を持つ、原因は何処にあるのか?携帯、スマホ等の所持、夜間遅い時間帯の外出に対し、両親・地域がもっと関心を強くして頂きたい。

女	50～59 歳	女性が働き続けるということに対して様々な障害があると思います。それぞれの家庭のスタイルがあり、全てが同じ条件ではないと思います。そんな中で、いかに社会の取組みが全ての条件に合うものとなりえるものか疑問に感じます。何から改善されるべきなのか。問題は色々ありますが、これからの次の世代を担う子供達のためにも出来る限りの協力をしていきたいと思っております。
女	70 歳以上	アンケートなどで市民の意見を聞き、参考にすることは必要だと思います。意見を聞くだけにとどまらず、生かしてもらえる様よろしく願いいたします。
男	40～49 歳	男女共同参画に対して、敏感になっている人達が騒いでいるように感じます。聞き流す能力も備えてこそ、男女共同参画と言えるのではないかと！
女	40～49 歳	公務員は何の問題もなく、産前・産後・育児休暇をとれるが、民間はそうはいかない現状がある。それら社会、企業の体質や慣例を改善していくことが必要。
女	40～49 歳	問 18-2 一般的な感覚と離れている上層部、女性議員が多い。
女	60～69 歳	考える機会を頂き、ありがとうございます。平成 19 年～28 年度の長い時間が重なっていると思うと、大変な作業だと思いました。特に子供の教育についてですが、第二次基本計画の策定に向けてとありましたが、試験的に子供達のアンケートを取るのも、現状確認の為に必要があるのかとも思いました。特に男女平等やお互いを尊重しあう事について、小中高生が思っていることとは？各年代において格差が出るのは当然だと思いますが、実際の声を聞いてみても良案ではないでしょうか。射水市の益々の発展を祈る市民として、万民が明るく健康で生活できる元気な市となっていきますように。
女	70 歳以上	男女共同参画のPRとして、公民館まつりなどの劇化公演は全くナンセンスであり、理解に苦しみますし、不快です。
女	40～49 歳	職場での女性の育児休業等は、定着してきたと思いますが、男性は利用できない会社の仕組みがあると思います。働き方に所得や出世などのバランスが取りやすくなると有り難いと思います。そのために、自分が出来ていないのですが、子供～お年寄りまでの意識を変えていく活動やシステムが必要なのだろうと思います。
男	60～69 歳	男女平等、男女共同参画、大変良いことであるが、社会の中で男性でなければならぬもの、女性でなければならぬものもあると思います。男女平等男女共同参画が強調しすぎても、よくないと思う。
女	70 歳以上	70 歳を過ぎましたので、夫婦で今住んでいる町内で静かに 2 人で趣味などを過ごしたいと思って居ります。町内も若い人ばかりなので助かります。これからは本当に静かに 2 人で過ごしたいと思います。
女	70 歳以上	私は今で働いた事がないので色々な事はいえませんが、これからの若い人達、孫たちは大変だと思います。この歳になると、これからは介護、医療施設とか老人ホーム等には関心があります。
男	70 歳以上	1 ページ目の調査項目 (案) の「(案)」とは何か？
女	40～49 歳	男性の方は、「家」は女性がする事なのだと思う。家事全体は女性のもの！なのかな？それでは 1 人になった時かなり困るだろうと思うけど、しょうが無いことを愚痴ってもしょうがない。男性は女性よりもわがままだというのは (家事を手伝わない男性) どの男性を見てもいえませぬ。

男	40～49 歳	基本的には、女性は家庭という考え方です。女性が働かなくても良い、男性の賃金体系や社会的な仕組みが必要。家庭において育児や子育てにもっと注視する（夫のサポートももちろん必要）。少子化対策にもなり、社会的なバランスが今までのように戻る。男女共同は必要ですが、適正な役割はあり、それを尊重する社会の仕組みづくりが必要と思う。
女	70 歳以上	※本人の希望にて妻が記入
女	30～39 歳	論点から外れますが、市役所機能を見直してほしい、大島の延長時間にいけるのは嬉しいけれど、思う手続きがとれないのは如何なものか。例えば、健康保険の切り替えなど時間内に行けない場合、せっかく再就職した会社に総体や休日は取れないのが実情。せっかく延長時間があるのなら、全ての機能をさせるべき！富山市は CIC でその機能が利用出来る。 またどうしても女性が子供を産み育てるのなら、そのケアはあるべき。結婚を、出産を理由に退職というパターン（そうせざるを得ない暗黙の了解）がありすぎる。育児、保育施設もとても気になる。安心して子育てが出来ない社会だったら、しかも不景気。創人だけの社会に未来は乏しい。子供を産みたいと思う得る社会にしてほしい。女性は子供を持ったらパートしかないの？育休のある会社はきちんと取れるの？（育休が取れないとするのも法律の改善をすべき）そして男性も、育児、介護に参加すべき。その意識も啓発すべき。机上の空論に終わって欲しくない。アンケートは活用してほしい。日本のため。そのためなら、幾度でもアンケートに参加します。是非改善してください。
男	60～69 歳	働く上に於いて、男女平等の確率をあげていくには、各企業との対話が重要と考えます。
女	50～59 歳	女性が社会に出て行くには、やはり家族の協力、特に男性の理解が必要だと思います。又、女性同士でも、未婚か既婚か、さらには子供がいるいないで立場がかなり違ってくると思います。単に女性の割合を大きくするよりも、男性が女性の立場を思いやるのが大切です。環境を整えば、女性が社会に進出しやすくなるはずだと思います。
女	70 歳以上	地域活動に参加する気持ちはあっても、高齢者になり身体が思うように動かず、先行きが不安になります。
女	70 歳以上	70 歳ですが 4 時間のパートに行っています。皆一生懸命に働いておいでます。仕事に行かなければと、気持ちが毎日張り合いがもてます。お金ではありません。年をとってでも、世の中の為になっていると思うことが幸いです。
女	50～59 歳	このアンケートの質問の答えを出すのは少々難しかったです。子育ても終わっているし、30 年前と今は子供達の育て方も違っています。年齢別にアンケートを取って欲しかったと思います。問 8 から問 11 は特に子育て中の方のアンケートだと思う。
男	70 歳以上	地域・男女平等や男女共同参画について：地域ごとの町内会や自治会は、児童部と婦人部の活動を色々な面で強化して、児童育成の為に子供の頃から平等性、人間性、共同性を意識するように協力して指導する事で、将来の社会は自然体で形成されるのではないと思われる。※先は長い《ゆめ》を持つ事も一理だろうか?※ちなみに、私が現住所に移住したのは、S51 年で、妻と子供 2 人の 4 人家族でした。当時の町内会長は正統派の誰にも公平かつ平等に町民の意見を受け入れて、平和的な存在であり、町内のことにはよく協力したもの

		<p>です。子供がいたので、児童部活動をしていた年の夏休みの行事で、近くの中のお寺の敷地でキャンプを計画し、そのとき発想したことは、子供たちに人間の心を教えたくて、お寺さんにお願いをして、早朝全員にお経と説教してもらい聞かせたこと今思い出しました。その子供達が社会人となっても、あの時の説教は今でも忘れないといえます。今はその子供たちは45歳～50歳の親となり、真つすぐな心で人の道を進み、社会で重要なポストで働き、次の世代のことを考えていることだろうと思います。 ※共同体<共同参画> リーダーを必要とすれば、その人材は正統派であることが必須であると考え。一党支配的支配は民主主義を破壊する。 ※小さなことから皆で考えて行く事の出来る地域になりますように。行政の方々もがんばって下さい。</p>
不明	60～69歳	<p>これという解決策は無いと思いますが、今回は子供や孫たちの事も思い回答させていただきました。日本の行く末を思いながら、皆さんにはエールを送りたいと思います。射水市をよろしくお願い致します。</p>
女	60～69歳	<p>先日、政治家や一流企業のトップに立つ女性たちがテレビに出ていました。夫婦で収入の大きさや技術力、家事育児が得意かどうか、その都度問題が起きたとき良く話し合っ解決していくのは素晴らしいと思う。夫がサポートしてくれないと、才能があっても発揮されるチャンスが遠のきます。食事を作ってくれる人がいないと、健康を保てないし、上に立って活躍し続けることは出来ません。どちらも幸せであり続けることが大事です。理想的です。学校教諭や、社会に出てからも、生涯学習などで考え方をよい方向に行くようにするしかありません。私の周りの現実には、程遠い感じがします。</p>
男	20～29歳	<p>差別はそれほど多くないと思います。昔の話よりは全然良いと思います。少し贅沢をおさえれば、ほとんど問題はなくなるのではないのでしょうか。結局自分自身の思い、考え、努力だと思います。</p>
男	18～19歳	<p>男女平等は大切だが、男尊女卑の改善が行き過ぎて、女尊男卑になっては本末転倒なので、人の「本質」を重視した社会になってほしい。したい。</p>
女	30～39歳	<p>3年前に離婚して、地元の新湊に戻り3年になりますが、子供が今は高校2年、中学3年、小学6年の3姉妹がいます。経済的に手当てなどが当たりますが、大変です。授業料は高岡のときは給食費のみでした。射水は、一学期、二学期、三学期の終わりに戻ってきますが、月8万の時はずっと大変です。子供たちには苦勞や辛い思いをさせまいと、がんばっていますが、経済的なことを考えると、自分の母と心配になります。高校の子供には本当は専門学校に行きたいが、経済面から就職の話もしました。医者に関しては本当に助かります。でも大変ですが、過去には辛い思いをして離婚をしたことには後悔していません。本当に住みよい射水で、より良い教育など、子供に良い環境になれば、本当に良いです。</p>
女	40～49歳	<p>今の時代、経済的な理由で、共働きの夫婦がたくさんいると思います。女性のほうが家事と育児をしなくてはならない状況で、日々時間に追われています。子供を持っている女性に対して、就業時間の短縮を考えてほしいです。一般社員は8時30分～17時30分だとすると、小学生くらいの子供を持つ女性は8時30分～15時30分、8時30分～16時30分などにしてもらえると、とても助かります。子供の宿題を余裕を持ってみてやれるし、夕食の準備なども余裕を持って行なえます。母親は1日24時間は足りません。36時間ほど必要です。</p>

		多くの女性たちの声です。
女	70歳以上	男女を問わず、自分に与えられた仕事をまじめに正しくこなしていれば、昇給や役職は自然と付いてくるものと思っています。
女	70歳以上	性別において、知性、器用性に富んだ女性は益々社会で活躍していくことでしょう。その反面、不器用な男性が不安。結婚しない男性が増えていることが心配！女性もですけど！ 問3：役割＝責任、ということで、あとは家族と協力する。役割＝”お任せ”ということで協力してもらえない感じがする。
女	50～59歳	男性女性問わず、その人の特性が活かせるような社会になればよいのでは？と思います。
男	40～49歳	昔は、学校、地域各々にコミュニティがあり、機能していたと思うが、学校は偏差値教育に偏重し、学習塾となり、地域は無関心が主流となり、人のつながりが希薄となってしまった。学校は同世代交流し、地域で多世代交流をする環境をもう一度整備するべき。学校が育児、保育、介護、祭礼に積極的に参加し、多世代交流を促進していけば、現在のような個人至上主義はなくなり、思いやりのある社会になっていくと思います。自治会に対しては、市町村が、もっと関わっていく事！同じ世代の狭い交流しかないため、利己主義や個人主義となり、社会に適応できなくなるのではないのでしょうか？性別だけでなく、幅広い世代での交流によるコミュニティ形成が社会の差別をなくし、住みよい思いやりのある社会になると思います。いろんな価値観にふれることが大切ではないのでしょうか？差別というものは現に存在しており、色々な点であると思いますが、基本無知から生まれる。それぞれの違いを理解する事が大切であり、そうした機会を作っていくことが、差別という間違った認識をなくし、違いによる適正な対応をしていくことにより、相互の扶助、ひいては生き易い社会になると思います。
女	30～39歳	子育てにおいて、男性の職場の理解がまだまだ足りないと思う。育児休業も前例が無いというだけで取れない会社が多いし、子どもの病気などの急な休みも、母親ばかりが取ることになり負担が大きい。父親も当たり前にとれるよう、社会の意識をもっと変えないといけなない。
女	50～59歳	戦中の教育の名残が、現代の各家庭や職場でセクハラやパワハラとなって問題を起こしているように思います。仕事をしている独身の男女が結婚した時点で男女平等ではなくなる。女性は仕事以外に家事が増え、出産後には子育てと家事、仕事復帰後は仕事、子育て、家事をすることとなる。男性は仕事のみである。女性の負担の多さに気づいてもらうために、男性には各家庭で家事、育児全般を行なう（最低1週間以上）男性の主婦体験休暇があれば、意識改革と男女平等社会の実現は早まるのではないかと。また、義務教育では学問や知識の詰め込む以前に、しつけや道徳（教科書の知識ではなく）を体得する事が、親子、先生、生徒、職場、地域の間関係を円滑にし、教養と社会性を持つ意欲的な人材を社会に送り出せると考えます。大人の道徳教育があれば、男女平等や男女共同参画社会にこだわらない社会が出来るとも考えられるのです。
女	60～69歳	地域行事等において、女性も計画等に参加できるよう、意見の交換が出来るようになると思います。色々な立場からの意見が、地域向上に大切だと思うので。
女	60～69歳	仕事、育児、社会参画等、配偶者によって大きく影響されると思う。（例：子

		<p>供を産めない女性は失格。出産したら家の中にいるべき。子供は母親が育てるのが当然。家族の為（病気、入院、介護など）、妻は仕事を持つべきではない。女は、夫に従うべき）信じられないような結婚生活でした。なので、大切なことは、男女それぞれの人格形成だと思います。互いに尊重しあえる人格の形成が、子供の頃からなされているべきです。ある女性議員に何度もお願いした件、反映されていないどころか、私の案が取り上げられているのかどうかさえ、何の返答もなしである。無視され続けている。市議会議員のモラルを疑う（もちろん一部の議員であるが）</p>
女	40～49歳	<p>「女性が家事をする」という、日本の古い考えを無くす必要がある。・限られた時間で細かな業務を幾つもこなしている女性のほうが、給料が少ない会社がまだまだある。女性の仕事が増えても、昔のように差をつけている、企業も社会も良くなる。男女平等とは表向きだけなので、もっと厳しく取り締まるべき。</p>
女	40～49歳	<p>男女、また人間一人ひとり考え方、感じ方、思いが違いますので、個々が生活や教育、育児、介護時に困惑したり、迷ったりした時に、相談し、解決できる窓口があり、またそれらを相談できるという場所の告知が、皆に知られている地域がいいのでは。男女の平等は心のゆとり、理解、助け合いから成るものだと思います。すいません、学の無い私の思いです。問18：意見を言っていないので、反映されるはずが無い。</p>
男	50～59歳	<p>問9の3：女性に重労働できますか？そこが劣る。問14：綺麗事で人生・夫婦は生きられない！但し、暴力反対！問18-2：社会意識（平等）が醸成されていない。</p>
女	60～69歳	<p>まず、義務教育から男女平等を教えてください。</p>
男	70歳以上	<p>子供の将来に対して、母親の力が強くなり、父親の意見があまり力にならなくなってきているように思う。</p>
男	40～49歳	<p>男女平等、不平等とかは無いと思う。男には男にしか出来ないこと、女性には女性にしかできないことがあり、特に世の中不平等とは思わん。共同参画は必要。</p>
女	60～69歳	<p>男性、女性は生まれながら、それぞれの特性を持っていると思う。平等とはイコールではないと思う。それぞれの特性を尊重し、自らの特性を充分に発揮できるような社会作りを行なうのは賛成です。問13：個人の資質、能力に関わる事で、特に女性を増やすとか、そういう問題ではないと思う。</p>
男	40～49歳	<p>問18-2：男性の意見も、それほど反映されているとは思わない。</p>
女	18～19歳	<p>法律だけでなく、人々の意識を変えられるような取組みをして、平等な射水市を築いてください。</p>
男	50～59歳	<p>・女性は仕事がきれいです。・女性は正直です。・女性は社交的で明るい人が多く、筆まめで字がきれいで、花が咲いたような職場です。・男はうぬぼれ屋が多く、いばってばかりいる。自分よりレベルの低い人間と見るや、悪意に満ちたいじめをしてくる。・自分は様々なことで女性に助けられています。か弱い女性をみんなで助け合っていける、社会つくりをしましょう。毎日楽しく幸せに暮らしましょう。射水市最高やちや。夏野市長バンザイ</p>
男	60～69歳	<p>今回のアンケートの回答項目について気になる点があります。女性自身に問題あり、と感じる項目があることです。</p>

女	70歳以上	家庭における男女平等は、現在の若い核家族間の中に相当浸透してきており、我々の若い頃とは考えられないくらい、協力して支えあっているのが見られるが、社会的にはまだまだ女性の能力を認めない体制と考える。女性は男性の数倍の努力と結果を出し始めて認めざるを得ず。結果的に認めて、ようやく社会的に認識させている（自分の経験から）。やはり幼少よりの家庭、家族、職場、全ての教育！
女	30～39歳	まだ男女平等ではない気がします。
女	40～49歳	育児や介護（病気や障害も）が、女性がすべきことという考え方が根強いのに、女性の社会進出が進んでいること。どちらも間違いではないので否定はしないが、やはり負担が大きいのは事実。自分でも分からないが、その原因、解決策（改善）を行政で考えてほしい。
女	20～29歳	男性だから、女性だからというよりは、関係なく個人の能力や適正で判断してほしい。制度もそうだが、考え方という面で、男性は、女性は、という部分もあると思う。男性の考え方だけでなく、女性自身の考え方としても。
男	60～69歳	男女平等を、男が理解し、共に考えることが重要
男	50～59歳	子の質問に合っているか分かりませんが、学校教育でのうわべだけの平等の押し付け、社会に出れば弱肉強食、不平等当たり前、それに耐えられる教育は出来ないか。学校のことは出来るだけ先生生徒で行なう。親、PTAなどはサポート、最低限のことをしてもらえればいい。何でも頼るから、勘違いな親が出てくるのではないですか。学校は先生と生徒のもの。自分たちのことは自分たちです。
女	30～39歳	「初の女性管理職をおきました！」これは個人の能力によるものなのか？平等をアピールしているだけなのか？だとしたらこの女性管理職員に大変失礼である。私は以前、市の職員であった。職場は完全な男社会。上司は、子供を産む女性は要らない。子供を産まないおばちゃんがいい。女は2人で1人。という考えの持ち主で、がまんして働いてきたが、去年ほとんど嫌気が差して退職。今は別の職場で好きな仕事をしている。同じ職種でも、職場が変わればこれほど働きやすいのかと、今は退職してよかったと思っている。市長さん、あなたの部下、射水市職員の中にこのような体験をした者がいるということをご確認ください。足元を見られたらいかがでしょうか？ 問13：質問自体が不平等である。職業にかかわらず、平等を求めます。
不明	不明	個人的にですが、妻はH20年になくなりましたが、29年10ヶ月かけてきた年金が0になりました。（遺族年金一時金）。制度はあるが、せめて七回忌までは、なんらかの制度が必要なのではと思っている。男女平等ならば？
男	20～29歳	富山県は大変良い県だと思う。しかし学力は高校までは全国的に高いがスポーツも含めてなぜか弱いのは右ならえの県民性で、少しでも人と違うとあの人は変と言いつすから伸びない。他県より入県したので全然違うと思うことが多い。
女	40～49歳	私の職場では日頃不平等感を感じたことはありません
男	70歳以上	お知らせいただくまで全く忘れておりました。大変申し訳なく思っております。
女	30～39歳	制度がいくら素晴らしいものが出たとしても、結局は個人個人の考え方によると思う。先日ふと思ったのは女性が利用できるサービス（美容室やカルチャ

		一スクール等) に託児所があるのは見るけれど、男性が利用するようなものにはないということ。夫に話したら「当たり前でしょ」と笑われたけど、そういうところがあると休日などでもお互いあまり気を使わずに外出できるのではないかと思う。話はそれだけれど、個人の考え方が“男性は仕事、女性は家を守るもの”ということが多いので家庭の中から、子どもが小さいうちから家事を分担する姿を見せるなどして、意識を変えていかなければならないのではと思う。
女	40～49 歳	女性は出産すると、子どもを見てくれる人、施設がないと仕事を辞めざるを得ないと思います
女	60～69 歳	男女平等以前の問題よりも、女性の職場での「いじめ」や「仕返し」「女性の仕事ぶりの評価の低さ」「経営者のワンマンぶり」「責任の他者への転嫁」等があります。多分女性のみでの少人数の仕事場であるが為、男性が居ない為働いている者が経営者に対して意見を中々言われたいのかなあとは思っています。
女	70 歳以上	男性の特に昭和 1 桁の人達は男女平等という観念が大変薄く、女は家庭の事も職場も完璧を望む事が強い。当たり前と思う人が多いようだ。”残念” 変わってほしいものだ。
男	70 歳以上	アンケートを取っても実施されなければ意味が無い。※形式だけの物で終わるのであればアンケートをとる必要が無い。アンケートの内容を全部実施しようとしても出来ますか!!※重要事項を数種選択し、実施時期を決め、具体的に実施し、実績を上げる事が大切だと考えます。※を是非実施してもらいたいです。
女	70 歳以上	個々の生活の安全・安心があってこそその事です。又、何をすることも健康になる食生活が一番大切に楽しみです。あつと言う間に高齢となり、もっと交通機関が土・日曜日でも多くなり便利に(今より)なれば生活がし易く、皆が理想的な社会に近づき明るくなれると思います。理想的な間はもっと次の世代交代をして若い人達の事だと思っています。日々の生活でやっとなかなか時間が掛かります。
男	70 歳以上	オレオレ詐欺や必ず儲かる等言葉たくみに騙しとる輩をばいこる社会を無くすには御苦労な事だが民生委員と警察の生活安全課が一軒一軒完全に各種手口をビデオで説明して回る事が大事です。射水警察署へ行って申し込もうとしたのですが門前払いで取り付くシマもありませんでした。私が昭和49年に開店した後、地域課の警官かと思いまちが何度も来店して家族構成から何をしているか詳しく調査に来たものですが、35～6 年前から全然ご無沙汰です。ラジオ、テレビ、新聞で何回も知らせたり、各会合で説明しても、そんな事は自分と関係の無い事と聞き流しているのです。じっくりと腰を落ちつけて一人一人に説明するのが大事です。それでも騙されるのはおかしいです。
女	70 歳以上	家庭での女性の時間が多く取られ男性の協力無しでは難しい。又色々な場所等では男性中心として企画されていて参画が補助的な所が多いと思います。
男	40～49 歳	女性が結婚して出産したのちの育児休休暇が前提となる存在なのは否定できない事実。職場からすれば、女性が要職に就く場合には育児休暇による就業の中断が障害となるケースが多いため、なかなか女性が要職に就けないのだと思います。
男	20～29 歳	あまり女性の居ない仕事ですが、女性でも出来る事はあると思います。ただ、女性が建設業に積極的に興味を持ったりする機会が少ないと思う。また私には

		無理と言われると、それ以上何も言えないと思う。まず仕事自体射水市は少ないので、建設業での男女共同はなかなか難しいのでは？と思う。女性の現場監督などの決まりなどがあれば話が変わってくるような気がします。
男	60～69 歳	男女平等、男女共同参画大賛成です。
女	40～49 歳	だんだん男女平等になってきている。どちらかと言えば女性の方が強くなってきている。男性が弱くなってきている。